

主査	竹内 徹	(日本構造家倶楽部)
委員	新谷真人	(日本構造家倶楽部)
	伊藤潤一郎	(日本構造家倶楽部)
	金箱温春	(日本構造家倶楽部)
	小堀徹	(日本構造家倶楽部)
	佐々木睦朗	(日本構造家倶楽部)
	多田脩二	(日本構造家倶楽部)
	中田捷夫	(日本構造家倶楽部)
	満田衛資	(日本構造家倶楽部)
	小澤雄樹	(芝浦工業大学)
	川口健一	(東京大学)
	原田公明	(日建設計)
	安藤顕祐	(日建設計)
	浜田英明	(法政大学)
顧問	難波和彦	(近現代建築資料館運営委員)
	桐原武志	(近現代建築資料館)
	藤本貴子	(近現代建築資料館)
	藤井愛	(近現代建築資料館)

1. 調査の背景と目的

2. 調査方法の概要

3. 我が国の建築構造のあゆみと構造技術の系譜

4. 本年度調査対象者の構造資料所蔵調査結果

4.1 佐野利器.....	20
4.2 内田祥三.....	26
4.3 内藤多仲.....	30
4.4 武藤 清.....	39
4.5 坪井善勝.....	53
4.6 坂静雄・棚橋諒.....	61
4.7 横山不学.....	83
4.8 松井源吾.....	93
4.9 松下富士雄.....	111
4.10 木村俊彦.....	125

5. 構造資料のアーカイブ方法に関する提言

6. 次年度以降の調査方法の提案

7. 総括

付録 会合議事録

17 世紀まで建築物の設計は主に建築家という職能により担われ、エンジニアリングはその中に内包されていた。Architect の語源が技術(tekton)を統括する(arkhos)であることもその性格をよく表している。しかしながら 18 世紀の産業革命後に鉄や鉄筋コンクリート (RC) という新しい構造材料が現れると、従来の伝統構造をベースに様式に基づく設計を行ってきた建築家とは別にこれらの材料を駆使した建造物を実現する構造エンジニアという職能が成立するようになった。こういった初期の欧州のエンジニアには橋梁・鉄塔の G. A. Eiffel (仏)、RC 構造の R. Maillart (スイス)、シェル構造の E. Torroja (スペイン) らが挙げられる。引き続き 20 世紀以降、欧米では P. L. Nervi (イタリア)、F. Candela (メキシコ)、F. Otto (ドイツ)、R. B. Fuller (米)、O. Arup (英) 等が現れ、鉄・RC に加えケーブルや膜を用いた新しい構法を編み出し、建築家と協働しながら建築デザインを構造面から設計する構造家(構造エンジニア、構造設計者)という職能が確立していった。

我が国における建築家の職能は明治以降の工部大学校における造家専門科教育に端を発する。初期の建築教育では欧米と同様、構造は建築家教育科目の一分野という位置づけであったが、1923年の関東大震災を契機に、地震国である我が国において建築構造を如何に設計すべきかという課題に対し、耐震構造を中心とする研究者・技術者が専門化していった。初期の構造家としては佐野利器、内田祥三、内藤多仲、坂静雄、棚橋諒らがあり、専門の構造設計者というよりはまだ建築家、大学研究者としての側面を色濃く残している。1945年の終戦後、高度成長期になると耐震構造の延長線上に超高層ビルを実現した武藤清らが現れ、その一方で様々な材料を駆使し多様な構造デザインを実現する欧米型の構造家として坪井善勝、横山不学、松井源吾、松下富士雄、木村俊彦らが活躍するようになった。これらの構造家は大学研究者、企業内研究者、構造設計専門事務所主催者等、様々な側面を持っている。

以上の関東大震災～戦前に活動した構造家を第一世代、戦後～1970年代の高度成長期に活躍した構造家を第二世代とすると、現在は第二世代の教え子である第三世代が1980年以降活躍し、引退を迎えつつある状態と言える。第二世代の構造家が残した図面、計算書、スケッチ、模型類等のアーカイブは現在第三世代が受け継いでいる場合が多いと考えられるが、同世代の引退に伴い逸散、廃棄される危険性が高い。このような背景の元、日本構造家倶楽部と法政大学は、文化庁近現代建築資料館の依頼を受け、第一世代、第二世代の代表的な建築構造家のアーカイブの所在を調査し、記録に残す作業に着手することとした。

平成 29 年度は近現代の建築構造の発展に功績の顕著であった 11 名の構造家を抽出し、調査先のリストアップおよび調査方法の提案を行った。これを受けて平成 30 年度は抽出した各構造家に関する本格的な調査および資料の整理を実施した。本報告は平成 29 年度および平成 30 年度の調査結果を通して取りまとめたものである。

平成 31 年 2 月 28 日

H29 年度の調査方法の検討は以下の手順で進めた。

- 1) まず、明治以降～1970 年代末までを目途に、我が国において建築構造技術上、建築構造デザイン上特筆すべき約 200 作品をリストアップして年表に取りまとめ、その構造設計を担当した技術者を参照しながら調査対象とする構造家を抽出した。
- 2) 抽出した 11 名の構造家に対し、構造資料の存在有無を関係各所にヒアリングし、略歴、業績(作品)、調査先のリストおよび調査方法を立案し、それぞれ調査方針シートに取りまとめた。

H30 年度の調査方法の検討は以下の手順で進めた。

- 1) H29 年度に抽出した 10 グループ 11 名の構造家に関し、手分けしてそれぞれ構造資料を所持・保管している関係各所における訪問調査を実施し、結果を調査方針シートに取りまとめた。調査シートには資料の概要と保存状態についての写真を添付し、保管者に調査結果の公開可否についても記述してもらった。
- 2) 抽出した 11 名の構造家が活動した社会的背景と構造技術の進歩、現代に繋がる技術的・人的系譜を大まかな潮流として取りまとめた。
- 3) 木村俊彦資料を事例として、残すべき資料の選択方針を取りまとめた。

我が国の近現代建築に関わる構造資料所在調査において、その調査対象を選定するため、まず、明治以降～1970 年代末までを目途に、建築構造技術上、建築構造デザイン上特筆すべき建築構造物をリストアップして年表に取りまとめることとした。

リストアップすべき建築物としては、「DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築」や「日本建築学会賞（作品）」、「松井源吾賞／日本構造デザイン賞」、「JSCA 賞」「BCS 賞」などに選定された社会的評価の高い建築物に加え、下記参考書籍や建築雑誌、WG 委員の論文などからも特筆すべきものを WG 委員間での議論を通して選定した。

都合、計 209 個の建築物をリストアップするに至った。また、最終的に、これらの建築物の構造設計を担当した技術者を参照しながら、調査対象とすべき構造家 11 名を抽出した。

さらに、今後の調査に資することを目的として、明治以降から現在までの構造家や構造形式・構造技術の変遷を俯瞰する系譜の作成に取り組んだ。

次ページ以降に、これら構造作品年表と構造技術の系譜図、構造家の系譜図について示す。

参考文献

- [1] 日本構造技術者協会，日本の構造技術を変えた建築 100 選-戦後 50 余年の軌跡，彰国社，2003
- [2] 村松貞次郎，日本近代建築技術史，彰国社，1976
- [3] 日本建築学会，近代日本建築学発達史，丸善，1972
- [4] JSCA 構造デザインの歩み編集 WG，構造デザインの歩みー構造設計者が目指す建築の未来，建築技術，2010
- [5] 小堀徹，近代日本建築構造史，東京藝術大学修士論文，1980
- [6] 新建築，新建築社，1925～
- [7] 建築文化，彰国社，1946～
- [8] 近代建築，近代建築社，1946～
- [9] 建築技術，建築技術，1950～
- [10] 村松貞次郎，日本建築家山脈（復刻版），鹿島出版会，2005
- [11] 日本科学史学会編，日本科学技術士大系 17 建築技術，第一法規出版村，1964
- [12] 滝澤春男，耐震建築論の文化史 1970 前後まで，丸善プラネット，2018

竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
明治5年	築地ホテル館	東京都		清水嘉助、J.T.ブリ ンエンズ	清水嘉助	木造	船小屋、漆喰大 瓦造			現存せず	日本近代建築技術史	
明治14年	横須賀製鉄所	神奈川県横浜須賀野市		ウェルニーク、エ リック・デモンター ギュスト・バスマ ン		木骨レンガ造	木骨煉瓦造、 スレート瓦の導 入、キングポスト ラス			現存せず	日本近代建築技術史	
	大船造修業工場	大船町		T.J.ウーホルス		木骨レンガ造	洋式小屋			現存せず	日本近代建築技術史	
明治24年	蒲田製糸場	群馬県蒲田市		エドモン・ダ・デ スト・バスキナン		木骨レンガ造	木骨煉瓦造				小堀勝修・論文 日本近代建築技術史	
明治24年	順成学校校舎	東京都		林忠昭		木造	漆喰大瓦造			現存せず	日本近代建築技術史	
明治74年	駒込駅	東京都		林忠昭		木造	洋式小屋			現存せず	日本近代建築技術史	
明治74年	風山神社神門	石川県金沢市		清田吉之助		その他	石積み三連アー チ				日本近代建築技術史	
明治76年	東京上等裁判所	東京都		林忠昭		木造	漆喰大瓦造				日本近代建築技術史	
明治77年	田沼馬支庁倉庫	兵庫県神戸市		国師在任の邦人技師			キングポスト				日本近代建築技術史	
明治78年	旧三重県庁舎	三重県津市		清水耀八		木造	キングポスト			1967年に明治村に移された	日本近代建築技術史	
明治79年	白金森本店（堀川村工 所）	北海道函館市		油田重二			洋小屋、寄棟				日本近代建築技術史	
明治74年	聖平館	北海道札幌市		明治使節館邦人技師 舎			キングポスト				日本近代建築技術史	
明治75年	田長京駅	滋賀県栗原市		T.R. Sher vinton, T. M. Rymer Jones		その他	キングポスト				日本近代建築技術史	
明治77年	丹波幸印刷工場	東京都府中地区府中 鹿野町（当時）		若山鉄吉		鉄骨造	鉄骨造	日本最初の鉄骨造			小堀勝修・論文 日本近代建築技術史	
	三鷹一尋館	東京都千代田区		ジョサイア・コンド ル		レンガ造					日本近代建築技術史	
明治28年	司法省	東京都日比谷		エンヂー・ベックワ ン、ギー・ゼンブル グ		SRC造						
明治29年	日本銀行本店	東京都中央区		藤野金吾		レンガ造＋石造＋ 鉄骨造					重要文化財 小堀勝修・論文 日本近代建築技術史	有
明治32年	東京商會会議所	東京都		豊木朝義		レンガ造				現存せず	日本近代建築技術史	
明治33年	八幡製鋼所小倉修繕工場	福岡県北九州市				鉄骨造					世界遺産	

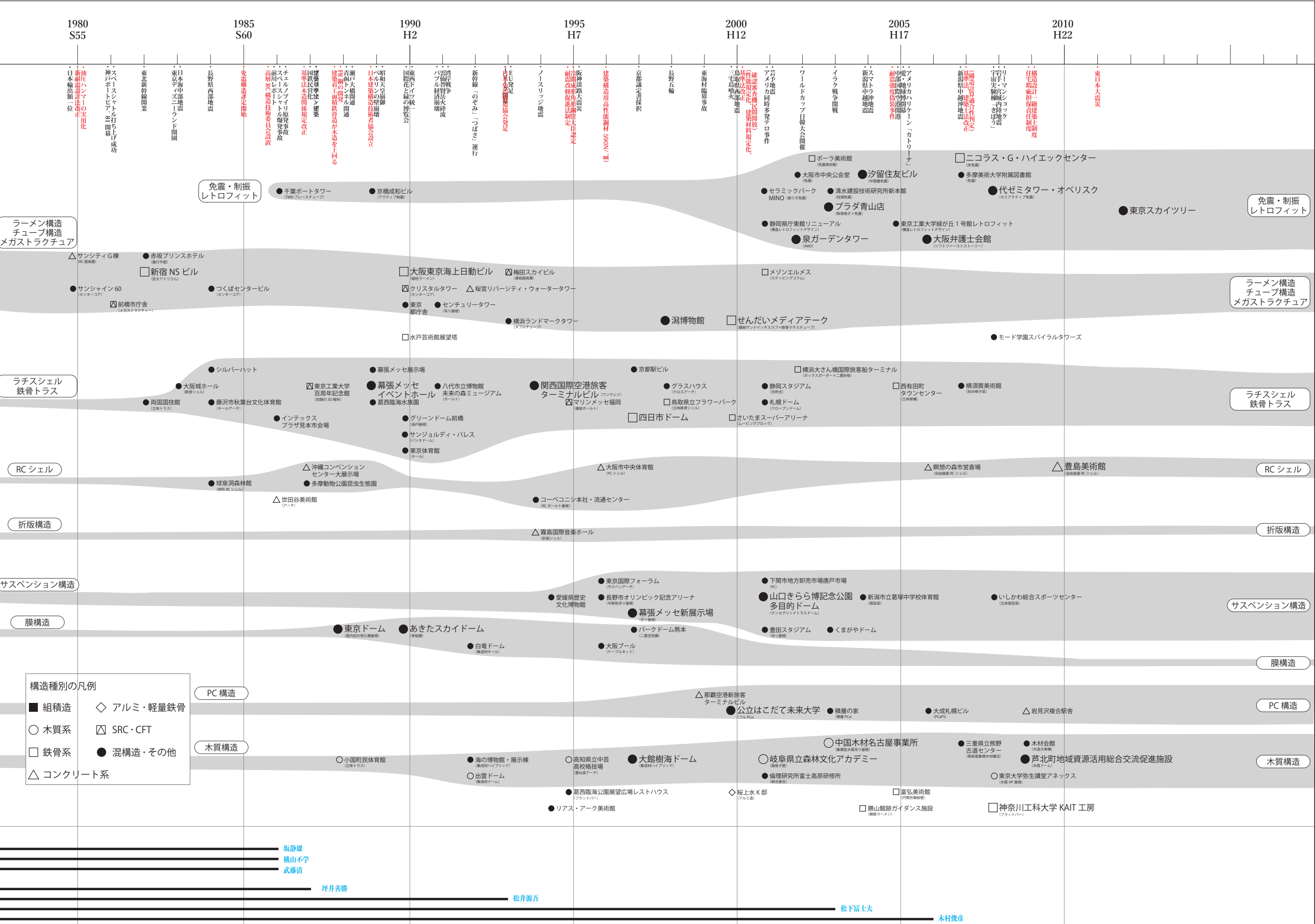
竣工年	作品名または登録名	写真	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1929年	昭和4年 日興倉庫（東原邸）		京都府京都市	中村順（？）	本野精忠			中村順がコンクリートコンクリート構造		DOCOMOMO	京都工芸繊維大学?			有
1930年	京都高等工業学校水部 （現：京都工芸繊維大学 3号館）		京都府京都市		本野精忠		RC造				京都工芸繊維大学			
1933年	昭和4年 東京中央郵便局		東京都千代田区		吉田鉄郎		SRC造			DOCOMOMO			小堀敏修工論文	有
1934年	昭和4年 松井忠聖ハウロカトリック 教会		長野県長野市		アントニン・レーモンド		木造	鉄骨合掌		DOCOMOMO				有
1946年	昭和12年 不動産銀行下関支店			岡屋一	岡屋要次郎		RC造	RC免震構造	基礎部にロッキングコラムを組み込んだ世界初の本格的な免震構造（竹内）					
	日南京都支部病院		京都府京都市	細川隆	数田喜一		RC造						小堀敏修工論文	
1936年	昭和11年 東京書籍印刷工場		東京都北区松陽1-23		島橋・巴組株式 工務所	徳谷健吉 山本喜二	鉄骨造	立体トラス		DOCOMOMO			小堀敏修工論文	有
	松屋橋梁（株）設立工場		大阪府大阪		松屋橋梁（株）		鉄骨造						小堀敏修工論文	
	国鉄理事堂		東京都千代田区				SRC造							
1937年	昭和12年 ハリ万福日本館		パリ		坂倉準三									
1938年	昭和13年 東京地下鉄道バス江草車 庫		東京都江東区	内藤多伸	石井勇		RC造	フィニッシュ ティール					小堀敏修工論文	
1946年	昭和13年 郵政高層アパート		東京都港区	住宅部住宅課 設置	住宅局住宅建設課	朝日土木興業	RC造	橋本構造のプロ タイプ				橋本設計	日本の構造技術を変えた建築100選 小堀敏修工論文	
1951年	昭和26年 リーダーズ・デザイン 株式会社		東京都千代田区一 ツ橋	パウル・ワイ ド（構造計画） 岡本剛（構造） 実務設計	アントニン・レーモン ド	竹中工務店	RC造	階層間にはなら ない柱、な しるべき支 持		学芸賞（1951）		リーダーズ論争	建築文化1952年1月号 日本の構造技術を変えた建築100選	
	神奈川県立近代美術館		神奈川県鎌倉市		坂倉準三、駒田知 彦、山田善雄 他	馬淵建設	鉄骨造	鉄骨ブレース		DOCOMOMO	坂倉事務所にて方 針の策定あり。計画 者は知らないよう です（多田）		新建築1952年1月号	有
	森林記念館		北海道苫小牧				木造	構造用木材断面 成形、3ヒンジ アーチ						
	鶴見倉庫		神奈川県横浜市	日大小野研究 室、加藤孝	日大小野研究室	大成建設	RC造	シャレード構造					建築文化1952年1月号 日本の構造技術を変えた建築100選	有
1952年	昭和27年 日本相互銀行本店		東京都中央区	橋山平宇 木村隆彦	前川國男建築事務所	清水建設	S-SRC造	上部S+下部SRC	トラス断面を各部に配置し、大空間を実現（伊藤） 日本初の鋼構工事	DOCOMOMO	資料室あり		新建築1952年10月号	
	グレースメント記念堂			岡 隆一	山口文象	玉井工務店	S+RC造	パララントロー メン					小堀敏修工論文	
	日経国際会館（現日比谷 パークビル）		東京都千代田区	竹中工務店	竹中工務店	竹中工務店	SRC造	桁梁を有する ラーメン構造	日本初の鋼筋工法	学芸賞（1951）			新建築1952年6月号 日本の構造技術を変えた建築100選	有

竣工年	作品名または施設名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1957年	昭和32年 静岡県建設費館	静岡市駿府公園	坪井雄勝、市川久夫、市川久夫	丹下健三	大成建設	RC造	薄肉円シェル	一辺が50mの正方形平面を有し、直型を得意で知られた円形シェルの多目的ホール。通常の説明コンクリート円形シェルとしては意外にも最大断面の大きさを有。〈公〉				掲載雑誌・書籍 日本の構造技術を変えた建築100 小畑敏修士論文	
	中央通信学園講堂	東京都瑞穂市	内田祥哉	電電公社	鹿村建設、巴建設工 場	鉄骨造	鉄骨シェル		DOCOMOMO			新建築1957年4月号	有
	旧東京都庁舎	東京都千代田区	都庁舎構構部 副部二小野 黒、武蔵清	丹下健三	戸田組	S-RC造	コアシステム					新建築1958年6月号 近代建築1958年6月号	
	南浜町役場	兵庫県南淡町	坂村睦	堀田友也	オリエンタルコンク リート	RC造	RC不静な鋼構 架柱ラーメン構 造	京都大学で所有して いるのではないか				日本の構造技術を変えた建築100 選 小畑敏修士論文	
	東京経済大学体育館	東京都国分寺市	大塚建設、高 沢、福島清	大成建設、鈴木悦 弘、矢野昌明	大成建設	鉄骨造	大成トラス					小畑敏修士論文	
	八幡製鋼所改修庫橋工場	福岡県北九州市	大建設	大建設	面崎工業	鉄骨造	山形ラーメン構 造					日本の構造技術を変えた建築100 選	
1958年	昭和33年 東京タワー	東京都港区	内藤多中、白 藤設計	白藤設計	竹中工務店	鉄骨造	トラス形式自立 鉄塔		DOCOMOMO		高さ333m	日本の構造技術を変えた建築100 選	有
	瑞穂高層アパート	東京都中央区晴海	堀山不孝 木村修彦	堀川園男	清水建設	SRC造	メガストラク チャー					新建築1959年2月号 建築文化1965年2月号 日本の構造技術を変えた建築100 選 小畑敏修士論文	
	スカイハウス	東京都文京区	谷泰隆	松竹清洲	白石建設	RC造	円形シェル、壁柱		DOCOMOMO			建築文化1959年1月号 近代建築1959年1月号	有
	香川銀行舎	香川県高松市	坪井雄勝	丹下健三	大林組	RC造	センターコア	当時の鉄筋コンクリート構造は中間階までには限るといふ常識を打破して、高層の断片率に低 要需、場内は日本の伝統の美しさが表現された。〈公〉	DOCOMOMO			新建築1959年1月号 建築文化1959年1月号 小畑敏修士論文	有
	今治市公堂	愛媛県今治市	坪井雄勝	丹下健三	大林組	RC造	RC折板壁	折板RC構造、デビニュー以来、柱・梁の表裏から脱出した壁の表現の可能性を提示した最初の 作品。〈公〉	DOCOMOMO			新建築1959年2月号 建築文化1961年1月号 小畑敏修士論文	
	東北電力八戸火力発電所 貯灰場覆橋	青森県八戸市	堀田英一郎	松下富士雄	大林組	鉄骨造	ダイヤモンド シェル	貯灰場物理面のプランニング・パシール・ヴァーリット構造面でも、運搬体シェルの円筒を鉄筋RCグリッ ドシステムで覆った点に注目したラサスシェルの初期の作品。松下はこの後、ダイヤモンドシェ ルによる学校体育館を開設し、多くの学校体育館に適用した(竹内)。	DOCOMOMO		川口事務所設計田 さんが附設診断対応	建築文化1959年1月号 小畑敏修士論文	
	成城学園第二体育館	東京都世田谷区	岡本剛	増次角	小保組	RC造	円形シェル					新建築1959年2月号 小畑敏修士論文	
1959年	昭和34年 東京国際貿易センター 2号館	東京都中央区晴海 第6丁目	坪井雄勝、名 川、山田平 川、高田、高田 敏夫	坪田政義建設設計事 務所	大成建設	鉄骨造	鉄骨シェル、縦 断形鉄骨	170mの円形平面の鉄骨シェルの一辺をやや斜めに切開いた断面を三角鉄鋼目状に分割し た鉄骨部で立体的に組み上げ、ショットクリートで裏面を覆い、全体としてシェル効果をも たせようとした。〈公〉			日本初の鉄骨シェル	日本の構造技術を変えた建築100 選 小畑敏修士論文	
	成城学園病院	東京都板橋区	松井雄吉	松竹清洲	木田建設	RC造						建築文化1959年1月号 近代建築1959年1月号	
	プリンスホテルや他法 工機体育館	神奈川県横浜市	松井雄吉	松竹清洲	大日本土木	RC造	半剛性桁梁構					建築文化1962年10月号 小畑敏修士論文	
	日大津田沼校舎実験棟	千葉県津田沼市	加藤歩				円筒RCシェル					小畑敏修士論文	
	世田谷区民会館	東京都世田谷区	坪井雄勝、市 川、丸岡、他	堀川園男、大谷三 三郎、他	大成建設	RC造	折板構造	RC折板構造による屋根、壁面の構成〈公〉	DOCOMOMO			新建築1959年7月号 建築文化1962年7月号 近代建築1959年7月号 小畑敏修士論文	有
	宇都宮市体育館	山梨県宇都宮市	大塚建設	大成建設	大成建設	S-RC造	断状立体系トラス					建築文化1959年10月号 小畑敏修士論文	

竣工年	作品名または技術名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料有無	備考	掲載雑誌・書籍	写真の有無
1965年	東京カナルビル型マリア大聖堂		東京都中央区御口3丁目 坪井善勝、名 下下三郎、神谷宏 治、足立孝樹 他	坪井善勝、名 下下三郎、神谷宏 治、足立孝樹 他	大成建設	RC造	複合Hシェル	8枚の放射コンクリートHシェルを垂直に組み合わせて特異な放射空間が構成されている。 (公)	DOCOMOMO 0001(1966)			掲載雑誌 1965年4月号 建築文化 1965年6月号 日本の構造技術を変えた建築 100 小畑敏修工論文	有
	和田谷区立園芸資料館		東京都田谷区世田谷 堀山不孝、木 村敏彦	堀山不孝、木 村敏彦	大成建設	RC造						掲載雑誌 1964年12月号 建築文化 1964年12月号 小畑敏修工論文	
	弓張岳展望所		長崎県佐世保市 坪井善勝	坪井善勝	梅村組	RC造	Hシェル					掲載雑誌 1965年12月号 小畑敏修工論文	
	東京スタジアムスケートリンク		東京都荒川区 太田工業	太田工業		その他	ガスベンション 風					小畑敏修工論文	
1966年	旧紙の目ビル		東京都中央区 坪井善勝	堀山不孝、木 村敏彦	清水建設	SRC造	十字ユニット		日本建築学会賞			掲載雑誌 1965年10月号 建築文化 1965年10月号 日本の構造技術を変えた建築 100 小畑敏修工論文	有
	新南田カトリック教堂		新潟県新潟市 アントニン・レーモ ンド	アントニン・レーモ ンド	新南田建設	木造	立体合掌					掲載雑誌 1966年12月号 JA 1999年4月号	
	海山文化センター		岡山県津山市 木村敏彦、渡 辺利夫、伊藤 久枝	川島 甲子、東郷敏一 郎、吉成敏行	三井建設	RC・SRC造			DOCOMOMO、BCS賞			掲載雑誌 1965年4月号 建築文化 1965年4月号 近代建築 1965年4月号	
	東郷体育館		静岡県静岡市 山下善郎？	山下善郎	住友建設、巴建設工 所	鉄骨造	折板構造					小畑敏修工論文 掲載雑誌 1965年6月号	
1967年	国際基督教大学基礎理學本館		東京都 増田一廣	増田一廣	相富建築設計事務所		トラス椅子床						
	伊賀上野市立西小中学校体育館		三重県伊賀市 平田建築構造研 究所	坂倉雄三	向井組	S・RC造	スペースフレーム					近代建築 1965年9月号 小畑敏修工論文	
	小松ビル		東京都港区 高松構造事務所	中山克己、増沢和 所	鹿島建設、小松建設 工業	SRC造	ベアリング ウォール					建築文化 1967年6月号 小畑敏修工論文	
	国立京都国際会館		京都市左京区 堀山不孝、本 村敏彦、森田 利夫	大谷幸夫、谷賀之 二	大成建設	RC・SRC造	ラーメン構造	細部から構造まで一貫した台形・逆台形の繰り返しによるシステム（小澤） で、空間構成に強く関わる構造方式が実現している。（公）	BCS賞（1967） DOCOMOMO	法政大学		掲載雑誌 1965年4月号 建築文化 1965年7月号	有
1967年	山梨文化会館		山梨県甲府市 堀山不孝、富 沢元徳	堀山不孝、富 沢元徳	住友建設	SRC造		巨大なコアに支えられた高層建築	DOCOMOMO			掲載雑誌 1965年4月号 建築文化 1967年1月号	
	松本市中央卸売市場売場棟		千葉県松戸市宮本 町	日建設計	清水建設	S・SRC造	片屋根、鋼管立 体トラス	22,000㎡の屋根を12本の柱で支えた片屋根構造				日本の構造技術を変えた建築 100 小畑敏修工論文 掲載雑誌 1967年11月号 建築文化 1967年11月号	
	鳥取大学理工学部51号館		鳥取県新倉区 松井清彦	安藤勝男	清水建設、熊谷組	RC造	外装フレーム		学舎賞（1967）			掲載雑誌 1967年11月号	
	静岡新聞・静岡放送ビル		東京都中央区銀座 香本雄、石井 一三	香本雄、石井 一三、神谷宏 治、若田三樹	大成建設	SRC造	外装面材構	特殊構造による変形ビルで、メジカー・スラックコアにサブ・ストラクチャを組み込み で、空間構成に強く関わる構造方式が実現している。（公）				掲載雑誌 1965年2月号 建築文化 1965年7月号	有
	愛知江戸庁舎		山形県寒河江市 松井清彦	黒川紀章	香松木村、寒河江建 設	RC造	ガスベンション 構造		DOCOMOMO			建築文化 1967年5月号	有
	ゆかり文化幼稚園		東京都田舎区 川口順、中島 晋司	川口順、中島 晋司、神谷宏 治、若田三樹	大成建設	RC造	折板ポスターテ ション					掲載雑誌 1967年9月号 建築文化 1967年11月号 小畑敏修工論文	
	佐渡グラウンドホテル		新潟県新潟市 松井清彦	菊竹清訓	梅田組	S・RC造	鉄骨トラス版					掲載雑誌 1967年11月号 建築文化 1967年11月号	

竣工年	作品名または施設名	場所	構造設計者	建築設計者	建設施工者	構造種別	構造形式	評価・コメント欄	受賞歴	資料所蔵	備考	掲載誌・書籍	写真の有無
1974年	広電ホームスタワーズ	東京都港区	大井啓彦、花柳文彦、小野五弘	大井啓彦、花柳文彦、小野五弘	竹中工務店	S・SRC造	センターコア			法政大学		掲載誌・書籍 建築文化1972年10月号	
	大塚大林ビルディング	大塚市大塚市中央区	大林組	大林組	大林組	S・SRC造			BGS (1974)			新建築1972年4月号 近世建築1972年6月号 建築文化1972年4月号	有
	北九州市立総合体育館	福岡県北九州市	山下勇郎	山下勇郎	森村組	S・RC造	観客折板構造					新建築1972年3月号?	
	瀬戸内海歴史民俗資料館	香川県高松市	木村健彦、伊藤久枝	香川県建築課、山本垣	高岸工務店	RC造	格子梁		学芸賞 (1974) DOCOMOMO	法政大学		新建築1972年10月号 建築文化1972年10月号	有
	所沢聖地霊園礼拝堂	埼玉県所沢市	田中清孝、林博樹 (黒瀬田大寺字)	田中清孝、林博樹、二、入江立之	竹中工務店	木・RC造	木造スベーストラス		DOCOMOMO 学芸賞 (1973)			新建築1972年12月号 建築文化1972年12月号	有
	津市民プール上屋	三重県津市	藤田建築設計事務所、エニルコンクリート	藤田建築設計事務所、エニルコンクリート	増地組	RC造	増す打ち格子梁					プレストレスコンクリート1972年4月号	
	三和銀行東京ビル	東京都千代田区	日建設計	日建設計	大林組	S・RC・SRC造			BGS (1975)			新建築1974年2月号 近世建築1974年6月号 小組修士論文	有
	全通勤労青少年会館サンフラサ	東京都中野区	日建設計	日建設計	大林組、フジタ工業、佐藤工業	SRC造	耐震壁付きラーメン構造、増す打ち格子梁		BGS (1974)			新建築1972年2月号 日本の構造技術を変えた建築100選	有
	東京海上ビルディング	東京都千代田区丸の内	東急建設設計事務所、東急山手建設事務所	柳川園男	大林組、鹿島建設、清水建設、竹中工務店	RC・SRC造	4階建を囲い、たがブルチューブ構造		BGS (1976)		異議論争	新建築1974年2月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小組修士論文	有
	新宿住友ビルディング	東京都新宿区	日建設計	日建設計	鹿島建設、竹中工務店、住友建設	鉄骨造	チューブ構造、断面の速度評価					新建築1974年2月号 日本の構造技術を変えた建築100選 小組修士論文	有
1975年	新宿三井ビルディング	東京都新宿区	三井物産、日建設計	日建設計	鹿島建設、三井建設	S・RC・SRC造	レースアップス、タワーコア、RC造		学芸賞 (1976) BGS (1976)			新建築1972年1月号 近世建築1972年10月号 建築文化1972年10月号	有
	北九州市立中央図書館	福岡県北九州市	木村健彦、花柳文彦、黒田昭	黒崎新、山本清彦、伊藤孝	森村組	RC造	RCウォールトラス構		BGS (1976)	法政大学		新建築1975年10月号 近世建築1975年10月号	有
	秋田市庁舎	山口県秋田市	松平源吾	松竹清訓	東谷建設、松村建設、森村組	S・RC造						新建築1975年10月号 近世建築1975年10月号	
	鹿島建設複合新アパート	東京都墨田区	鹿島建設、武蔵野	鹿島建設	鹿島建設	RC造	網ラーメン構造					日本の構造技術を変えた建築100選 小組修士論文	
	ホテルニューオータニタワー	東京都千代田区	大成建設	大成建設	大成建設	S・RC・SRC造			BGS (1976)			新建築1974年10月号 小組修士論文 建築文化1974年6月号	有
	茨城県委託運動公園体育館	茨城県水戸市	斎藤公男	小林義夫	大成建設	S・RC造	ケーブルネット吊座席	外周PS板に囲まれた扇形平面図面を描くケーブルネットの施工に施工技術者を指導・実施。スタンドとコア柱がつくる正面が鋭角的な特徴的。(公)				・Conf. of Space Str.・フレーム No.7 (1975) 小組修士論文	
	福岡銀行本店	福岡県福岡市	松平源吾、森川龍彦	黒川紀章、黒川正勝	竹中工務店	RC・SRC造			DOCOMOMO BGS (1977)			新建築1975年11月号 建築文化1975年11月号	有
	福岡国際海洋博覧会メモリアルプール	福岡県福岡市東区	木村健彦、佐々木建朗	木村健彦	鹿島建設、鹿島建設、東急建設、東急建設、東急建設	S・RC・SRC造				法政大学		新建築1975年2月号 建築文化1975年2月号	
	フアラデーホール(白木文芸工芸館食堂)	千葉県船橋市	斎藤公男	小林義夫	大成建設	S・RC造	車輪型鉄骨梁	放射状のランジション材(ロッド)に初期張力を積極的に導入し、ひかた変形を抑制。鉄鋼のユニット・リングとコア柱がつくる正面が鋭角的な特徴的。(公)	BGS賞 (1979)			・IAS (1979) ・フレーム No.5 (1978)	
1978年													

近現代建築構造資料調査のための建築構造作品年表／系譜



本年度は、平成 29 年度 WG 内での議論において調査対象として選定された 11 名の構造家に対し、構造資料の存在有無を関係各所に実地調査した。その際、構造資料所蔵調査に資するための調査シートを作成し、各担当者が統一した基準で調査ができるようにした。あわせて、調査対象者の略歴、年表、業績(構造設計作品と著作)、昨年度と本年度の概要についてもまとめた。

次項以降において、調査対象者ごとに本年度調査結果を示す。

4.1

佐野 利器

さの としかた

1880 年（明治 13 年）～1956 年（昭和 31 年）

東京大学名誉教授，日本大学名誉教授。芸術としての建築より，工学としての建築，とくに耐震工学に重きを置き，日本の構造学の発展に貢献した。東京帝国大学工科大学建築学科を卒業，鉄骨およびコンクリート構造学を研究した。さらに耐震構造学を開拓し，1915 年（大正 4）「家屋耐震構造論」を発表，同時に耐火・耐風などの防災建築研究を開始した。1918 年東京帝国大学教授となり，1923 年の関東大震災の帝都復興計画には復興院建築局長を兼任して参画，区画整理事業を指導した。構造計算のためのメートル法の普及やローマ字表記の基準作成など，活動の範囲は多岐にわたり，教育界・行政界でも高い功績を残している。

・年表

1880 年（明治 13 年）	山形県生
1903 年（明治 36 年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1915 年（大正 4 年）	東京帝国大学工学部建築学科教授，家屋耐震構造論で工学博士号取得， 明治神宮造営局参事・参与
1918 年（大正 7 年）	都市計画法と市街地建築物法の両法制定，勲六等瑞宝章
1920 年（大正 9 年）	日本大学高等工学（現日本大学工学部）校長
1924 年（大正 13 年）	東京市建築局長
1929 年（昭和 4 年）	建築学会会長，清水組副社長
1930 年（昭和 5 年）	帝都復興記念章
1935 年（昭和 10 年）	度量衡制度調査委員会
1941 年（昭和 16 年）	東京帝国大学名誉教授

・主な構造設計作品

国技館，日本橋丸善書店（1909），明治神宮外苑（聖徳記念絵画館，神宮競技場等，1915），日本大学駿河台校舎旧一号館（1921），旧岐阜県庁舎（1924），神奈川県庁舎（1927），学士会館（1928），旧徳島県庁舎（1930），旧山梨県庁舎（1930），

・主な著作

米国加州震災談（1906），鉄筋コンクリート（1907），家屋耐震構造論（1917），住宅論（1926），耐震構造上の諸説（1927），耐震構造汎論（共著，1934），建築（共著，25 巻，1935），家屋耐震並耐風構造（共著，全 26 巻，1935）

4.1.1 昨年度調査の概要

東京大学における後継研究室である塩原・田尻研究室へヒアリングを行った。

しかし、大学の研究室には資料は残っていないとの返答であった。

ただし、PDF 化された学位論文は震災予防調査会報告書として、一般公開されているようである。

4.1.2 本年度調査の概要

まず佐野利器が日本大学工学部の初代校長であり、構造設計の作品において日本大学駿河台校舎があることから、日本大学理工学部 of 佐藤慎也教授に連絡し相談を行った。 歴史系の研究室である田所辰之助教授と宇崎勝也教授に関連する資料の保管の確認をとっていただいたが、残念ながら所有していないとの事であった。ただし日本大学生産工学部の中田教授が木材標本である「材鑑」を所有しているとの報告があった。

続いて新宮清志日本大学名誉教授にメールにて連絡したところ、保有している資料はないとの回答であったが、資料の保有に関する情報をもっている可能性として伊東孝日本大学元教授を紹介していただいた。

また金沢工大にも資料があるかもしれないとの事であったが、対応可能な方が不明であり調査先が遠方の為、今後改めて現地調査の検討予定としたい。

その後、体調を崩されていた伊東孝日本大学元教授と連絡がとれたが所有する資料はなく、その代わりに堀川洋子筑波大学生命環境系研究員を紹介されたものの、やはり同じく保有する資料はないとの事であった。

「1号館の建築」日本大学理工学部・編著に関する図書を調べたところ、清水五郎教授による旧1号館に関する「設計図書にみる構造と仕様」に関する記述があり、そこに現在「公文書館所有」に所有されている佐野利器による構造計算書と構造図が添付されていることを発見した。

「国立公文書館」へ赴き佐野利器に関する情報を調べ、上記の資料の保存が確認できたが、その他の図面や資料等を探すことはできなかった。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	1-1	資料群名称	佐野利器資料（国立公文書館）				調査年月日	平成30年9月29日				
								調査員	狩野祐哉				
	1	所有者	国立公文書館										
	2	管理者	国立公文書館										
	3	資料所在地	東京都千代田区北の丸公園 3 - 2										
	4	管理責任者	氏名：国立公文書館 役職：	連絡担当者			氏名：国立公文書館 役職： TEL：03-3214-0621 E-mail:						
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他							
	6	資料の来歴											
	7	著作権保有者	国立公文書館										
	8	資料概要 （総量・形態・ 管理方法）	総量：本（二冊） 形態：サイズ：320mm×250mm 内容：一冊目に仕様書、構造計算書等と一般図面15枚、二冊目に詳細図等24枚 青焼き図面：最大800mm×500mm、などまちまち、中身は一般図、伏図、配筋図などの詳細図等 資料：新築工事仕様書、構造計算書、青焼き図面、配筋図、詳細図等 管理方法：青焼き図面は本の巻末に紐で閉じられ、折りたたまれて収納されていた 仕様書、構造計算書等は製本さてたいる										
	9	資料作成年代	1928年（昭和3年）										
	10	主な資料種別	図面（原図）	☒	青焼き図面	☒	スケッチ等	☒	構造計算書		実験関係書類	☒	工事関係書類
模型			☒	原稿	☒	書籍・雑誌	☒	書類ファイル					
写真・動画				個人資料		マイクロフィルム							
図面デジタル				計算書デジタル		解析データ		実験データ					
その他（ 新築工事仕様書等 ）													
	11	含まれる 主なプロジェクト	日本大学駿河台校舎旧1号館										
	12	廃棄した資料											
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：日本大学工学部新築工事仕様書、構造計算書、図面等									
☐ 非公開			非公開の理由：										
	14	展覧会の実績	展覧会名称：										
	15	出版物の制作											
	16	備考	国立公文書館デジタルアーカイブ（検索）にて 日本大学（東京）第六の二冊、日本大学（東京）第六の二の二冊 として検索可能										
	17	調査結果公開の可否	☒	可	☐ 不可	部分的に可（公開可の項目： ）							
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					☐ 可	☐ 不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



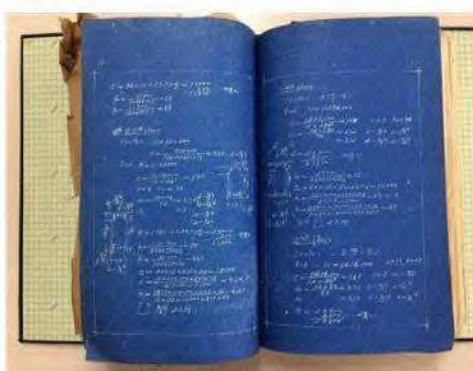
資料全体 左:日本大学(東京) 第六の二冊, 右:日本大学(東京) 第六の二の二冊



製本 内容



仕様書



構造計算書



図面保存状態



青焼き図面保存状態



図面 配筋図



図面 断面リスト

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	1-2	資料群名称	佐野利器資料（国立公文書館）				調査年月日	平成30年9月25日	
		調査員	香取・狩野・田中							
	1	所有者	国立公文書館							
	2	管理者	国立公文書館							
	3	資料所在地	東京都千代田区北の丸公園3-2							
	4	管理責任者	氏名：国立公文書館 役職：		連絡担当者		氏名：国立公文書館 役職： TEL：03-3214-0621 E-mail:			
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他				
	6	資料の来歴								
	7	著作権保有者	国立公文書館							
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	1, 技術官の待遇等に関する日本技術協会意見 総量：封筒（角形1号）6枚、厚紙6枚、意見書6部 形態：封筒：270mm×382mm 厚紙：265mm×400mm 資料：意見書265mm×180mm 状態良好 内容は別紙参照。 管理方法：意見書は3枚で1部を構成しており、紐で閉じられ、 6部とも同じ資料。意見書は二つ折りにされた厚紙に挟まれており、 それが封筒に入っている状態で保存されている。				2, 文政審議会関係参考書、諮詢事項、建議其他 総量：書物一点のみ。 形態：275mm×195mm×75mm 状態、内容は別紙参照。 管理方法：全体で75mmの暑さを紐で閉じられている。 3, 昭和21年 任免 160巻 総量：書物一点のみ 形態：250mm×180mm×40mm 状態、内容は別紙参照。 管理方法：全体で40mmの暑さを紐で閉じられている。			
	9	資料作成年代	1, 昭和16年6月17日 2, 昭和21年9月6日 3, 昭和21年9月6日							
	10	主な資料種別	☐ 図面（原図）	☒ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☐ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類		
			☐ 模型	☒ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☒ 書類ファイル				
			☐ 写真・動画	☐ 個人資料	☐ マイクロフィルム					
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ				
			その他（ 1, 技術官の待遇等に関する日本技術協会意見 2, 文政審議会関係参考書、諮詢事項、建議 其他 3, 昭和21年 任免 160巻 ）							
	11	含まれる 主なプロジェクト								
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：1, 意見書 2, 書物 3, 任免						
			☐ 非公開	非公開の理由：						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作								
	16	備考								
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目： ）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否			☐ 可	☐ 不可				

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

1,意見書



資料全体



1ページ目

2,書物



資料全体



内容

3,任免



資料全体

4.2

内田 祥三

うちだ よしかず

1885 年（明治 18 年）～1972 年（昭和 47 年）

建築学者。建築家。東京帝国大学で構造計算法と鉄骨および鉄筋コンクリートの講義を担当する。佐野利器の建築構造学を引き継ぐ形でさらに発展させながら、耐震、防火、都市計画、法整備まで都市と建築のあらゆる問題に取り組み、数多くの分野に業績を残すとともに多くの後進を育てた。また建築家として、東京帝国大学のキャンパスや図書館、病院などの施設を設計し、アカデミズムと実践を両立させた。

・年表

1885 年（明治 18 年）	東京府生
1907 年（明治 40 年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業，三菱合資地所部（現三菱地所）技師
1910 年（明治 43 年）	東京帝国大学大学院進学
1911 年（明治 44 年）	東京帝国大学講師嘱託
1916 年（大正 5 年）	東京帝国大学工学部助教授
1918 年（大正 7 年）	「建築構造特に壁体および床に関する研究」，工学博士
1921 年（大正 10 年）	東京帝国大学工学部 教授
1923 年（大正 12 年）	東京帝国大学営繕課長兼務，関東大震災後のキャンパス復興を指導
1935 年（昭和 10 年）	日本建築学会会長
1943 年（昭和 18 年）	東京帝国大学第 14 代総長
1972 年（昭和 47 年）	文化勲章

・主な構造設計作品

所沢飛行船格納庫（1912），東大安田講堂（1925），東大工学部列品館（1925），東大法学部 3 号館（1927）
自邸（1927），旧制第一高等学校本館（1933），東大法文経 1 号館（1935），公衆衛生院（1940），安田火災海上本社ビル（1976）

・主な著作

建築学教程（1913），都市計画の施設に就て（1924），鉄筋コンクリートの理論と実際（1925），鉄筋コンクリートの住宅（1930），住宅改良諸問題（1930），建築構造汎論（1949），木造都市と防火都市（1951），内田祥三先生作品集（1969）

4.2.1 昨年度調査の概要

御子息の内田祥哉博士（東京大学名誉教授）に内田祥三氏関連の資料の所在を伺ったところ、自分の手元においておきたい若干の資料を東京大学建築学科図書室に保管し、それ以外の大部分は自宅に所蔵されていた図書・資料も含めて昭和 63 年に東京都公文書館に寄託したという回答を得た。

4.2.2 本年度調査の概要

本年度は担当者が東京都公文書館に出向き、内田祥三氏関連の資料の所在確認と内容把握を行った。調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	2-1	資料群名称	内田祥三資料（東京都公文書館）				調査年月日	平成30年9月5日		
								調査員	小澤雄樹		
	1	所有者	東京都公文書館								
	2	管理者									
	3	資料所在地	東京都世田谷区								
	4	管理責任者	氏名： 役職：	連絡担当者			氏名： 役職： TEL：	E-mail:			
	5	所有形態	☐ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他					
	6	資料の来歴	「資料は多くの研究者、行政関係者に役立つことが望ましい。死蔵はしたくない」との故人の意志を尊重され、自宅に所蔵されていた図書・資料も含め、昭和63年に東京都公文書館に寄託された。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	公文書館が所蔵する内田祥三寄託の資料総数は9784件、その内、内田自身が作成者となっている資料は418件である。複数資料がまとめて1件と数えられている場合も多いため、その実際の総数は定かではない。資料の大部分が公文書館発刊の「内田祥三資料目録」1・2に記載されており、さらにこの目録の内容はオンラインデータベース化され、公文書館HPの情報検索システムで検索することが出来る。 資料自体は閉架図書扱いとなっており、資料の保存場所まで直接アクセスすることは出来なかった。閲覧を希望する資料を書面にて提出の上、職員の方がそれを倉庫から持ってくるシステムとなっている。資料総数が膨大であることもあり、網羅的に調べて保存資料の全体像を掴むことは容易ではない。 内田作成の資料の多くは、論文、記事、図面、工事記録、写真等であり、多くがマイクロフィルム化されているが、一部原本のみの資料もある。								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図）	☒ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☒ 構造計算書	☒ 実験関係書類	☒ 工事関係書類			
			☐ 模型	☒ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☒ 書類ファイル					
			☒ 写真・動画	☒ 個人資料	マイクロフィルム						
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	解析データ	☒ 実験データ					
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	内田自邸、和田小六邸、済南日本領事館、東方文化研究所、東大医学部付属医院 等。								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：							
			☐ 非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作	・東京都公文書館内田祥三資料目録 1・2								
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					☐ 可	☐ 不可			

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

・調査結果の概要

2018年9月5日、内田祥三資料が大量に寄託されている東京都公文書館に出向き、資料の内容を調査した。

九千を超える内田寄託資料の内訳は、個人の蔵書、参考資料、写真、震災後の復興に関する資料、行政関係委員として関わった物件資料、新聞記事等で占められており、極めて多岐に渡っている。丁寧に資料を集め、それを整理して保管する（捨てられない）内田の生真面目さが伝わってくる。

内田祥三作成資料418件に着目すると、作品の大部分を占める東大関連施設については、東大医学部付属医院を含む数件を除き、設計に関わる資料が非常に少ない。これらは東大文書館等に保管されている可能性がある（未確認）。

資料が閉架図書扱いとなっておりその総数も膨大であることから、内田資料だけを抽出しそれを網羅的に調べることは不可能なので、目録及び情報検索システムより、計算書を含んでいると思われる資料数件をピックアップし、その内容を調査した。

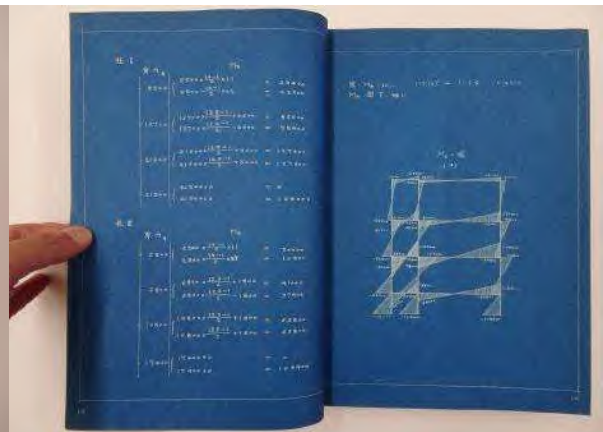
東大関連施設以外の建物の内、内田自邸を含む個人住宅や、初期の作品である済南日本領事館などいくつかの作品については比較的详细な資料がある。ただし、資料の過半は建築図、工事記録、工事写真及び関連資料等である。構造関係の資料は少なく、構造図としてまとまった形で整理されている作品はほとんどない。作品のほとんどは鉄筋コンクリート造であるが、多くは詳細図に配筋が書き込まれていたり、詳細図の一部として配筋図が添付されていたりしているようである。

構造計算書の類は極めて少なく、検索しても数件しか抽出されない。東大医学部付属医院については昭和2年作成の丁寧に作成された計算書が残っており、その構成は今日のものと比較しても大きな相違はないようである（写真2）。内田自邸についても東大付属医院と比べればややラフな書きぶりながらも計算書が残されている（写真2）。また、標準設計にあたる「鉄筋コンクリート造アパートメントハウス設計書」には、構造図や計算書を含む比較的详细な構造関係資料が保存されていた。逆に、上記3件以外の作品では、計算書に類するものはほとんど見当たらなかった。これが元々作成されていないのか（東大附属医院の計算書の完成度を見ると、作っていないということはなさそうだが）、どこかに保存されているのか、あるいは廃棄されたのかは不明である。

【見取り図・写真】



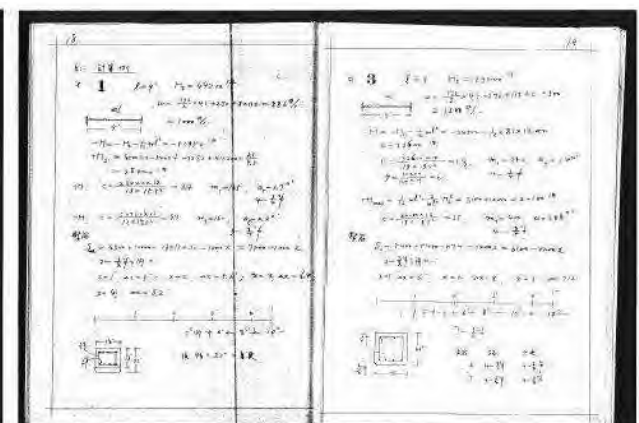
東大医学部付属医院 計算書（表紙）



東大医学部付属医院 計算書（中身）



内田邸 計算書（表紙）



内田邸 計算書（中身）

4.3

内藤 多仲

ないとう たちゅう

1886 年（明治 19 年）～1970 年（昭和 45 年）

早稲田大学名誉教授。独自の理論に基づき、耐震壁を取り入れた鉄骨鉄筋コンクリート造の旧日本興業銀行本店等を設計し、関東大震災発生時には自身の耐震理論の有効性を実証した。後に、高層建築物における耐震構造法を確立し、地震工学の世界的権威と評された。戦後は東京タワー、二代目通天閣等の多数の鉄骨構造の電波塔、観光塔の設計を手掛けたことにより、塔博士とも称された。日本建築学会長を二度にわたり務め、昭和 37 年文化功労者、同 39 年勲二等旭日重光章を受賞。

・年表

1886（明治 19 年）	山梨県生
1910（明治 43 年）	東京帝国大学建築学科卒業
1912（明治 45 年）	東京帝国大学大学院修了
1912（明治 45 年）	早稲田大学教授
1917（大正 6 年）	アメリカ留学
1924（大正 13 年）	架構建築耐震構造論で工学博士号取得
1938（昭和 13 年）	溶接学会会長
1941（昭和 16 年）	建築学会会長
1954（昭和 29 年）	日本学術会議会員
1960（昭和 35 年）	日本学士院会員
1962（昭和 37 年）	文化功労者
1964（昭和 39 年）	勲二等旭日重光章
1970（昭和 45 年）	従三位

・主な構造設計作品

日本興業銀行本店（1923）、自邸（1926）、早稲田大学大隈記念講堂（1927）、明治生命館（1930）、世界平和記念聖堂（1954）、名古屋テレビ塔（1954）、東京タワー（1958）、博多ポートタワー（1963）、日生劇場（1963）

・主な著作

建築構造学（1918）、架構建築耐震構造論（1924）、日本の耐震建築とともに（1965）、建築と人生（1966）、内藤多仲博士の業績（1967）

4.3.1 昨年度調査の概要

昨年度は早稲田大学にある内藤多仲記念館・耐震工学研究館に訪れ、資料の確認を行った。資料の保管・管理を行っている山田教授によって多くの資料は既に分類され、重要な資料の多くはマイクロフィルムに変換されていることを確認し、その内容も山田教授によりリスト化されている事が分かった。来年は個々の資料確認と、早稲田大学以外での資料保管の可能性を把握することとした。

4.3.2 本年度調査の概要

本年度は再度早稲田大学の2棟の建物（内藤多仲記念館・耐震工学研究館）に再度訪れ、それぞれの建物にどのような資料が有り、その由来などを山田教授からヒアリングした。まず内藤多仲自邸（現在の内藤多仲記念館）は内藤多仲氏自身が設計した建物で、現在は早稲田大学に譲渡され管理されているが、1926年竣工とは思えないほど建物の状態はよく、日本初となる壁式構造の性能の高さに驚かされた。建物内には当時の家具がそのまま残されており、展示物として自邸の構造図などが収められていた。建物内には珍しいコンクリート製の防火戸や様々な造作家具が配置されており、そのこだわりには脱帽するばかりである。当初建物内にある地下ピットに氏が携わった構造図などが多く保管されていたが、湿気等により劣化が発生したものは破棄し、保存状態が悪く今後の保管が難しいものの多くは建物の別棟に保管されていたが、その殆どは既に山田教授によってマイクロフィルム化されていた。

早稲田大学内の耐震工学研究館には内藤多仲氏の大学時代のノートから始まり、日記まで多くの資料が残されていた。様子を確認する限りは内藤多仲氏自身がメモや日記も几帳面に保管していたことからその人柄がうかがえる。研究館内には著作物の原稿なども残されていた。

本来早稲田大学以外での保管資料の確認も行う予定であったが、早稲田大学において内藤多仲氏の重要資料が多く保管されていたことから、行わなかった。

次ページ以降に本年度の調査内容を示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	3-1	資料群名称	内藤多仲 耐震構造研究所 所蔵資料				調査年月日	平成30年9月26日				
								調査員	新谷・伊藤				
	1	所有者	早稲田大学										
	2	管理者	山田 眞										
	3	資料所在地	新宿区喜久井町17										
	4	管理責任者	氏名：山田 眞 役職：創造理工学部建築学科教授				連絡担当者	氏名： 役職： TEL：03 3203 9443 E-mail:yamadamk@waseda.jp					
	5	所有形態	寄贈	寄託	当初から所蔵	☒ その他							
	6	資料の来歴	内藤多仲自邸にあった資料で主要な資料を研究室に移動し保管している。										
	7	著作権保有者											
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	内藤多仲自邸にあった図面については20年の年月をかけて山田先生がマイクロフィルムに記録している。それ以外に多仲の日記やメモ帳、学生時代のノートが保管されている。耐震構造論については原稿も保管されていた。耐震構造論を英文化された書籍も保管されている。										
	9	資料作成年代											
	10	主な資料種別	図面（原図）	☒	青焼き図面		スケッチ等		構造計算書		実験関係書類		工事関係書類
			模型	☒	原稿	☒	書籍・雑誌		書類ファイル				
			写真・動画		個人資料								
			図面デジタル		計算書デジタル		解析データ		実験データ				
			その他（ マイクロフィルム										
	11	含まれる 主なプロジェクト	多数										
	12	廃棄した資料	不明										
	13	公開の状況	公開		主な公開資料：								
			☒ 非公開		非公開の理由：公開施設ではない為								
	14	展覧会の実績	展覧会名称：										
	15	出版物の制作											
	16	備考											
	17	調査結果公開の可否	☒	可		不可		部分的に可（公開可の項目： ）					
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否								可		不可	

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

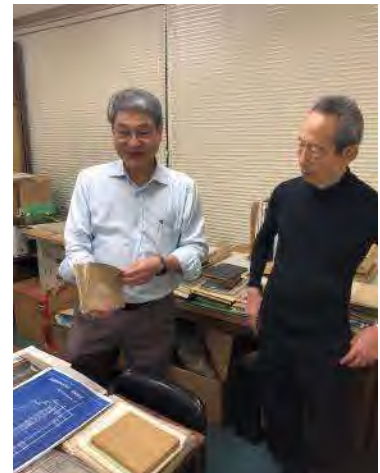
【見取り図・写真】



内藤多仲耐震構造研究館 外観



内藤多仲耐震構造研究館 銅像



内藤多仲耐震構造研究館 検査風景



内藤多仲耐震構造研究館 貯蔵マイクロフィルム



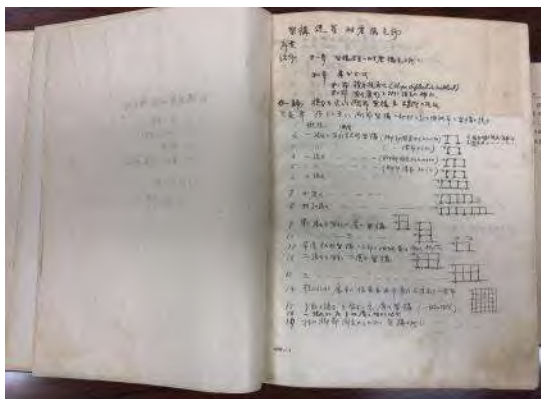
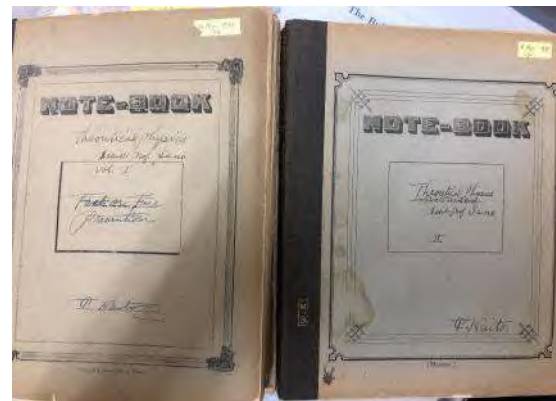
内藤多仲耐震構造研究館 貯蔵日記



内藤多仲耐震構造研究館 貯蔵壁体の耐震価値

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



内藤多仲耐震構造研究館 貯蔵 大学時代のノート



内藤多仲耐震構造研究館 貯蔵 著書

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	3-2	資料群名称	内藤多仲 内藤多仲自邸 所蔵資料				調査年月日	平成30年9月26日		
								調査員	新谷・伊藤		
	1	所有者	早稲田大学								
	2	管理者	山田 眞								
	3	資料所在地	新宿区喜久井町17								
	4	管理責任者	氏名：山田 眞 役職：創造理工学部建築学科教授			連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03 3203 9443 E-mail:yamadamk@waseda.jp			
	5	所有形態	寄贈	寄託	☒ 当初から所蔵	その他					
	6	資料の来歴	内藤多仲自邸には内藤多仲が生前設計した構造図や設計に利用した構造関連の書物が多く保管されている。自邸自体も内藤多中の設計である。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	内藤多仲自邸と別邸には次ページ以降に示す通り、膨大な量の計算書と構造図の原図（青焼き）が保存されており、床下に保存されていた図面については発見時に浸水等で劣化が激しかったが、現時点ではマイクロフィルムにて保管されている。建物自体も劣化は無く保存状態も良い。								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図）	☒ 青焼き図面	☒ スケッチ等	☒ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類			
			☒ 模型	☐ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☐ 書類ファイル					
			☐ 写真・動画	☐ 個人資料							
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ					
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	多数								
	12	廃棄した資料	不明								
	13	公開の状況	☐ 公開	主な公開資料：							
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではない為							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開可の項目： ）						
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					☐ 可	☐ 不可			

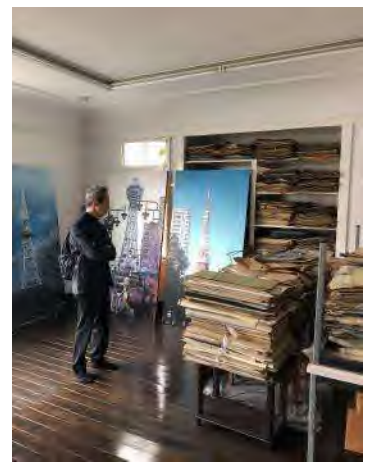
【見取り図・写真】



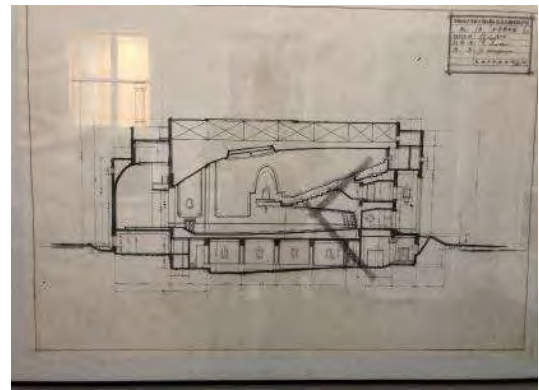
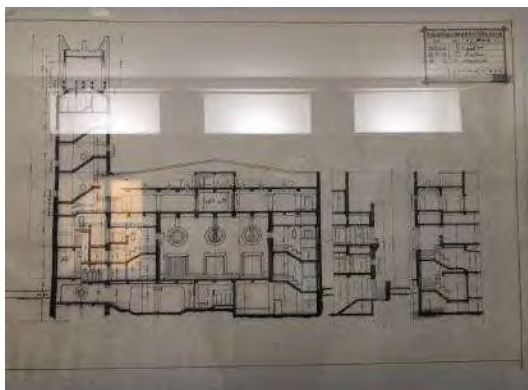
内藤多仲記念館 外観



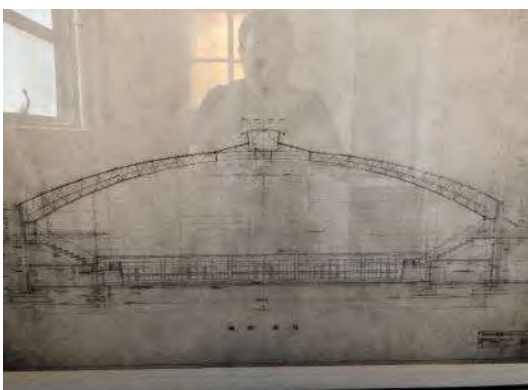
内藤多仲銅像



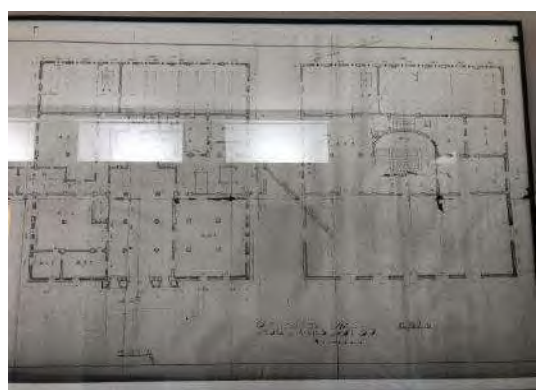
内藤多仲記念館 検査風景



早稲田大学大隈記念講堂 断面図



早稲田大学記念会堂 食堂断面図



早稲田大学図書館 平面図

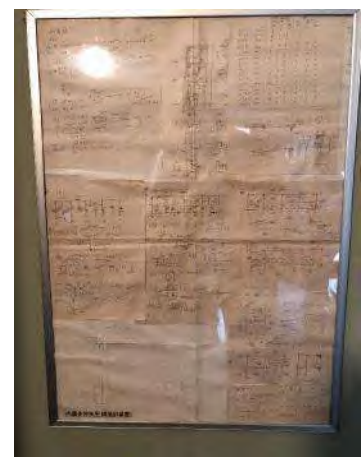
【見取り図・写真】



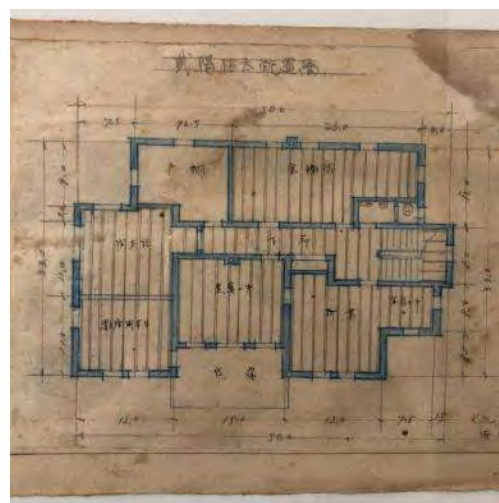
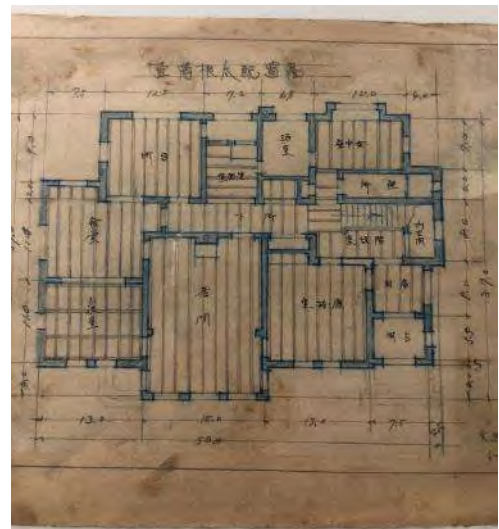
耐震五則



大阪通天閣模型

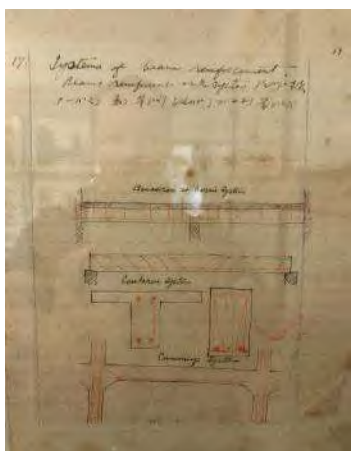
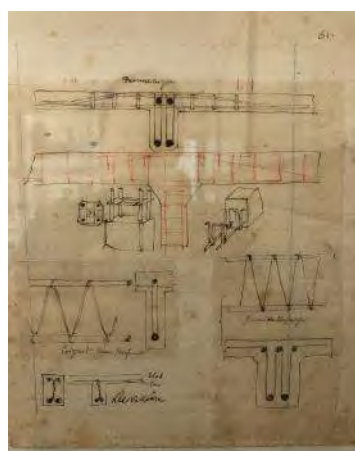
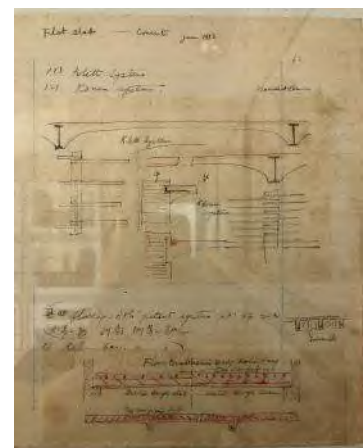
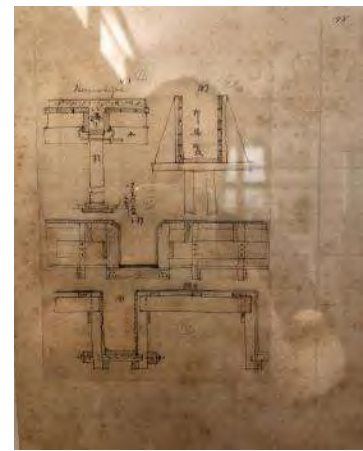
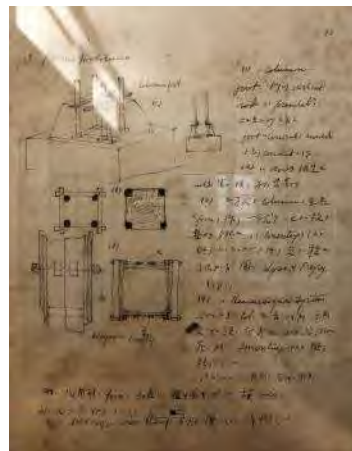


内藤多仲 構造計算書



内藤多仲 図面

【見取り図・写真】



内藤多伸 スケッチ

4.4

武藤 清

むとう きよし

1903 年（明治 36 年）～1989 年（平成元年）

東京大学名誉教授。永年の耐震構造に関する研究により 1964 年日本学士院恩賜賞受賞。東京大学退官後、鹿島建設副社長として霞が関ビルディングを始めとする多くの超高層建築の陣頭指揮をとり、地震国日本における超高層建築実現の礎を築く。また、国際地震工学会初代会長に就任し、地震多発地域での耐震構造の普及に尽力する。

・年表

1903 年（明治 36 年）	茨城県生
1925 年（大正 14 年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1935 年（昭和 10 年）	東京帝国大学工学部建築学科教授
1963 年（昭和 38 年）	東京大学退官、鹿島建設副社長就任
1964 年（昭和 39 年）	日本学士院恩賜賞受賞
1968 年（昭和 43 年）	霞が関ビルディング竣工、科学技術庁長官賞、藍綬褒章
1969 年（昭和 44 年）	株式会社武藤構造力学研究所設立
1970 年（昭和 45 年）	日本建築学会大賞
1979 年（昭和 54 年）	文化功労者
1983 年（昭和 58 年）	文化勲章

・主な構造設計作品

霞が関ビルディング（1968）、浜松町世界貿易センタービル（1970）、京王プラザホテル（1971）、新宿三井ビルディング（1974）、サンシャイン 60（1978）、赤坂プリンスホテル（1982）、東京都庁舎（1990）

・主な著作

耐震計算法（1963）、超高層建築へのアプローチ（1966）、建築学大系 耐震設計法（1968）、超高層建築（全四巻、1972）、耐震設計シリーズ（全五巻、1977）

4.4.1 昨年度調査の概要

武藤構造力学研究所の流れをくむ小堀鐸二研究所，ならびに東京大学における後継研究室である塩原・田尻研究室へヒアリングを行った。結果，小堀鐸二研究所では，武藤資料として実プロジェクトの報告書と最終講義資料，静岡の資料保管センターに関連資料を保有しているとの回答があり，塩原・田尻研究室では，武藤資料として学位論文（PDF）と青山博之東京大学名誉教授が執筆した英文の武藤清紹介原稿（PDF）を保有しているとの回答があった。このほか，武藤資料保有の可能性のある候補として，鹿島建設と東京大学建築学専攻図書館が挙げられ，次年度に調査することとした。

4.4.2 本年度調査の概要

昨年度の調査において，武藤資料保有候補先として挙げられた鹿島建設と東京大学建築学専攻図書館にヒアリングを行った。結果，鹿島建設では，武藤研究室の資料はすべて小堀鐸二研究所に移管済みであるとの回答があり，東京大学建築学専攻図書館では，論文や書籍を除いて武藤資料に該当するようなものは所蔵していないとの回答があった。

資料保有先の情報が少ないため，改めて東京大学の武藤研究室出身である青山博之東京大学名誉教授にヒアリングを行ったところ，やはり武藤資料は小堀鐸二研究所にしかないのではないかとの回答であった。

武藤清の親族の方とも連絡が取れ，ダンボール 1 箱分の資料を所有しているとの回答があったが，現状未整理のため，後日改めて現地調査をさせていただくこととした。

霞が関ビルディングの施主である三井不動産では，本年度霞が関ビルディング 50 周年にあたり霞が関ビルディング関連資料を関係各所より収集し，多数保管している。製本図面，計算書，建設委員会議事録，現場写真，関連書籍などである。現状未整理のため，後日改めて詳細に現地調査をさせていただくこととした。

以上の経緯により，本年度は小堀鐸二研究所にのみ現地調査を行った。調査内容の詳細について，次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	4-1	資料群名称	武藤清資料（小堀鐸二研究所）				調査年月日	平成30年10月16日				
								調査員	浜田英明、栗田大輝				
	1	所有者	株式会社小堀鐸二研究所										
	2	管理者	小鹿紀英										
	3	資料所在地	小堀鐸二研究所 資料保管センター（静岡県）										
✓	4	管理責任者					連絡担当者						
	5	所有形態	寄贈	✓	寄託		当初から所蔵	その他					
	6	資料の来歴	鹿島建設から移管された。										
	7	著作権保有者											
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：段ボール 17箱 形態：約45cm×35cm×35cm 管理方法：すべて段ボール内に入れられ資料保管センターに保管中										
	9	資料作成年代											
	10	主な資料種別	図面（原図）		青焼き図面	✓	スケッチ等	✓	構造計算書	✓	実験関係書類		工事関係書類
			模型	✓	原稿	✓	書籍・雑誌	✓	書類ファイル				
			✓	写真・動画	✓	個人資料		マイクロフィルム					
			図面デジタル		計算書デジタル		解析データ		実験データ				
			その他（ 履歴書、御進講資料、ビデオテープ、スライド、特許証書 ）										
	11	含まれる 主なプロジェクト	NHKホールタワー、霞が関ビル、UHFタワー										
	12	廃棄した資料											
	13	公開の状況	公開		主な公開資料：								
			✓	非公開		非公開の理由：資料保管センター（静岡）に保管中のため							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：										
	15	出版物の制作											
	16	備考	別紙リストに示す通り、資料は武藤氏の論文や講演、書籍の原稿や実験データなどが主体である。設計図書の類のものとしては 評定資料や構造設計概要図書などがある。超高層ビルや原子力発電所関係の耐震設計資料が豊富に揃っている。 また、戦時中の耐弾構造関係の資料や原爆鑑定資料「広島調査報告書」などかなり貴重な資料がまとまった形で保存されてい る。										
	17	調査結果公開の可否		可		不可	✓	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否								可		不可	

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



飛来物に対する構造評価 等



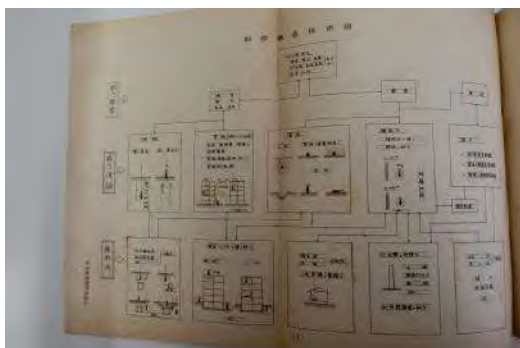
武藤清履歴書



爆圧に対する構造評価 等



御進講資料



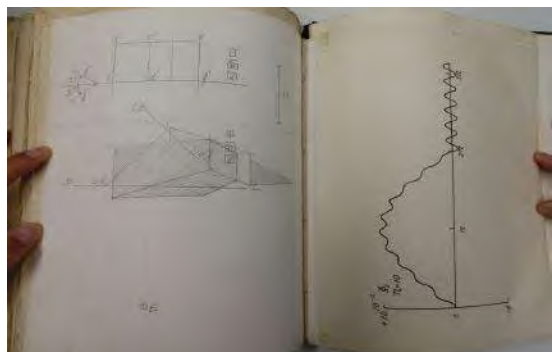
耐弾構造体系図



武藤清最終講義資料



爆圧波形図



波形図

武藤先生関連資料一覧

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
1	1989-01568	サンフェルナンド地震(1971年2月9日)におけるKIIビルの強震記録とその振動解析 (武研資料)	770170017
	1993-00023	STUDIES ON SEISMIC ANALYSIS OF KASUMIGASEKI BUILDING (武研資料) (別刷)	770170017
	1993-00027	MEASUREMENT & ANALYSIS OF STRONG EARTHQUAKE MOTIONS IN JAPAN 1964. 1 (武研資料)	770170017
	1993-00030	EARTHQUAKE RESISTANT DESIGN OF TALL BUILDINGS IN JAPAN SEPTEMBER 1964 [別刷/PROCEEDINGS OF THE SYMPOSIUM ON THE HIGH-RISE & LONG-SPAN STRUCTURES] (武研資料)	770170017
	1993-00031	EARTHQUAKE-RESISTANT CONSTRUCTION ["SCIENCE IN JAPAN 1985"別刷] (武研資料)	770170017
	1993-00057	NEWLY-DEvised REINFORCED CONCRETE SHEAR WALLS FOR HI-RISE BUILDING STRUCTURES OCT. 1969 -SEAOC CONVENTION OF HAWAII- (KIYOSHI MUTO) [MUTO INST] (武研資料)	770170017
	1993-00058	THE EFFECTS OF FOUNDATION SOILS ON SEISMIC MOTION (1969 ANNUAL REPORT) (武研資料)	770170017
	1993-00068	A STUDY ON REINFORCED CONCRETE SLITTED SHEAR WALLS FOR HIGH-RISE BUILDINGS [5WCEE ROME 1973] (武研資料)	770170017
	1993-00076	DESIGN & EXECUTION OF A TALL REINFORCED CONCRETE BUILDING WITH DUCTILE MOMENT RESISTING FRAME JUNE 1975 [KAJIMA CORP.] (武研資料)	770170017
	1993-00082	STUDY ON ASEISMIC CAPACITY OF A HIRC (HIGHRISE REINFORCED CONCRETE) BUILDING REFERENCED TO NEWLY PROPOSED CODES IN JAPAN & USA AUG. 1979/別刷 (武研資料)	770170017
	1993-00083	DYNAMIC DESIGN CRITERIA FOR BUILDINGS (KIYOSHI MUTO) AUGUST 1980/別刷 (武研資料)	770170017
	1993-00084	RESEARCH & DEVELOPMENT OF STEEL STRUCTURES -ASEISMIC STUDY OF THERMAL POWER PLANTS- -SEMINAR JUNE 3 1983- (武研資料)	770170017
	1993-00085	BASIC STUDY ON THE ANTISEISMIC DESIGN OF A 35-STORY BUILDING (武研資料)	770170017
	1993-00089	THE MAPS OF SEISMIC ZONING OF COUNTRIES (武研資料)	770170017
	1993-00106	EARTHQUAKE RESPONSE ANALYSIS FOR A BWR NUCLEAR POWER PLANT USING RECORDED DATA [1st SMIRT (K2/1)/BERLIN 20-24 SEPTEMBER 1971/別刷] (武研資料)	770170017
	1993-00110	STUDIES ON ASEISMIC DESIGN FOR NUCLEAR POWER PLANTS (別刷) (MUTO/UCHIDA/TAKASE) (武研資料)	770170017
	1993-00111	EXPERIMENTAL & ANALYTICAL STUDIES ON SEISMIC RESPONSE BEHAVIOR OF HTGR CORE -PART 1. EXPERIMENTAL STUDY- 別刷 (武研資料)	770170017
	1993-00112	EXPERIMENTAL & ANALYTICAL STUDIES ON SEISMIC RESPONSE BEHAVIOR OF HTGR CORE -PART 2. ANALYTICAL STUDY ON DYNAMIC RESPONSE CHARACTERISTICS- 別刷 (武研資料)	770170017
	1993-00113	EXPERIMENTAL & ANALYTICAL STUDIES ON SEISMIC RESPONSE CHARACTERISTICS OF HTGR CORE -PART 3. ESTIMATION OF SEISMIC RESPONSE OF ACTUAL CORE- 別刷 (武研資料)	770170017
	1993-00118	米国特許証書(コピー)「アンブレラ・トラス」"UMBRELLA TYPE FRAME STRUCTURES" (武研資料)	770170017
	1993-00127	14階プレハブアパート構造に関する武藤副社長殿の御指示 報告書 昭和42(1967)年4月6日 (武研資料)	770170017
	1993-00132	鉄筋コンクリート構造の耐震対策(案)(震外対策委員会資料1~3, 第2読案)(R/C) (武研資料)	770170017
	1993-00133	エレベータの耐震設計法についての見解 昭和48(1973)年11月 [武藤研究室] (武研資料)	770170017
	1993-00134	特別講演 第3回地震工学会議 日本における耐震建築の動向(日本文原稿) 1964年12月 (武藤 清) (武研資料)	770170017
	1993-00135	要望書 強震観測情報交流促進について (武藤 清) 昭和49(1974)年8月20日 (武研資料)	770170017
	1993-00136	要望書 強震記録情報センターの機構の整備について 昭和48(1973)年8月30日 (武研資料)	770170017
	1993-00137	米国における耐震構造に関する研究開発推進のための勧告 (武藤 清) 昭和48(1973)年11月22日 (武研資料)	770170017
	1993-00300	鹿島建設 武藤記念研究室 (パンフレット) (武研資料)	770170017
	1993-00301	武藤構造力学研究所 (パンフレット) (武研資料)	770170017
	1993-00302	武藤構造力学研究所 -MUTO INSTITUTE OF STRUCTURAL MECHANICS- (英語版・パンフレット) (武研資料)	770170017
	1993-00303	経歴書 株式会社武藤構造力学研究所 昭和59(1984)年11月 (パンフレット) (武研資料)	770170017
	1993-00307	コンピュータの耐震据付MK工法 [協和電設(株)・(株)武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170017
	1993-00308	コンピュータ耐震据付工法 [協和電設(株)電設部/(株)武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170017
	1993-00309	コンピュータの耐震据付工法 1975年7月 [(株)武藤構造力学研究所/協和電設(株)] (武研資料)	770170017
	1993-00310	通信機器据付工法の耐震実験 -イーストマンカラー 16mm・100m・9分- 1972.3.31 [共同研究:日本電信電話公社・武蔵野電気通信研究所・国際電信電話研究所/協力:武藤構造力学研究所/製作:鹿島映画機] (武研資料)	770170017

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	1993-00311	コンピュータの安全対策 ー安全技術レポート14ー [東京海上火災保険㈱] (武研資料)	770170017
	1993-00323	武藤研究室リーフレット集 (LEAFLETS/ENGLISH EDITION VOL. 1/1982. 2) (武研資料)	770170017
	2000-00345	MIPP MUTO INSTITUTE PROGRAM PACKAGES AUGUST 1973 [MUTO INSTITUTE OF STRUCTURAL MECHANICS] (武研資料)	770170017
	2017-00148	【武藤研究室資料】Journal of The Franklin Institute.NOVEMBER/DECEMBER.1976	770170017
	2017-00149	【武藤研究室資料】LATERAL FORCE DISTRIBUTION COEFFICIENTS AND STRESS ANALYSIS WALLED FRAMES	770170017
	2017-00150	【武藤研究室資料】第2回 世界地震工学会議報告 (1960年7月10日～18日)	770170017
	2017-00151	【武藤研究室資料】Second World Conference on Earthquake Engineering July 11-18 1960 Tokyo and Kyoto ABSTRACTS OF PAPER [WCEE]	770170017
	2017-00152	【武藤研究室資料】Second World Conference on Earthquake Engineering July 11-18 1960 Tokyo and Kyoto LIST OF PARTICIPANTS [WCEE]	770170017
	2017-00153	【武藤研究室資料】学術月報 Vol.13 No.5 1960.8 [日本学術振興会]	770170017
	2017-00154	【武藤研究室資料】Second World Conference on Earthquake Engineering July 11-18 1960 Tokyo and Kyoto PROGRAM [WCEE]	770170017
	2017-00155	【武藤研究室資料】武藤研究室リーフレット集 (LEAFLETS/ENGLISH EDITION VOL. 1/1982. 2) (武研資料)	770170017
	2017-00156	【武藤研究室資料】武藤研究室 リーフレット集(第1回、第2回)再版 1979年11月 [武藤研究室]	770170017
	2017-00157	【武藤研究室資料】武藤研究室 リーフレット集(第3回)再版 1981年9月 [武藤研究室]	770170017
	2017-00158	【武藤研究室資料】武藤研究室 リーフレット集(第4回) 1981年12月 [武藤研究室]	770170017
	2017-00159	【武藤研究室資料】履歴書	770170017
	2017-00160	【武藤研究室資料】超高層建築の耐震設計の動向 昭和60年4月 (武藤研究室)	770170017
2	2017-00161	【武藤研究室資料】日本原燃サービス(株)殿 建物・構造物の防護設計に係る安全審査資料作成業務(その4) 最終報告書 平成3年9月 [(株)小堀鐸二研究所]	770170018
	2017-00162	【武藤研究室資料】日本原燃サービス(株)殿 建物・構造物の防護設計に係る安全審査資料作成業務(その3) 最終報告書 平成3年3月 [(株)小堀鐸二研究所]	770170018
	2017-00163	【武藤研究室資料】爆圧に依る構造物の破壊に関する理論的研究 昭和14年3月 [武藤 清]	770170018
	2017-00164	【武藤研究室資料】受託研究報告書 外部飛来物に対する合理的構造評価手法の確立に関する研究(フェーズⅡ) ー11電力殿ー 平成9年度下半期(最終報告書) 平成10年3月 [(株)小堀鐸二研究所]	770170018
	2017-00165	【武藤研究室資料】電力共通研究 外部飛来物に対する合理的構造評価手法の確立に関する研究(フェーズⅡ) 追補3、多層版衝突研究 SRI報告書 平成10年4月	770170018
	2017-00166	【武藤研究室資料】外部事象に対する防護設計の考え方 [鹿島建設(株)]	770170018
3	2017-00173	【武藤研究室資料】建築基準法に基づく大臣認定書(1)	770170020
	2017-00174	【武藤研究室資料】建築基準法に基づく大臣認定書(2)	770170020
	2017-00175	【武藤研究室資料】建築基準法に基づく大臣認定書(3)	770170020
	2017-00176	【武藤研究室資料】建築基準法に基づく大臣認定書(4)	770170020
	2017-00177	【武藤研究室資料】要望書	770170020
	2017-00178	【武藤研究室資料】朝日賞	770170020
4	1993-00170	武藤記念研究室 リーフレット一覧表 /68年6月 NO. 1～24/73年6月 NO. 25～36/79年6月 NO. 37～77/81年2月 NO. 78～86/83年9月 NO. 87～100 (武研資料)	770170022
	1993-00172	動的耐震設計の開発のために 高層フレームの地震応答 ーアプリケーションプログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00173	動的耐震設計の開発のために 全体曲げ変形を考慮した高層フレームの地震応答解析 ーアプリケーションプログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00175	新しい耐震設計の開発のために パネルゾーンのせん断変形を考慮した略算法 ーアプリケーションプログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00177	動的耐震設計の開発のために (解説) 電子計算機によるフレーム地震応答の精密解析 (武研資料)	770170022
	1993-00179	動的耐震設計の開発のために / 純せん断パネルをもつ高層フレームの耐震計算法(FAPP法) ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00180	動的耐震設計シリーズ / 霞ヶ関ビルの地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00183	動的耐震設計シリーズ / 世界貿易センタービルの地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00185	動的耐震設計シリーズ / 鹿島本社ビルの地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00186	動的耐震設計シリーズ / 帝国ホテルの地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00188	動的耐震設計の開発のために / 偏微分方程式による塔状構造物の地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00189	動的耐震設計の開発のために / 煙突の地震応答解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00190	新しい耐震設計の開発のために / RC造超高煙突の耐震解析 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00191	新しい建築技術のために / 任意形平面架構の応力および変形 ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022
	1993-00192	新しい建築技術のために / 任意形立体架構の応力解析 (SPAN) ーアプリケーション・プログラム紹介ー (武研資料)	770170022

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	1993-00193	動的地震設計シリーズ／原電東海発電所の地震応答解析　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00194	動的地震設計シリーズ／武蔵野線多摩川橋梁の地震応答解析　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00197	新しい耐震設計の開発のために　／基礎周辺地盤の応力と変形　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00198	新しい構造設計のために　／ハニカムビームのせん断剛性　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00199	新しい耐震設計の開発のために／霞ヶ関ビルと地震　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00200	新しい耐震設計の開発のために／電子計算機のための地震記録のデジタル量　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00203	当社保有の数値化された地震記録（1969年4月現在）（武研資料）	770170022
	1993-00204	当社保有の数値化された地震記録（1970年4月現在）（武研資料）	770170022
	1993-00205	地震応答解析のための電子計算機プログラムの開発（1970年11月現在）　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00206	新しい耐震設計の開発のために　沈埋函の地震応答解析　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00207	動的地震設計シリーズ　京王プラザホテルの耐震・耐風解析　－アプリケーション・プログラム紹介－（武研資料）	770170022
	1993-00208	サンフェルナンド地震におけるKIIビルのシミュレーション　－ 1971年9月（武研資料）	770170022
	1993-00209	F. E. M. によるRC部材の弾塑性解析　1971年8月（武研資料）	770170022
	1993-00210	曲面体要素法による温度分布解析プログラム　1971年7月（武研資料）	770170022
	1993-00211	PCPVの応力解析　1971年7月（武研資料）	770170022
	1993-00212	各部毎に異なる減衰性を持つ振動系の自由振動解析　1971年9月（武研資料）	770170022
	1993-00213	減衰付振動方程式のモーダルアナリシス（武研資料）	770170022
	1993-00214	NHK本館の構造設計　1971年7月（武研資料）	770170022
	1993-00215	森永プラザビルディングの耐震解析　1973年3月（武研資料）	770170022
	1993-00216	帝人ビルの耐震解析（武研資料）	770170022
	1993-00217	国際通信センタービルの構造設計　1973年1月（武研資料）	770170022
	1993-00219	新宿三井ビルの構造設計　1972年12月（武研資料）	770170022
	1993-00221	東邦生命本社ビルの構造設計　1972年9月（武研資料）	770170022
	1993-00222	三井物産新社屋の構造設計　1972年12月（武研資料）	770170022
	1993-00223	HTGR CORE TEST　－垂直断面振動解析コードCOLLAN2-5－　1976年4月（武研資料）	770170022
	1993-00224	多層円筒サポート　－HTGR支持構造物の検討－　1976年1月（武研資料）	770170022
	1993-00226	コンピュータの耐震据付法　1972年10月（武研資料）	770170022
	1993-00227	砂質地盤の振動特性　1973年2月（武研資料）	770170022
	1993-00228	エレベータの地震応答解析　RAILAN　1973年12月（武研資料）	770170022
	1993-00229	超高層建築物設備機器の耐震設計指針　1974年1月（武研資料）	770170022
	1993-00230	SHELLAN　3, 4　－シェル構造物解析プログラム－　1975年6月（武研資料）	770170022
	1993-00232	HP型　クーリングタワーの解析　1975年12月（武研資料）	770170022
	1993-00233	人工地震波の作成　1976年8月（武研資料）	770170022
	1993-00235	池袋副都心再開発事業　－オフィス棟の構造設計－（サンシャイン）1975年12月（武研資料）	770170022
	1993-00239	配管系の耐震解析プログラム　－PIPAN－　1977年12月（武研資料）	770170022
	1993-00240	MIK 振動計測車　－その1: 相関技術を利用した振動実験法－（武研資料）	770170022
	1993-00242	SHELLAN　G1, G2　－大変形理論によるシェル構造物解析プログラム－（武研資料）	770170022
	1993-00244	高層ビルの立体解析法（FAPP4）　1977年12月（武研資料）	770170022
	1993-00245	MIK　SYSTEM　－相関技術を利用した振動計測とデータ処理－（武研資料）	770170022
	1993-00246	人工地震波の作成　－その2: 原子力発電所への適用例－　1977年12月（武研資料）	770170022
	1993-00247	SHELLAN　2-AM　－付加質量付軸対称シェル構造物の動的解析プログラム－　1977年12月（武研資料）	770170022
	1993-00248	HTGR CORE TEST　－水平断面振動実験－　1977年1月（武研資料）	770170022
	1993-00249	HTGR CORE TEST　－水平断面振動解析コードCOLLAN2-H－　1977年1月（武研資料）	770170022
	1993-00250	スリット式耐震壁　－強くて経済的な超高層ビルを－　1977年3月（武研資料）	770170022
	1993-00251	高層ビルの耐震解析－貫システム　FAPP－FASPプログラム(その1)　1976年8月（武研資料）	770170022
	1993-00252	RC造高層アパートの耐震解析(真駒内緑町団地)　1976年7月（武研資料）	770170022
	1993-00254	振動アドミッタンス理論に基づく建屋と地盤の動的相互作用に関する研究　－(その1) 剛体基礎の場合－（武研資料）	770170022
	1993-00256	RC造超高煙突の耐震設計　その1　－電源開発・松島火力発電所煙突－　1978年10月（武研資料）	770170022
	1993-00258	RC造超高煙突の耐震設計　その2　－電源開発・松島火力発電所煙突－　1979年1月（武研資料）	770170022
	1993-00260	CANDU CORE SEISMIC TEST　－1/5縮尺モデル強制振動実験－（武研資料）1979年1月 [電源開発(株)／武蔵構造力学研究所]	770170022
	1993-00261	HiRC25階建アパートの耐震解析　－サンシティG棟－　1978年6月（武研資料）	770170022
	1993-00262	HiRC25階建アパートの耐震設計　－サンシティG棟－　1980年9月（武研資料）	770170022

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	1993-00264	川崎日航ホテルの耐震解析 1981年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00265	筋かい付鉄骨骨組の実験と解析 1981年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00267	100階建への挑戦 1979年7月 (武研資料)	770170022
	1993-00269	東京簡易保険会館の構造設計 1981年12月 (武研資料)	770170022
	1993-00270	火力発電所の耐震研究 一袖ヶ浦火力タービン棟一 1981年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00271	大スバンドームの地震応答解析 一竹原火力発電所屋内貯炭場一 1981年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00272	国内地震情報の検索システム 1981年10月 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1993-00273	国内地震情報の検索システム 1981年10月 [武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	1993-00275	国内地震情報の検索システム 1981年10月 (93-00273のカラー版) (武研資料)	770170022
	1993-00276	原子力発電所タービン建屋における架台と建屋の一体化による耐震性の向上 1979年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00277	宮城県沖地震(1978年6月12日)における仙台市内近接3地点の地震動 1979年12月 (武研資料)	770170022
	1993-00278	日立大森第二別館の耐震解析 1980年5月 (武研資料)	770170022
	1993-00286	振動アドミタンス理論に基づく建屋と地盤の動的相互作用に関する研究 一(その2)定常上下起振力に対する基礎版の応答性状一 1982年1月 (武研資料)	770170022
	1993-00287	半無限弾性体地表面点加振解の無限積分を有限積分で表わす方法 1982年1月 (武研資料)	770170022
	1993-00288	GREEN関数(振動アドミタンス)の離散化手法を用いた建屋と地盤の動的相互作用の研究一上下方向地震動に対する原子炉建屋の応答性状 (武研資料)	770170022
	1993-00318	武藤研究室リーフレット集 (第3回 No. 37~no. 77) 1979年6月 (武研資料)	770170022
	1993-00319	武藤研究室リーフレット集 (第3回 No. 37~no. 79)再版 1981年9月 (武研資料)	770170022
	1993-00320	武藤研究室リーフレット集 (第4回 No. 78~no. 86) 1981年12月 (武研資料)	770170022
	1993-00321	武藤研究室リーフレット集 (第5回 No. 87~no. 100) 1983年9月 (武研資料)	770170022
	1997-00501	新しい耐震設計の開発のために／ 純せん断パネルをもつ高層フレームの耐震計算法(FAPP法) 一その2 一 〈アプリケーション・プログラム紹介〉 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00502	新しい耐震設計の開発のために／ 振子による霞ヶ関ビルの振動実験 一アプリケーション・プログラム紹介 一 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00503	地震応答解析のための電子計算機プログラムの開発(1968年8月現在) 一アプリケーション・プログラム紹介 一 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00504	最高裁判所庁舎大法廷棟の耐震解析 1971年7月 [武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	1997-00505	曲面体要素法による応力解析プログラム 1971年7月 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00506	PCPV実験モデルのクラック解析 1971年8月 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00508	3次元FEMIによるRC部材の弾塑性解析 1976年1月 [武藤研究室] (武研資料)	770170022
	1997-00509	RATU PLAZA PROJECT 一オフィス棟の耐震解析一 1977年12月 (武研資料) [鹿島建設(株) 武藤研究室]	770170022
	1997-00510	HTGR CORE TEST 一垂直断面振動実験一 1975年12月 [電源開発(株)／武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	1997-00511	HTGR CORE TEST 一六角黒鉛ブロックの衝突パターン解析一 [武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	1997-00512	HTGR CORE TEST 一直列型振動実験とシミュレーション解析一 1975年6月 [電源開発(株)／武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	1997-00513	HTGR CORE TEST 一光弾性実験と周辺反力の測定一 1975年6月 [電源開発(株)／武藤構造力学研究所] (武研資料)	770170022
	2017-00179	【武藤研究室資料】テレビ東京 三田テクノピア「耐震テクノロジー」 1986.2.23 (30分) 【VHS】	770170022
	2017-00180	【武藤研究室資料】フジテレビ プリンストン大学 超頭脳日本人 【VHS】	770170022
	2017-00181	【武藤研究室資料】中部電力浜岡原子力発電所5号機建設記録 2004年5月 【DVD】 [企画:鹿島、監修:中部電力]	770170022
	2017-00182	【武藤研究室資料】ザ・ベストハウス123 2008年8月6日放送	770170022
	2017-00183	【武藤研究室資料】東京駅改築計画報告書、東京駅丸の内側高層化計画、第44回超高層ビル〜より高く、さらに上へ〜 2003年10月3日	770170022
	2017-00184	【武藤研究室資料】超高層霞ヶ関ビル、鹿島建設と超高層建築技術 2002年12月2日	770170022
5	1992-00293	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第1次報告書／ 1. 建築計画 2. 構造計画 3. 設備計画 1970年3月 [武藤構造力学研究所／日建設]	770170023
	1992-00294	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第1次報告書／ 4. 構造計算書 1970年3月 [武藤構造力学研究所]	770170023
	1992-00295	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第1次報告書／ 5. 風圧調査書 1970年3月 [武藤構造力学研究所]	770170023
	1992-00296	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第2次報告書／ 1. 周辺環境計画及び建築計画 2. 構造計画及び動的解析 3. 設備計画 1970年12月 [武藤構造力学研究所／日建設]	770170023
	1992-00297	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第2次報告書／ 4. 構造計算書 1970年12月 [武藤構造力学研究所]	770170023
	1992-00298	NHK放送センター総合整備 鉄塔建設計画 第2次報告書／ 5. 周辺環境計画のための交通基礎調査書 1970年12月 [武藤構造力学研究所／日建設]	770170023
	1992-00300	NHKホール・タワー調査団 海外視察報告書 一ホール篇一 1970年10月	770170023
	1993-00114	原子力発電所の耐震設計に関する研究 その1〜その7 (武研資料)	770170023
	2007-00175	武藤先生による1964年新潟地震の被害調査(金山) 写真	770170023

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	2017-00186	【武藤研究室資料】UHFタワー1	770170023
	2017-00187	【武藤研究室資料】UHFタワー2	770170023
	2017-00188	【武藤研究室資料】耐震設計は可能か(講演原稿)	770170023
	2017-00189	【武藤研究室資料】震が関ビル関係記事(週刊誌他)	770170023
	2017-00190	【武藤研究室資料】震が関ビル新聞記事他	770170023
	2017-00191	【武藤研究室資料】[NHK UHF放送タワー建設委員受託について][国際電々公社(株)新宿局舎新築工事引受けについて]	770170023
	2017-00192	【武藤研究室資料】AERA 2012.7.16 増大号 東電「想定外」は嘘の徹底的証拠	770170023
	2017-00193	【武藤研究室資料】Newton 1984, June vol.4 No.6	770170023
6	2017-00194	【武藤研究室資料】各種説明・諸原稿によく用いる写真集	770170024
	2017-00195	【武藤研究室資料】超高層建築へのアプローチー震ヶ関ビルー 武藤清編 [鹿島出版会]	770170024
	2017-00196	【武藤研究室資料】超高層建築へのアプローチー震ヶ関ビルー 武藤清編 [鹿島出版会]	770170024
	2017-00197	【武藤研究室資料】超高層建築へのアプローチー震ヶ関ビルー 武藤清編 [鹿島出版会]	770170024
	2017-00198	【武藤研究室資料】スコピエ市震災 ユーゴスラビア地震工学使節団報告 建築雑誌 昭和39年4月号 別刷 [武藤清、岡本舜三、久田俊彦]	770170024
	2017-00199	【武藤研究室資料】TORSIONAL PROBLEMS IN DESIGN OF HIGH-RISE BUILDINGS AUG.1968 [T.KOH,H.TAKASE,T.TSUGAWA]	770170024
	2017-00200	【武藤研究室資料】武藤先生掲載記事 ①Earthquake-Resistant Construction ②原爆鑑定まで(建築雑誌 Vol.100 1985年1月号)	770170024
	2017-00201	【武藤研究室資料】建設業しんこう 2010年9月 [(財)建設業振興基金]	770170024
	2017-00202	【武藤研究室資料】建設業しんこう 2010年10月 [(財)建設業振興基金]	770170024
	2017-00203	【武藤研究室資料】Structural Engineering Internatinal volume15,Number1 February 2005	770170024
	2017-00204	【武藤研究室資料】STEEL TODAY&TOMORROW No.1 NOV-DEC.1973	770170024
	2017-00205	【武藤研究室資料】CIVIL ENGINEERING IN JAPAN 1973 Vol.12	770170024
	2017-00206	【武藤研究室資料】耐震構造の発達ー超高層ビルへの道ー 武藤清教授最終講義 昭和38年5月	770170024
	2017-00207	【武藤研究室資料】耐震構造の発達ー超高層ビルへの道ー 資料 武藤清教授最終講義 昭和38年5月	770170024
	2017-00208	【武藤研究室資料】Civil Engineering ASCE 1971.MARCH	770170024
	2017-00209	【武藤研究室資料】建築技術手帳 1994年 [鹿島]	770170024
	2017-00210	【武藤研究室資料】トンネル博物誌	770170024
	2017-00211	【武藤研究室資料】橋の博物誌	770170024
	2017-00212	【武藤研究室資料】大空間博物誌	770170024
	2017-00213	【武藤研究室資料】超高層博物誌	770170024
	2017-00214	【武藤研究室資料】ロス地震とKIIビル ANIMATED KII VIBRATION IN '71 LA QUAKE 1972.JAN[鹿島建設 武藤研究室]	770170024
	2017-00215	【武藤研究室資料】ロス地震とKIIビル ANIMATED KII VIBRATION IN '71 LA QUAKE 1972.JAN[鹿島建設 武藤研究室]	770170024
	2017-00216	【武藤研究室資料】諸君！(文藝春秋のオビニオン雑誌) 1983.9	770170024
	2017-00217	【武藤研究室資料】諸君！(文藝春秋のオビニオン雑誌) 1983.9	770170024
	2017-00218	【武藤研究室資料】超高層ビルなんでも小事典 意外に知らないその素顔 鹿島編 1988年10月	770170024
	2017-00219	【武藤研究室資料】図解 超高層ビルのしくみ 建設から解体までの全技術 鹿島編 2010年5月	770170024
	2017-00220	【武藤研究室資料】原子炉施設の耐震設計 大崎順彦、渡部丹 監修 [産業技術出版]	770170024
7	2017-00222	【武藤研究室資料】建築構造汎論 内田祥三 [岩波全書]	770170025
	2017-00223	【武藤研究室資料】超高層ビルなんでも小事典 意外に知らないその素顔 鹿島編 1988年10月	770170025
	2017-00224	【武藤研究室資料】超高層ビル 最初の試みの記録 [18版] 石田繁之 著 [中公新書]	770170025
	2017-00225	【武藤研究室資料】耐風・耐震・耐火構造 小野薫 編 [共立全書]	770170025
	2017-00226	【武藤研究室資料】建築物耐震構造要領 日本学術振興会編 [岩波全書]	770170025
	2017-00227	【武藤研究室資料】耐震建築構造要領 [日本建築学会]	770170025
	2017-00228	【武藤研究室資料】PROCEEDINGS OF THE WORLD ENGINEERING CONGRESS TOKYO 1929 萬國工業会議 論文集	770170025
	2017-00229	【武藤研究室資料】各種建築物の耐震度に関する研究報告 第1号 1948年9月～1950年8月 [耐震試験委員会]	770170025
	2017-00230	【武藤研究室資料】鹿島建設 社史 1970年～2000年	770170025
	2017-00231	【武藤研究室資料】鹿島建設 社史 付録・年表	770170025
	2017-00232	【武藤研究室資料】石川太郎 追憶録	770170025
	2017-00233	【武藤研究室資料】耐震設計シリーズ2 鉄筋コンクリート構造物の塑性設計 武藤清 著 [丸善]	770170025
	2017-00234	【武藤研究室資料】耐震設計シリーズ3 構造物の強度と変形 武藤清 著 [丸善]	770170025
	2017-00235	【武藤研究室資料】耐震設計シリーズ5 構造力学の応用 武藤清 著 [丸善]	770170025
	2017-00236	【武藤研究室資料】建築学大系14 構造設計法 (第1版) [彰国社]	770170025
	2017-00237	【武藤研究室資料】建築学大系14 構造設計法 (第3版) [彰国社]	770170025
	2017-00238	【武藤研究室資料】建築学大系19 建築耐震論 (第3版) [彰国社]	770170025
	2017-00239	【武藤研究室資料】高等建築学 第5巻 トラス・短形ラーメンとアーチ 小野薫・武藤清 著 [常磐書房]	770170025
	2017-00240	【武藤研究室資料】超高層ビルのあけぼの(少年の科学) 武藤清・岩佐氏寿 [鹿島出版会]	770170025
	2017-00241	【武藤研究室資料】DYNAMICS OF STRUCTURES Ray W.Clough、Joseph Penzien [McGraw-Hill]	770170025

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	2017-00242	【武藤研究室資料】Aseismic Design Analysis of Buildings KIYOSHI MUTO [MARUZEN]	770170025
	2017-00243	【武藤研究室資料】Earthquake Design of Concrete Masonry Buildings-Volume1 [Prentice Hall]	770170025
	2017-00244	【武藤研究室資料】NOTES ON EARTHQUAKE-RESISTANT CONSTRUCTION By Tachu Naito,Dr.Eng. Professor of Architecture,Waseda University,Tokyo Spring 1939	770170025
	2017-00245	【武藤研究室資料】高等建築技術指針 昭和39年3月 [(社)日本建築学会]	770170025
	2017-00246	【武藤研究室資料】耐震構造汎論 佐野利器、谷口忠 著 [岩波全書]	770170025
	2017-00247	【武藤研究室資料】学会に生きてー建築学会八十年の半生雑記ー 高杉造酒太郎 著	770170025
	2017-00248	【武藤研究室資料】地震と建築 大崎順彦 著 [岩波新書]	770170025
	2017-00249	【武藤研究室資料】佐野利器【VHS】	770170025
	2017-00250	【武藤研究室資料】高等建築学 第26巻 家屋耐震並耐風構造 佐野利器・武藤清 著 [常盤書房]	770170025
	2017-00251	【武藤研究室資料】地震と建築 工学博士 眞島健三郎 著	770170025
8	2017-00252	【武藤研究室資料】電力共通研究 外部飛来物に対する合理的構造評価手法の確立に関する研究(フェーズⅡ) 追補1、鉄筋比及び重ね継手に関する平板高速載荷実験 BAM報告書 平成10年4月 [小堀鐸二研究所]	770170026
	2017-00253	【武藤研究室資料】電力共通研究 外部飛来物に対する合理的構造評価手法の確立に関する研究(フェーズⅡ) 追補2、重ね継手に関する梁高速載荷実験 住友金属テクノロジー報告書 平成10年4月 [小堀鐸二研究所]	770170026
	2017-00254	【武藤研究室資料】受託研究報告書 原子力発電所施設の落下物体に対する耐性評価法の研究 平成元年度上半期 (経過報告書) 平成元(1989)年9月 [小堀研・大崎総合研・田治見エンジニアリングサービス/三菱重工/東芝/日立製作所]	770170026
	2017-00255	【武藤研究室資料】THE MATHEMATICAL THEORY OF ELASTICITY THIRD EDITION [GAMBRIDGE UNIVERCITY PRESS]	770170026
	2017-00256	【武藤研究室資料】黄色炸薬火焔噴射の特性(1K,8K,64K)写真 昭和20年3月 [武藤研究室]	770170026
	2017-00257	【武藤研究室資料】黄色炸薬火焔流動速度(1K,8K,64K)写真 昭和20年3月 [武藤研究室]	770170026
9	2017-00258	【武藤研究室資料】スライドフィルム(2ケース)/各種ブローシュア(帝国ホテル・池袋副都心再開発・国際通信センター・京王プラザホテル・ホテルパシフィック・新宿野村ビル・大和生命ビル・東邦生命ビル・三井ビルディング・最高裁判所庁舎・川崎日航ホテル・赤坂プリンス・世界貿易センタービル 他)/建築関連雑誌(毎日グラフ・建築文化・カラム・SD 他)	770170027
10	1993-00044	社内資料 建築基準法第38条に基づく認定関連様式 昭和53(1978)年2月 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00029	超高層の耐震安全性 (武藤 清) [「超高層の安全性と利点」昭和39(1964)年6月17日 抜粋](武研資料)	770170028
	1993-00032	高層建築の耐震設計に関して 1967. 3. 3 (武藤 清) (武研資料)	770170028
	1993-00033	1968年7月1日の地震と震ヶ関ビルの応答 1968. 7. 14 (武藤 清) (武研資料)	770170028
	1993-00034	十勝沖地震と震ヶ関ビルについて 1968. 6. 3 記者会見添付報告書 (武藤 清) (武研資料)	770170028
	1993-00035	スコピエ市震災 (武藤 清・岡本 舜三・久田 俊彦) (ユーゴスラビア地震工学使節団報告「建築雑誌」昭和39(1964)年4月号/別刷) (武研資料)	770170028
	1993-00036	超高層の安全性と利点 昭和39(1964)年6月17日 [鹿島建設株] (武研資料)	770170028
	1993-00038	超高層の利点 (「超高層の安全性と利点」より抜粋) 昭和39(1964)年9月15日 [鹿島建設株] (武研資料)	770170028
	1993-00039	超高層ビルの動的設計の開発のために (武藤 清) [「日本建築学会論文報告集・号外」昭和40(1965)年9月/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00040	コンクリート界の発展のために (武藤 清) (「コンクリート・ジャーナル」VOL. 4 NO. 1 1966. 1月号/別刷) (武研資料)	770170028
	1993-00041	高層建築技術指針の改訂に関する要望事項 -1966年5月6日建築学会に提出- 1966年4月25日 (武藤 清) [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00042	超高層ビル関係新技術(特許及ノウハウ)一覧表 昭和42(1967)年8月24日 [鹿島建設株] (武研資料)	770170028
	1993-00043	建築規準法改正の要点(武藤メモ) 昭和42(1967)年11月30日 (武研資料)	770170028
	1993-00045	最近の耐震設計の動向 (武藤 清) [「建築雑誌」昭和42(1967)年11月/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00046	超高層ビル建築における基礎工学的考察 (武藤 清) [日本ダム協会1967. 3. 1/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00047	【講演】地震と超高層ビル (武藤 清) [「コンクリート・ジャーナル」VOL. 5 NO. 5 1967. 5/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00048	超高層ビルにおける経済化のポイント 昭和43(1968)年7月1日 [武藤清 鹿島建設株] (武研資料)	770170028
	1993-00049	超高層ビル建設に関して -鹿島建設の経験による経済化のポイント- (武藤 清) 昭和43(1968)年7月1日 (武研資料)	770170028
	1993-00051	最近の耐震設計の動向について -H型鋼建築構造設計講習会特別講演シリーズ その3- (武藤 清) [「JSSC」VOL.4 NO.34 1968/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00052	震災と構造学の発展/武藤清 -地震と構造技術の発展- [「建築年報」1969年/別刷] (武研資料)	770170028
	1993-00053	超高層ビルの高さについて -京王ホテルの検討- 1969. 3. 28 [武藤研究室 室長:武藤清] (武研資料)	770170028
	1993-00054	京王プラザホテルの振りフラッターについて 昭和44(1969)年6月20日 [鹿島建設設計部 武藤研究室] (武研資料)	770170028
	1993-00055	京王プラザホテル振動実験結果から見た耐風・耐震安全性について 昭和45(1970)年12月15日 [京王プラザホテル設計室/鹿島建設武藤研究室] (武研資料)	770170028

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	1993-00056	超高層ビルの高さに関する見解 1969. 3. 28 [日本建築センター高層建築物構造審査委員会・横山建築構造設計事務所 工博・横山不学](武研資料)	770170028
	1993-00059	KIIビルの強震記録と振動解析 (武藤 清) [「建築雑誌」昭和46(1971)年8月号／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00060	PRELIMINARY サンフェルナンド地震(1971年2月9日)のKIIビル強震記録とその振動解析 報告書 1971年4月 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00063	ロス地震による教訓とその対策 昭和46(1971)年5月 [(財)建築業協会 ロス地震委員会](武研資料)	770170028
	1993-00064	ロスアンゼルス地震の意義 (武藤 清) [「建築雑誌」昭和46(1971)年8月号／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00065	世界貿易センタービルの沈下測定報告 1971年12月 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00066	霞ヶ関ビルの沈下測定報告 1971年12月 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00070	高層建築と耐震(対談)(武藤 清・高橋 慶夫) 一鋼構造教室講演シリーズ [JSSC VOL. 9 NO. 87 1973](武研資料)	770170028
	1993-00074	特設記事 電子計算機器の地震対策 一その現状と具体策一 (武藤 清・長田 正至) 1975年3月 (武研資料)	770170028
	1993-00075	コンピュータ耐震据付法 一MK工法一 (MK工法施工実績表とも) [協和電設(株)、(株)武藤構造力学研究所](武研資料)	770170028
	1993-00078	耐震規定の改訂を望む (武藤 清) [「建築雑誌」VOL. 91 NO. 1106 昭和51年4月号／抜刷](武研資料)	770170028
	1993-00080	地震と建築 一被害とその教訓一 (武藤 清) 日本学士院創立100年記念講演集／別刷 (昭和54(1979)年3月30日発行)(武研資料)	770170028
	1993-00081	超高層ビルの最適建設 昭和45(1970)年8月 [鹿島建設(株)](武研資料)	770170028
	1993-00087	特別講演 RC造建物と地震 一過去を顧みて一 (東京大学 名誉教授 武藤清)(別刷)(武研資料)	770170028
	1993-00088	建物の振動に及ぼす地盤の影響 地震応答解析へのアプローチ [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00090	世界の耐震研究の動向 (武藤 清)(武研資料)	770170028
	1993-00091	建築物の地震に対する信頼性 一日科技連(JICST)第3回信頼性シンポジウム特別講演資料一 講演者:武藤清／昭和48(1973)年4月24日 [主催:(財)日本科学技術連盟](武研資料)	770170028
	1993-00092	煙突設計法の再検討についての要望 1966. 3. 10 (武藤 清)(武研資料)	770170028
	1993-00093	東京上空(250mまで)の強風についての研究 1967. 6 (荒川 秀俊・堤 敬一郎) [三井不動産(株)](武研資料)	770170028
	1993-00094	フジテレビジョン・モニュメントの耐風安全性に関する研究 自由振動解析および自由振動実験 昭和44(1969)年4月20日 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00095	総合報告書 フジテレビ・モニュメントの耐風安全性について (特に振りフラッターの検討) 昭和44(1969)年4月7日 [武藤研究室／鹿島設計部](武研資料)	770170028
	1993-00096	大型RC煙突に作用する風圧力と煙突振動 (真田 早敏・中村 修・吉田 正邦・坪倉 久・高野 秀男) [風工学シンポジウム1982／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00097	大スパンドームをもつ屋内貯炭場のRC構造の応力測定と解析 (武藤 清・稲津 逸平・山本 肖悟・津川 恒久) [コンクリート工学 VOL.22 NO.10 OCT. 1984／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00099	私の受けた建築教育 (武藤 清) [「建築雑誌」VOL.90 NO.1101 昭和50年12月号／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00101	コールドホール改良型発電炉の耐震設計 (3)耐震設計研究 (武藤清) [日本原子力学会誌 VOL.5 NO.9 1963／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00103	PCPVの応力解析 解析プログラム 昭和44(1969)年8月10日 [武藤研究室](武研資料)	770170028
	1993-00104	原子力発電所の耐震設計 (武藤 清・久田 俊彦・福西 道雄) [日本原子力学会誌 VOL. 11 NO. 7 1969／別刷](武研資料)	770170028
	1993-00108	原子炉建屋模型の水平加力実験 [鹿島建設技術研究所・武藤研究室](武研資料)	770170028
	2017-00259	【武藤研究室資料】Presented to the IAEA Panel Discussion Meeting on ASEISMIC DESIGN AND TESTING OF NUCLEAR FACILITIES /STUDIES ON EARTHQUAKE RESISTANT DESIGN OF TOKAI NUCLEAR POWER STATION KIYOSHI MUTO /Chairman,Earthquake Design and Review Committee of Japan Atomic Power Co., Ltd. Professor Emeritus,University of Tokyo June 1967	770170028
	2017-00260	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計の考え方 (1979年4月版) [武藤研究室]	770170028
	2017-00261	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計の考え方 (1979年4月 初版)(1980年12月改訂) [武藤研究室]	770170028
	2017-00262	【武藤研究室資料】ASEISMIC DESIGN PHILOSOPHY AND APPLICATION FOR NUCLEAR POWER PLANTS 一1st edition(Japanese),April 1979 /2st edition(Japanese),DEC. 1980 /2st edition(English),JAN. 1982	770170028
	2017-00263	【武藤研究室資料】ASEISMIC DESIGN PHILOSOPHY AND APPLICATION FOR NUCLEAR POWER PLANTS 一1st edition(Japanese),April 1979 /2st edition(Japanese),DEC. 1980 /2st edition(English),JAN. 1982	770170028
	2017-00264	【武藤研究室資料】PROCEEDINGS OF THE INSTITUTION OF MECHANICAL ENGINEERS NUCLEAR ENERGY GROUP /Nominated Lecture SPECIAL REQUIREMENTS FOR THE DESIGN OF NUCLEAR POWER STATIONS TO WITHSTAND EARTHQUAKES By Professor KIYOSHI MUTO,R.W.BAILEY and K.J. MITHCELL 1963 VOLUME 177,NUMBER 7	770170028
	2017-00265	【武藤研究室資料】特別講演 第3回地震工学会議 日本における耐震建築の動向(日本文原稿) 1964年12月 武藤 清	770170028

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	2017-00266	【武藤研究室資料】RECENT TRENDS IN HIGH-RISE BUILDING DESIGN IN JAPAN By Kiyoshi Muto, Dr. Eng. President, International Association for Earthquake Engineering Professor Emeritus, University of Tokyo Preprint of the Special Address at The Third World Conference on Earthquake Engineering 23 January 1965, New Zealand	770170028
	2017-00267	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計に関する研究－その1－ 減衰係数の選択について[武藤研究室]	770170028
	2017-00268	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計に関する研究－その2－ 原電東海発電所の地震応答解析(不規則内部減衰係数の場合)[武藤研究室]	770170028
	2017-00269	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計に関する研究－その3－ BWR形540MW原子力建屋の地震応答解析(第1次設計)(不規則内部減衰係数の場合)[武藤研究室]	770170028
	2017-00270	【武藤研究室資料】原子力発電所の耐震設計に関する研究－その4－ 解析モデルの選定[武藤研究室]	770170028
11	1989-01498	耐震構造の理論 [武藤 清] (昭和16年7月施行 内務省主催防空幹部講習会資料 橋梁の爆撃と其の対策 ー東京帝国大学教授 工学博士 田中豊ー)	770170029
	2017-00275	【武藤研究室資料】爆圧 (9)(10)(11)(24)(25)(26) A	770170029
	2017-00276	【武藤研究室資料】鉄筋鉄骨コンクリート構造物抗力試験 (1)(2) B	770170029
	2017-00277	【武藤研究室資料】コンクリート床版 (36)(49) C	770170029
	2017-00278	【武藤研究室資料】コンクリート床版 (57)(55) C	770170029
	2017-00279	【武藤研究室資料】爆水中及び隧道内爆圧 (20)(21)(22)(39)(70) I	770170029
	2017-00280	【武藤研究室資料】爆圧 (63)(64)(116) J	770170029
	2017-00281	【武藤研究室資料】弾片 (4)(17) H	770170029
	2017-00282	【武藤研究室資料】高射砲陣地床版 (32)(41) K	770170029
	2017-00283	【武藤研究室資料】ガラス及び護防扉 (15)(16)(35) L	770170029
	2017-00284	【武藤研究室資料】爆弾に関する実験的研究報告其の I M	770170029
	2017-00285	【武藤研究室資料】爆弾に関する実験的研究報告其の II N	770170029
	2017-00286	【武藤研究室資料】床版貫徹及び侵徹 (29)(30)(33)(71) D	770170029
	2017-00287	【武藤研究室資料】床版貫徹 其の一 (0'')(0'')(3'')(31) F	770170029
	2017-00288	【武藤研究室資料】広島調査報告書	770170029
	2017-00289	【武藤研究室資料】爆弾による破壊機構の研究	770170029
	2017-00290	【武藤研究室資料】The Effects of Nuclear Weapons 1977	770170029
12	2017-00291	【武藤研究室資料】高層建築会議 特別講演 1973.8.30	770170030
	2017-00292	【武藤研究室資料】褒賞関係 昭和44年～昭和51年	770170030
	2017-00293	【武藤研究室資料】スリット壁 発明賞等 関係	770170030
	2017-00294	【武藤研究室資料】文化功労者関係	770170030
	2017-00295	【武藤研究室資料】文化功労者関係②	770170030
	2017-00296	【武藤研究室資料】スリット壁 関連資料	770170030
	2017-00297	【武藤研究室資料】武藤副社長 紫綬褒章申請関係 1968	770170030
	2017-00298	【武藤研究室資料】日本学士院会員候補者推薦資料(岡本君)	770170030
	2017-00299	【武藤研究室資料】武藤先生功績ファイル	770170030
	2017-00300	【武藤研究室資料】学士院会員候補者推薦(岡本舜三)昭和50年～昭和58年	770170030
	2017-00301	【武藤研究室資料】学士院百年記念講演会	770170030
	2017-00302	【武藤研究室資料】学士院恩賜賞関係(武藤)	770170030
	2017-00303	【武藤研究室資料】坪井善勝博士「研究業績および著書論文目録」	770170030
	2017-00304	【武藤研究室資料】昭和43年 紫綬褒章 申請書 武藤清	770170030
13	2017-00310	【武藤研究室資料】設備機器写真、図	770170031
	2017-00311	【武藤研究室資料】実験写真	770170031
	2017-00312	【武藤研究室資料】既存補強法 実験&パース	770170031
	2017-00313	【武藤研究室資料】高層ビル写真完成&工事中	770170031
	2017-00314	【武藤研究室資料】御進講資料 昭和44年5月30日 [鹿島建設(株)]	770170031
	2017-00315	【武藤研究室資料】皇太子殿下御視察御案内要領 御視察日昭和44年6月3日 [鹿島建設(株)]	770170031
	2017-00316	【武藤研究室資料】講書始の儀	770170031
	2017-00317	【武藤研究室資料】御進講	770170031
	2017-00318	【武藤研究室資料】武藤清 君 略歴及び著書・論文目録	770170031
	2017-00319	【武藤研究室資料】ENGINEERING SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING edited by JULIUS SOLNES EARTHQUAKE RESISTANT DESIGN OF TALL BUILDINGS IN JAPAN BY KIYOSHI MUTO	770170031
	2017-00320	【武藤研究室資料】日本工学会シンポジウム 主題:産業施設の地震災害とその対策 テキスト 昭和50年12月5日 [(社)日本工学会]	770170031
	2017-00321	【武藤研究室資料】昭和39年 第五十四回授賞審査要旨 日本学士院	770170031
	2017-00322	【武藤研究室資料】SD 別冊No.9 三井物産ビルの記録 高層オフィスビル計画のひとつの指針として	770170031
	2018-00001	【武藤研究室資料】超高層建築特別ゼミナール 動的耐震設計のトレーニングコース 武藤清ほか 昭和44年9月9日～10月6日 主催:(財)建築業協会	770170031

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	2018-00002	【武藤研究室資料】PROCEEDINGS OF THE INSTITUTION OF MECHANICAL ENGINEERS NUCLEAR ENERGY GROUP / Nominated Lecture SPECIAL REQUIREMENTS FOR THE DESIGN OF NUCLEAR POWER STATIONS TO WITHSTAND EARTHQUAKES By Professor KIYOSHI MUTO, R.W. BAILEY and K.J. MITCHELL 1963 VOLUME 177, NUMBER 7	770170031
	2018-00003	【武藤研究室資料】THE SAN FRANCISCO EARTHQUAKE AND FIRE OF APRIL 18, 1906 AND THEIR EFFECTS ON STRUCTURES AND STRUCTURAL MATERIALS [WASHINGTON GOVERNMENT PRINTING OFFICE 1907]	770170031
	2018-00004	【武藤研究室資料】SKK 1974 11月号 / No.2 新宿新都心開発協議会リポート	770170031
	2018-00005	【武藤研究室資料】各種写真 ネガ ブローシャ[武藤先生、地震御殿、地震の間、ヌサンタラビル鉄骨実験、基礎アンカ(WTC, 網町)、鉄骨加工・施工ほか雑写真]	770170031
14	2018-00010	【武藤研究室資料】超高層建築 1 計画編 吉武泰水 編 武藤清 監修 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00011	【武藤研究室資料】超高層建築 2 構造編 久田俊彦 編 武藤清 監修 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00012	【武藤研究室資料】超高層建築 3 設備編 渡辺要 編 武藤清 監修 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00013	【武藤研究室資料】超高層建築 4 施工編 二階盛 編 武藤清 監修 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00014	【武藤研究室資料】超高層建築 別巻 続施工編 二階盛 編 武藤清 監修 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00015	【武藤研究室資料】鉄筋コンクリート建物の動的耐震設計法・続(中層編) 梅村魁 編著 [技報堂出版]	770180001
	2018-00016	【武藤研究室資料】鉄筋コンクリート建物の動的耐震設計法 梅村魁 編著 [技報堂]	770180001
	2018-00017	【武藤研究室資料】中低層鉄骨建物の耐震設計法 (社)鋼材倶楽部 [技報堂出版]	770180001
	2018-00018	【武藤研究室資料】耐震工学 岡本舜三 著 [オーム社]	770180001
	2018-00019	【武藤研究室資料】安政見聞誌	770180001
	2018-00020	【武藤研究室資料】震災豫防調査会報告 第八十三号(家屋耐震構造論)	770180001
	2018-00021	【武藤研究室資料】BIBLIOGRAPHY OF ENGINEERING SEISMOLOGY by Edward P. Hollis	770180001
	2018-00022	【武藤研究室資料】21 建築構造学大系 特殊コンクリート構造 [彰国社刊]	770180001
	2018-00023	【武藤研究室資料】鹿島建設の歩み 人が事業であった頃 小野一成 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00024	【武藤研究室資料】改訂版 地震と建築 久田俊彦 [鹿島出版会]	770180001
	2018-00025	【武藤研究室資料】耐震設計シリーズ1 耐震計算法 武藤清 著 (第2版) [丸善]	770180001
	2018-00026	【武藤研究室資料】新建築学大系 36 骨組構造の解析 [彰国社]	770180001
	2018-00027	【武藤研究室資料】新訂 建築学大系 11 地震・振動学 [彰国社]	770180001
15	2018-00028	【武藤研究室資料】写真(サンフェナルド地震・Yugoslavia Earthquake)	770180002
	2018-00029	【武藤研究室資料】日経サイエンス原稿用の写真	770180002
	2018-00030	【武藤研究室資料】超々高層ビル(100階建)研究会[(株)鹿島建設]	770180002
	2018-00031	【武藤研究室資料】Ratu Plaza (ブローシャ)	770180002
	2018-00032	【武藤研究室資料】帝国ホテル 1970 (ブローシャ)	770180002
	2018-00033	【武藤研究室資料】帝国ホテル 本館落成記念画帖 昭和46年7月	770180002
	2018-00034	【武藤研究室資料】The PACIFIC 竣工写真	770180002
	2018-00035	【武藤研究室資料】赤坂プリンスホテル新館建設工事 竣工写真 昭和58年3月	770180002
	2018-00036	【武藤研究室資料】東邦生命ビル本社 建設記念写真 1975.4	770180002
	2018-00037	【武藤研究室資料】GINZA MITSUI BUILDING(ブローシャ) 昭和47年2月	770180002
	2018-00038	【武藤研究室資料】LIVE SHINJUKU 創造への出発(パンフレット)[新宿新都心開発協議会]	770180002
	2018-00039	【武藤研究室資料】池袋副都心計画 起工式(記念パンフレット) [(株)新都市開発センター]	770180002
	2018-00040	【武藤研究室資料】池袋副都心計画 起工式(記念パンフレット) [(株)新都市開発センター]	770180002
	2018-00041	【武藤研究室資料】札幌グランドホテル 1976 竣工記念写真	770180002
	2018-00042	【武藤研究室資料】霞ヶ関超高層ビル 立柱式(記念パンフレット) [(株)三井不動産]	770180002
16	2018-00044	【武藤研究室資料】原子力発電所耐震設計関連(調査報告書、原子炉地震対策小委員会経過報告書、東海原子力発電所の建設、耐震設計技術指針、原子力発電所の設計に関する研究、原子力発電所設備委員会報告書)ほか	770180003
	2018-00045	【武藤研究室資料】A HISTORY OF THE ELASTICITY AND STRENGTH OF MATERIALS - TODHUNTER AND PERRSON VOL. II PART I 1-1191	770180003
	2018-00046	【武藤研究室資料】A HISTORY OF THE ELASTICITY AND STRENGTH OF MATERIALS - TODHUNTER AND PERRSON VOL. II PART I 1192-1818	770180003
	2018-00047	【武藤研究室資料】A HISTORY OF THE ELASTICITY AND STRENGTH OF MATERIALS - TODHUNTER AND PERRSON VOL. I 1639-1850	770180003
	2018-00048	【武藤研究室資料】THEORY OF SOUND LOAD RAYLEIGH VOL. I	770180003
	2018-00049	【武藤研究室資料】THEORY OF SOUND LOAD RAYLEIGH VOL. II	770180003
	2018-00050	【武藤研究室資料】LATERAL FORCE DISTRIBUTION COEFFICIENTS AND STRESS ANALYSIS FOR WALLED FRAMES TOGETHER WITH A METHOD FOR STRESS INVESTIGATION OF REINFORCED CONCRETE BUILDINGS FOR LATERAL FORCES BY DON W. BUTLER, KIYOSHI MUTO	770180003
	2018-00051	【武藤研究室資料】写真(ブローシャ用ほか)	770180003
	2018-00052	【武藤研究室資料】新制 建築構造力学 武藤清、辻井静二、梅村魁 共著 [オーム社]	770180003
	2018-00053	【武藤研究室資料】佐野利器 小伝	770180003
17	2018-00059	【武藤研究室資料】PHOTOGRAPH OF HTGR CORE TEST -VERTICAL SLICE-	770180004
	2018-00060	【武藤研究室資料】PHOTOGRAPH OF HTGR CORE TEST -HORIZONTAL SLICE- 1	770180004
	2018-00061	【武藤研究室資料】PHOTOGRAPH OF HTGR CORE TEST -HORIZONTAL SLICE- 2	770180004
	2018-00062	【武藤研究室資料】常時微動測定写真 1977年6月14日(火) 午後6時~10時	770180004

箱No.	登録番号	タイトル	保存箱NO
	2018-00063	【武藤研究室資料】武藤 清 履歴書	770180004
	2018-00064	【武藤研究室資料】タワー計画案概要説明書 昭和46年1月	770180004
	2018-00065	【武藤研究室資料】BLOCK BEHAVIORS BY COM	770180004
	2018-00066	【武藤研究室資料】チペル実験写真 隧道内の爆風圧の性状	770180004
	2018-00067	【武藤研究室資料】小炸薬による 力積・木版・砂入箱・顛倒・支持法 試験写真集	770180004
	2018-00068	【武藤研究室資料】新潟地震 写真1(帝石ビル、三井物産ビル、北陸ガスビル、東映ホテル、NHK放送会館、川岸町県営アパート、警察学校、競技場、昭和大橋ほか)	770180004
	2018-00069	【武藤研究室資料】新潟地震 写真2(ガンセンター、小学校、中学校、電々ビル、新潟火力発電所、昭和石油、中央埠頭、新潟空港、日本軽金属、微動観測風景ほか)	770180004
	2018-00070	【武藤研究室資料】新潟地震 写真3(昭和石油付近、入船町、国道8号線、万代橋、新潟空港、白山駅ほか)	770180004
	2018-00071	【武藤研究室資料】新潟地震 写真4(両津岸壁、岩船、小針自由ヶ丘の石段、川岸町県営アパート、中央埠頭、鶴岡市本町通、万国橋、明石通、飛行場付近ほか)	770180004
	2018-00072	【武藤研究室資料】新潟地震 写真5(新潟駅付近、万代橋付近、新潟駅構内、競技場、体育館、白山公園、新潟県庁ほか)	770180004

4.5

坪井 善勝

つばい よしかつ

1907 年（明治 40 年）～1990 年（平成 2 年）

東京大学生産技術研究所教授。退官後は日本大学教授。退官後は株式会社坪井善勝研究室を設立。シェル構造研究の第一人者であり、その他清水建設技術顧問、国際シェル・空間構造学会（IASS）会長も務める。また構造デザイナーとしても優れた作品を残す。国立屋内総合競技場などの丹下健三氏との作品は坪井氏の構造設計に負うところが大きい。死後、その功績を記念し、国際シェル・空間構造学会によって坪井賞が設けられた。

・年表

1907 年（明治 40 年）	5 月 27 日東京生まれ
1932 年（昭和 7 年）	東京帝国大学大学院卒（武藤清研究室）
1937 年（昭和 12 年）	九州帝国大学 講師，助教授（土木工学科）
1942 年（昭和 17 年）	東京帝国大学第二工学部建築学科教授
1949 年（昭和 24 年）	東京大学生産技術研究所第 5 部教授
1965 年（昭和 40 年）	日本建築学会賞特別賞・文部大臣賞
1968 年（昭和 43 年）	日本大学教授
1976 年（昭和 51 年）	科学技術庁長官賞，日本建築学会大賞，エドゥアルド・トロハ賞
1979 年（昭和 54 年）	株式会社坪井善勝研究室設立
1978 年（昭和 53 年）	勲二等瑞宝章
1987 年（昭和 62 年）	日本学士院賞，国際シェル・空間構造学会会長（第 10 代）

・主な構造設計作品

愛媛県民館（1953），駿府会館（1957），東京国際貿易センター 2 号館（1958），国立屋内総合競技場（1964），東京カテドラル聖マリア大聖堂（1964），万博お祭り広場（1970），神慈秀明会教祖殿（1983）

・主な著作

「平面構造論」（1955），「曲面構造：シェルの理論とその応用」（1965），「連続体力学序説」（1977）

4.5.1 昨年度調査の概要

本年度の調査において、坪井善勝氏の経歴、作品一覧の情報収集を主に行った。

4.5.2 本年度調査の概要

本年度の調査において、株式会社中田捷夫研究室代表の中田氏、東京大学生産技術研究所川口健一教授、現日本大学（当時清水建設株式会社）中島肇教授にヒアリングを行った。結果、中田捷夫氏から国際シェル・空間構造学会(IASS)関連及び記念講演会関連資料を入手できた。また国立屋内総合競技場をはじめとする数々の作品の設計時の資料、スケッチ等については、中田氏を中心に探したが発見することができなかった。川口健一教授においては広島児童図書館の設計図原図をはじめとし、当時の一部の資料が保管されていることが確認された。元清水建設中島氏の情報により調査したところ、神慈秀明会教祖殿、屋内総合競技場本館の建設時の記録資料が清水建設に保管されていることが確認された。

以上調査内容の詳細については次頁以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	5-1	資料群名称	坪井善勝資料（東京大学生産技術研究所川口健一研究室）		調査年月日	平成30年10月11日		
						調査員	小堀 徹		
	1	所有者	川口健一						
	2	管理者	同上						
	3	資料所在地	東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学生産技術研究所						
	4	管理責任者	氏名：川口健一 役職：教授	連絡担当者		氏名：川口健一 役職：教授 TEL： E-mail:kawaken@iis-tokyo.ac.jp			
	5	所有形態	☐ 寄贈	☐ 寄託	☒ 当初から所蔵	☒ その他			
	6	資料の来歴	千葉大学准教授豊川斎赫氏が丹下健三氏の資料を収集する中で東京大学倉庫などから収集したものを川口健一研究室で保管、あるいは、坪井研究室から半谷研究室を経て川口健一研究室で保管						
	7	著作権保有者							
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：段ボール箱数箱 形態：段ボール箱 管理方法：研究室で保管						
	9	資料作成年代							
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図）	☐ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☐ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類	
			☐ 模型	☐ 原稿	☐ 書籍・雑誌	☒ 書類ファイル			
			☒ 写真・動画	☐ 個人資料	☐ マイクロフィルム				
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ			
			☒ その他（ ）						
	11	含まれる 主なプロジェクト	広島児童図書館、愛媛県民間、香川県庁舎、駿府会館、電通本社						
	12	廃棄した資料							
	13	公開の状況	☐ 公開	主な公開資料：					
			☒ 非公開	非公開の理由：					
	14	展覧会の実績	展覧会名称：						
	15	出版物の制作							
	16	備考	・広島児童図書館の設計図原図 ・丹下健三研究室との協働プロジェクトの資料(一覧表あり) ・講義用ノート(学生時代に受講のノートも含む) ・坪井研究室関連の論文、旅行関連資料、名簿、等々						
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）				
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	☐ 可	☐ 不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

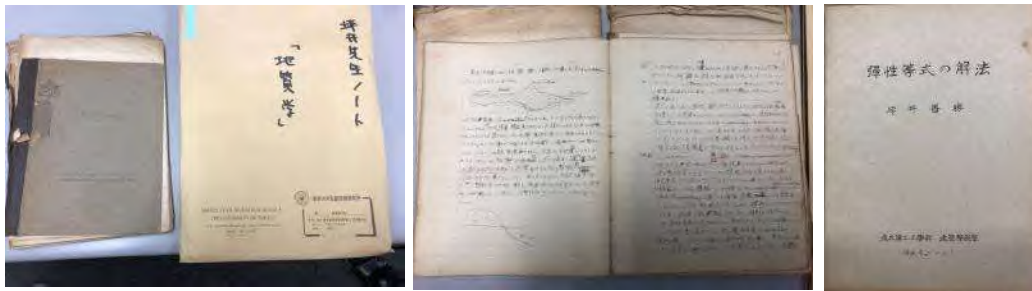
広島児童図書館の設計図原図(今回確認の中で唯一の設計図原図(シェル部分の配筋詳細図等を含む))



丹下健三研究室との協働プロジェクトの設計図青焼き、計算書等のコラボレーション資料(一覧表あり)



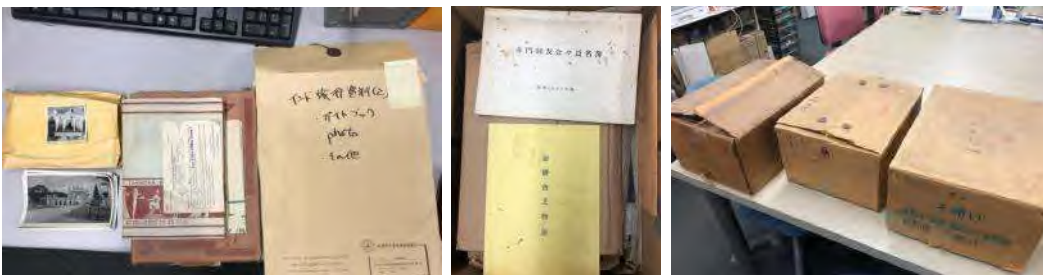
坪井善勝教授の講義用ノート(学生時代に受講した講義のノートを含む)



坪井研究室関連の論文等



旅行関連資料、名簿等



近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	5-2	資料群名称	坪井善勝資料（日建設計）				調査年月日	平成30年12月10日				
								調査員	原田 公明				
	1	所有者	株式会社 日建設計 エンジニアリング部門 構造設計グループ										
	2	管理者	原田公明										
	3	資料所在地	東京都千代田区飯田橋2-18-3										
	4	管理責任者	氏名：原田公明 役職：技師長			連絡担当者		氏名：原田公明 役職：技師長 TEL：03-5226-3030 E-mail:haradah@nikken.jp					
	5	所有形態	寄贈	☒	寄託		当初から所蔵		その他				
	6	資料の来歴	中田捷夫氏より日建設計小堀が受領。										
	7	著作権保有者											
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：CD 2枚・紙出力ファイル綴じ 2部 形態：CD・ファイル綴じ 管理方法：社内で保管(社内向けに貸出を行う)										
	9	資料作成年代											
	10	主な資料種別	図面（原図）		青焼き図面		スケッチ等		構造計算書		実験関係書類		工事関係書類
模型				原稿	☒	書籍・雑誌	☒	書類ファイル					
写真・動画				個人資料		マイクロフィルム							
図面デジタル				計算書デジタル		解析データ		実験データ					
その他（ ）													
	11	含まれる 主なプロジェクト	追悼展示パネル、IASS Tsuboi Awards資料、坪井善勝記念講演会発表論文および坪井善勝関連資料										
	12	廃棄した資料											
	13	公開の状況	☒	公開	主な公開資料：								
				非公開	非公開の理由：								
	14	展覧会の実績	展覧会名称：										
	15	出版物の制作											
	16	備考	・ IASS2001名古屋 特別展示パネル「追悼坪井善勝」 ・ IASS Tsuboi Awards 25 Years / 160926 ・ 坪井善勝記念講演会発表論文および坪井善勝関連資料「空間構造 第1巻～第10巻」										
	17	調査結果公開の可否	☒	可		不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否							可		不可		

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

「IASS2001名古屋 特別展示パネル「追悼坪井善勝」・IASS Tsuboi Awards 25 Years / 160926」

CD 1枚



「IASS2001名古屋 特別展示パネル「追悼坪井善勝」・IASS Tsuboi Awards 25 Years / 160926」

ファイル 2部



「坪井善勝記念講演会発表論文および坪井善勝関連資料「空間構造 第1巻～第10巻」」

CD 1枚



「坪井善勝記念講演会発表論文および坪井善勝関連資料「空間構造 第1巻～第10巻」」

ファイル 1部



近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	5-3	資料群名称	坪井善勝資料（清水建設）	調査年月日	平成30年10月30日	
					調査員	小堀 徹	
	1	所有者	清水建設株式会社				
	2	管理者	同上				
	3	資料所在地	東京都中央区京橋2-16-1 清水建設本社ビル				
	4	管理責任者	氏名： 役職：	連絡担当者	氏名：野々村 和恵 役職：コーポレート・コミュニケーション部 TEL：03-3561-5013 E-mail:nono@shimz.co.jp		
	5	所有形態	☐ 寄贈	☐ 寄託	☒ 当初から所蔵	☐ その他	
	6	資料の来歴	1983年に清水建設大阪支店の企画によって制作し、PR用映像として使用していたもの				
	7	著作権保有者	東映、岩波映画製作所（現在は、記録映画保存センター）				
	8	資料概要 （総量・形態・ 管理方法）	総量：DVD 7枚(内4枚はビデオデータ，3枚はMP4データ) 形態：DVD(当初16mmフィルムやVHSテープで保管していたものを媒体変換したもの) 管理方法：社内資料センターで保管(社内向けに貸出を行う) ※映像の上映や画像キャプチャーの使用については、著作権保有者および 建物所有者（または施主）の許諾が必要				
	9	資料作成年代					
	10	主な資料種別	☐ 図面（原図） ☐ 模型 ☒ 写真・動画 ☐ 図面デジタル	☐ 青焼き図面 ☐ 原稿 ☐ 個人資料 ☐ 計算書デジタル	☐ スケッチ等 ☐ 書籍・雑誌 ☐ マイクロフィルム ☐ 解析データ	☐ 構造計算書 ☐ 書類ファイル ☐ 実験データ	☐ 実験関係書類 ☐ 工事関係書類 ☐ その他（ ）
	11	含まれる 主なプロジェクト	神慈秀明会神殿及び教祖殿，代々木体育館				
	12	廃棄した資料					
	13	公開の状況	☐ 公開 ☒ 非公開	主な公開資料： 非公開の理由：			
	14	展覧会の実績	展覧会名称：				
	15	出版物の制作					
	16	備考	・岩波映画製作所（現在は、記録映画保存センター）の著作物 「大空間曲面構造に挑む：神慈秀明会神殿及び教祖殿建設記録」（27分・カラー） ・東映の著作物 「屋内総合競技場本館建設技術記録」（26分・カラー），「屋内総合競技場本館建設技術記録 英語版」（26分・カラー），「かわった形の体育館」（25分・カラー）				
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）		
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否			☐ 可	☐ 不可	

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

「大空間曲面構造に挑む：神慈秀明会神殿及び教祖殿建設記録」（27分・カラー）

ビデオデータ 1枚, MP4データ 1枚



「屋内総合競技場本館建設技術記録」（26分・カラー）

ビデオデータ 1枚, MP4データ 1枚



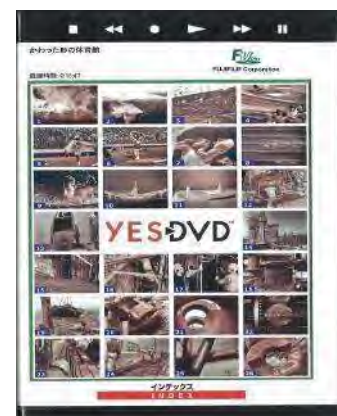
「屋内総合競技場本館建設技術記録 英語版」（26分・カラー）

ビデオデータ 1枚, MP4データ 1枚



「かわった形の体育館」（25分・カラー）

ビデオデータ 1枚



4.6

坂 静雄

ばん しずお

1896 年（明治 29 年）～1989 年（平成元年）

京都大学名誉教授。専ら鉄筋コンクリート造の研究に従事し、第 1 回の日本建築学会学術賞を受賞しているが、戦中や戦後すぐの時期には社寺建築や木造曲面屋根の研究報告も行っている。著書「鉄筋コンクリート 平面と曲面の構造」（1937 年）にてシェル構造の理論を広く国内に紹介する。1950 年代には日本で最初のプレストレストコンクリートを用いた骨組による建築物とされる南淡町庁舎の構造設計を行った。京都大学を退官後もプレストレストコンクリート技術協会会長や日本建築総合試験所所長を歴任。日本学士院会員に選出される他、1986 年には「鉄筋コンクリート工学の体系化への貢献」で日本建築学会大賞を受賞。

・年表

1896 年（明治 29 年）	東京都生まれ
1921 年（大正 10 年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1922 年（大正 11 年）	京都帝国大学工学部建築学科助教授
1933 年（昭和 8 年）	京都帝国大学工学部建築学科教授
1937 年（昭和 12 年）	日本建築学会学術賞「弾性範囲における耐震壁の応力変形及び剪断負担連層耐震壁の横力分担」
1949 年（昭和 24 年）	日本学術会議会員
1959 年（昭和 34 年）	京都大学定年退官、同名誉教授
1963 年（昭和 38 年）	プレストレストコンクリート技術協会会長
1964 年（昭和 39 年）	日本建築総合試験所所長
1972 年（昭和 47 年）	日本学士院会員
1986 年（昭和 61 年）	日本建築学会大賞「鉄筋コンクリート工学の体系化への貢献」

・主な構造設計作品

東京大学安田記念講堂※（1925）、京都大学百周年時計台記念館（旧京都帝国大学本部本館）（1925）、南淡町庁舎（1957）、京都大学坂記念館（1960）

※建築雑誌のインタビューの中で「屋根の設計をした」と述懐している。また、強度計算を担当、という記載のある文献も存在する。

・主な著作

耐震及耐火建築構造（武田五一・藤井厚二との共著：1927）、高層架構論（1930）、鉄筋コンクリート平面と曲面の構造（1937）、鉄筋コンクリートの設計（1942）、鉄筋コンクリート学教程（1948）、プレストレストコンクリート（岡田清・六車熙との共著：1961）

棚橋 諒

たなばし りょう

1907 年（明治 40 年）～1974 年（昭和 49 年）

京都大学名誉教授。第 28 代日本建築学会会長。「地震の破壊力と建築物の耐震力に関する私見」（建築雑誌 1935 年 5 月号）にて、いわゆる「速度-ポテンシャルエネルギー理論」を 28 歳の若さで発表。この理論をベースに材料安全率を耐震安全率という新しい観点で見直すことを主張し、立体架構の捩じれ問題を誰よりも先駆けて提起し、非線形不静定架構の力学汎論の研究を経て、不静定架構の終局状態（極限設計）の研究に到達する。地盤と震害に関する研究にも早く手を染めるなど、卓見性と独創性のある棚橋の研究は、現在の我が国の耐震基準の中に陰に陽に息づいている。

・年表

1907 年（明治 40 年）	岐阜県出身（※記念論文集では、静岡市裏一番町にて生る、と記載）
1929 年（昭和 4 年）	京都帝国大学工学部建築学科卒業
1929 年（昭和 4 年）	神戸高等工業学校講師
1931 年（昭和 6 年）	京都帝国大学工学部講師
1933 年（昭和 8 年）	京都帝国大学助教授
1935 年（昭和 10 年）	「地震の破壊力と建築物の耐震力に関する私見」を建築雑誌にて発表
1942 年（昭和 17 年）	日本建築学会学術賞「偏心荷重を受ける鉄筋コンクリート柱の終局強度に関する研究及び不静定架構の研究」
1945 年（昭和 20 年）	京都帝国大学教授
1951 年（昭和 26 年）	京都大学防災研究所所長（併任）
1963 年（昭和 38 年）	日本建築学会会長
1963 年（昭和 38 年）	名古屋大学教授（併任）
1970 年（昭和 45 年）	京都大学定年退官，同名誉教授
1970 年（昭和 45 年）	近畿大学教授
1974 年（昭和 49 年）	逝去，正三位勲 2 等旭日重光章

・主な構造設計作品

日赤京都支部病院（1934），四天王寺五重塔（八代目）（1959），京阪淀屋橋ビル（1963），京都タワー（1964）

・主な著作

鉄骨構造學（1938），架構力学講義（1966），鉄骨構造講義（1967）

4.6.1 昨年度調査の概要

京都大学田路貴浩准教授にヒアリング（メール問合せ）を行った。京都大学にてアーカイブ化が進行中の増田友也の設計資料中に構造図関係も含まれるであろうとの情報を得た。

関西大学西澤英和教授（元京都大学講師）にヒアリング（メール問合せ）を行った。いくつかの資料をお持ちとの連絡と共にメールにて、棚橋諒のサインの入った京都タワー（計画案）のスケッチ（スキャンされたもの）をお送りいただいた。

京都工芸繊維大学笠原一人助教にヒアリング（メール問合せ）を行った。村野藤吾や本野精吾関連資料が既にアーカイブ化されており、構造関係書類も膨大な量にのぼるが、坂静雄・棚橋諒に関係するものについての具体的情報はなかった。

これら情報より、次年度は京都大学にて増田友也関連資料中に含まれている構造関係資料の調査や、京都大学図書館における坂・棚橋の著作資料の調査、関西大学にて西澤英和氏の所有する関連資料について調査することとした。

4.6.2 本年度調査の概要

昨年度調査に基づき、京都大学田路准教授を訪ね、増田友也資料のうち坂静雄が構造担当をしたことが明らかな南淡町庁舎や坂記念館について調査したところ、南淡町調査の構造計算書（トレペ原図）や、坂記念館のPC詳細を含む構造図（トレペ原図）等を確認することが出来た。増田資料は近い将来京都大学にてデジタルアーカイブ化され公開予定のため、それ以上の詳しい調査は現段階では行わないこととした。

また、坂静雄研究室の流れを組む京都大学の西山峰広教授のもとを訪ね、関連資料の有無を尋ねたところ、元技官の岩本氏が坂記念館の資料を知っているとの証言を西山教授から得た。ただし、岩本氏との接触ができておらず、今後岩本氏に来校いただくタイミングに合わせヒアリングを行っていく予定である。

また、京都大学建築系図書室にて坂・棚橋関連の文献資料として、坂17件・棚橋11件の書籍を確認した。坂の著作の中には、藤井厚二に寄贈の後、藤井没後に藤井の親族より京大建築系図書室に寄贈されたものも含まれていた。

関西大学の西澤英和教授のもとを訪ねたところ、棚橋諒関係では、京都タワーの打合せ時資料や京阪淀屋橋ビルの資料、勤務記録カード（コピー）等を、坂静雄関係では、学内での実験や現場視察時の様子を収めた写真フィルム等を確認することができた。また西澤氏からは、棚橋の下で活動したとされる金多潔京大名誉教授や、棚橋が設立に関わった財団法人建築研究協会へのヒアリング調査を推奨されたため、これについては次年度に行っていきたい。

また、京都工芸繊維大学の森迫清貴学長が石田修三同大学名誉教授（棚橋諒の下で担当者として実働していたと推察される）から引き継いでいた資料の中から棚橋諒が構造担当した京阪淀屋橋ビルや四天王寺五重塔の構造計算書（青焼き）が存在していることがわかった。

この他に、京都大学百周年時計台記念館（いわゆる京大時計台、設計は武田五一）は、坂が構造担当だったことがわかっているが、京都大学の施設に関しては京都大学にて資料が保管されているとの情報を田路准教授から得ているので、増田友也以外の設計による京都大学施設群について京都大学施設課への調査を次年度に行っていきたい。

今年度の調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6.1	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (京都大学内の増田友也資料内の関連資料)				調査年月日	平成30年9月25日		
								調査員	満田衛資		
	1	所有者	京都大学、一般財団法人建築研究協会ほか								
	2	管理者	京都大学大学院工学研究科建築学専攻								
	3	資料所在地	同上（ただし、2019年夏竣工予定の京大桂キャンパス新図書館の完成後は順次そちらに移動する予定）								
	4	管理責任者	氏名：田路貴浩（※） 役職：京都大学建築学専攻准教授 (※新図書館完成後の資料移管までの間)				連絡担当者		氏名：同左 役職：同左 TEL： E-mail:		
	5	所有形態	☒ 寄贈	☒ 寄託	☒ 当初から所蔵			その他			
	6	資料の来歴	当初から増田研究室にあったものはそのまま所蔵 2017.10に建築研究協会および増田友也建築関係資料保存会から京大建築学専攻に寄託 2018.02に京都大学施設に関する資料が寄託から寄贈に切替								
	7	著作権保有者	不明								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	増田友也（建築家・元京都大学教授）の設計した資料の総量は膨大。構造資料の有無はプロジェクトにより異なり、その総量は不明。 現段階で確認できている坂静雄関連の構造資料としては、 南淡町庁舎；仕様書○、構造図×、構造計算書○；計算書全18ページ分、トレベ手書き、坂、六車、山垣の連名で坂の押印あり） 坂記念館；特記仕様書○、構造図○、構造計算書×；構造図A1（トレベ原図）で全4枚、S1：柱・梁リスト配置図、S2：ラーメン配筋図、S3：スラブ配筋図、S4：P.C.部分詳細 坂記念館の図面枠は横尾研究室がある。								
	9	資料作成年代	1950～60年代								
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図）	☒ 青焼き図面		スケッチ等	☒ 構造計算書		実験関係書類		工事関係書類
				模型		原稿		書籍・雑誌		書類ファイル	
				写真・動画		個人資料					
				図面デジタル		計算書デジタル		解析データ		実験データ	
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	南淡町庁舎、坂記念館、京都大学体育館								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☒ 公開		主な公開資料：※現段階では非公開だが、今後多くの増田資料を公開する予定						
			☐ 非公開		非公開の理由：デジタルアーカイブ化と新図書館への移管準備中のため						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	増田友也の作品に関係した京大の構造学者は坂静雄・棚橋諒以外にも多数いる。 横尾義貫、松岡理、若林實、金多潔等が構造担当として関わった資料も混在していると思われる。 近い将来に増田友也資料はデジタルアーカイブとして公開予定のため、現段階での詳細調査は待つてほしいと回答あり。 増田友也アーカイブスでは資料毎に個別にURLが発行される予定である。								
	17	調査結果公開の可否		可		不可	☒	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）			
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					可	☒	不可		

【見取り図・写真】



京都大学建築学専攻での資料の仮保管状況

中性紙段保存箱（グレー色）内にて保管されている

【見取り図・写真】

✓

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

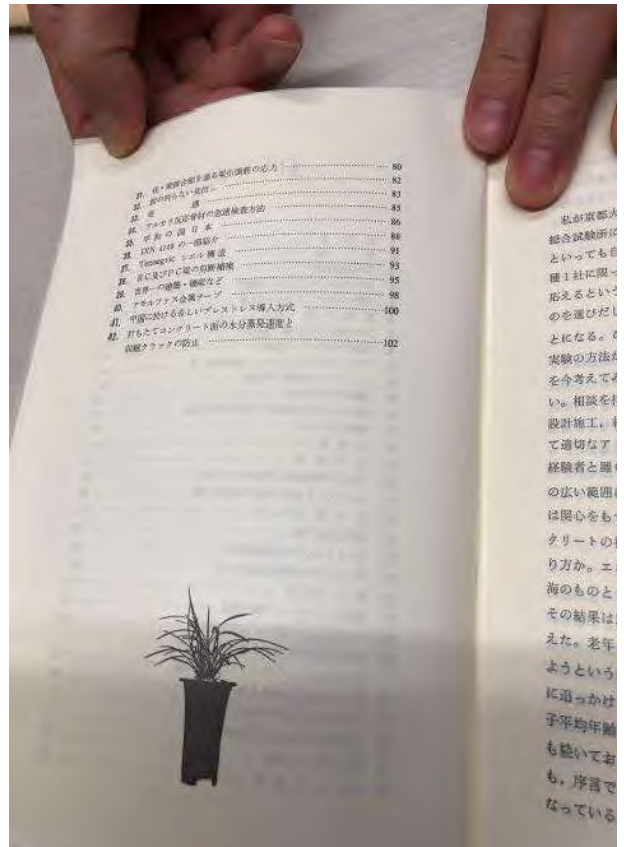
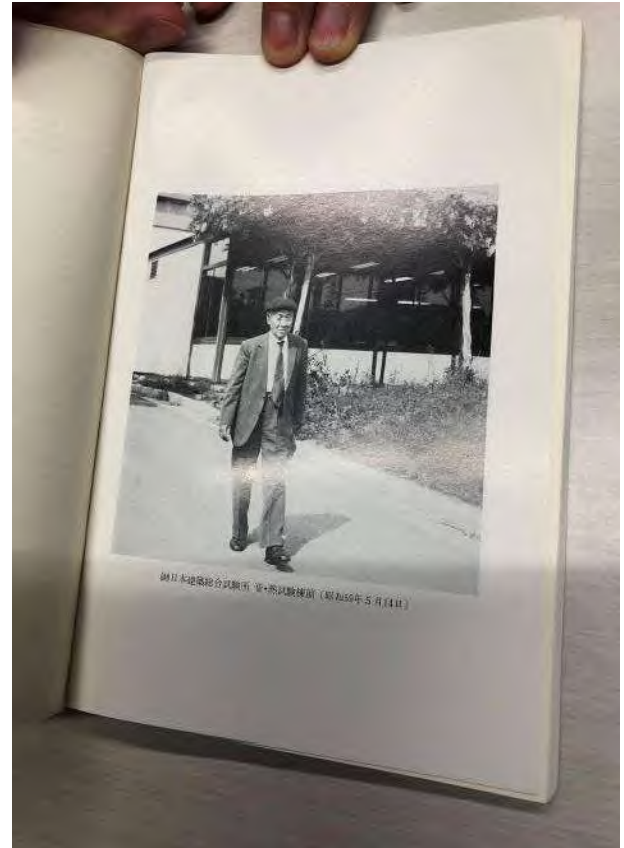
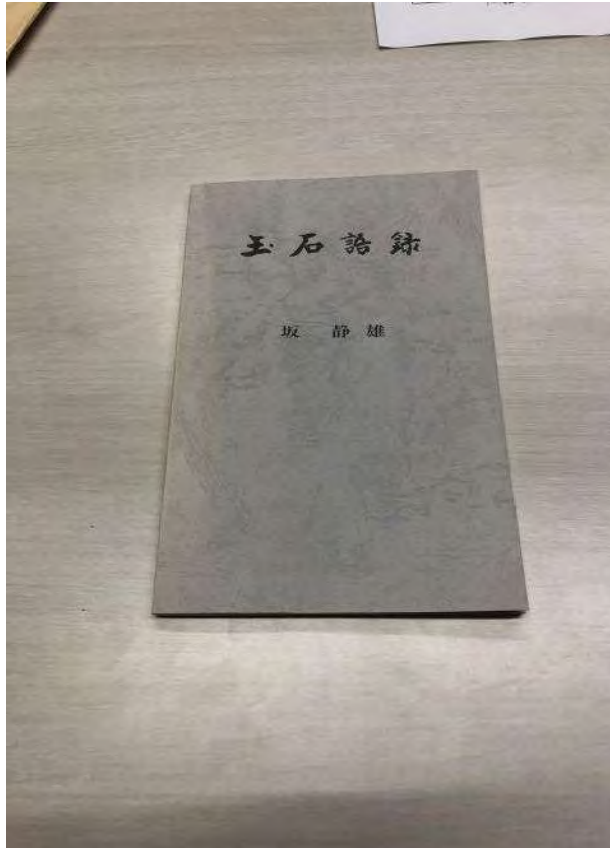
【見取り図・写真】

✓

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6.2	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (京都大学西山研究室が保管する資料)				調査年月日	平成30年12月10日		
								調査員	満田衛資		
	1	所有者	西山峰広 京都大学大学院教授								
	2	管理者	同上								
	3	資料所在地	京都大学大学院工学研究科建築学専攻								
	4	管理責任者	氏名： 西山峰広 役職： 京都大学大学院教授			連絡担当者		氏名： 同左 役職： 同左 TEL： E-mail: mn@archi.kyoto-u.ac.jp			
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☒ 当初から所蔵	☐ その他					
	6	資料の来歴	西山研究室（現・京都大学大学院建築学専攻建築構法学研究室）は、坂静雄研究室の流れを組む研究室。南淡町庁舎や坂記念館、RC系・PC系の研究資料類は研究室にて代々継承されているものが多い。								
	7	著作権保有者	不明								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	判明分：冊子 1 冊 未判明分：元技官の岩本敏憲氏が、坂記念館について資料整理を行っていたとの情報あり。学内に関連資料（図面や計算書等）があるはずだが現状で所在未判明のため、総量・形態等不明。近く、岩本氏に来校してもらい内容確認を行う予定。								
	9	資料作成年代	冊子「玉石語録」は1984.1刊行、南淡町庁舎や坂記念館資料は1960年代								
	10	主な資料種別	※ 図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	※ 構造計算書	実験関係書類	工事関係書類			
			模型	原稿	☒ 書籍・雑誌	書類ファイル					
			写真・動画	個人資料							
			図面デジタル	計算書デジタル	解析データ	実験データ					
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	南淡町庁舎、坂記念館								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☐ 公開	主な公開資料：							
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではないため							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	<西山先生からの情報> 南淡町庁舎（設計：増田友也、構造設計：坂静雄）は解体の際に調査を行っている。解体に伴い、図面資料の京都大学への寄贈を申し出たが、南あわじ市が継続して保管するとの回答となり、現在も南あわじ市に図面一式が揃っているはずである。 設計図書以外の、坂研究室当時の実験資料や研究ノート・講義ノート類の資料は、基本的に現在の西山研究室では保管していない。								
	17	調査結果公開の可否	☒	☐ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					☐ 可	☐ 不可			

【見取り図・写真】

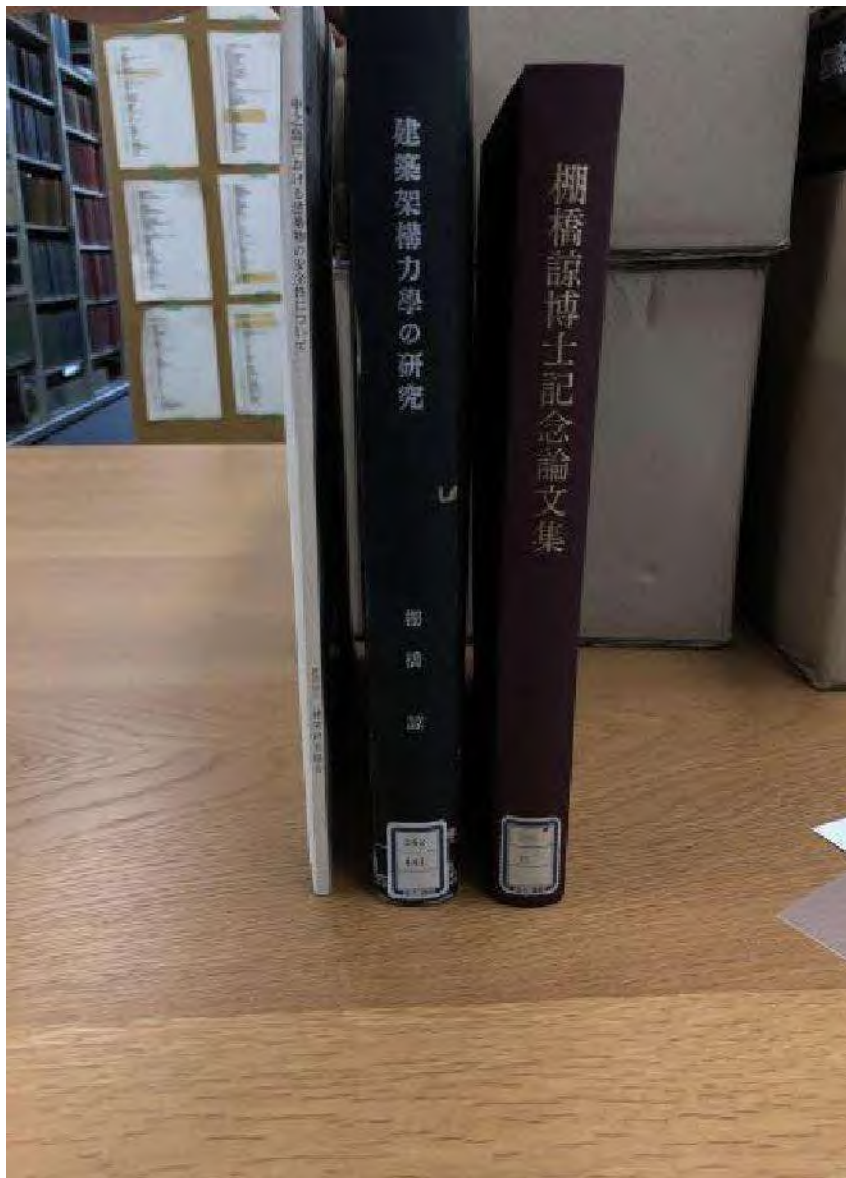


玉石語録（坂静雄著、日本建築総合試験所）：日本建築総合試験所の機関紙GBRCにて連載された随筆集

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6.3	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (京都大学 桂建築系図書室 の資料)				調査年月日	平成31年1月25日		
								調査員	満田衛資		
	1	所有者	京都大学大学院工学研究科建築学専攻								
	2	管理者	同上								
	3	資料所在地	京都大学桂キャンパス内 桂建築系図書室								
	4	管理責任者	氏名： 建築学専攻長 役職：			連絡担当者		氏名： 桂建築系図書室 役職： TEL：075-383-2962 E-mail:090archilib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp			
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☒ 当初から所蔵	☐ その他					
	6	資料の来歴	②は西澤英和元講師（現・関西大学教授）による寄贈 ③は棚橋諒先生定年退官記念事業会による寄贈								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	棚橋諒関連資料として ①建築架構力学の研究（棚橋諒学位論文）：昭和11年9月 ②中之島における建築物の安全性について、棚橋諒・金多潔，財団法人日本建築協会，昭和48年6月 ③棚橋諒博士記念論文集，棚橋諒先生定年退官記念事業会，昭和55年5月 の3冊が京都大学桂建築系図書室内にて保管								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	☐ 図面（原図）	☐ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☐ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類			
			☐ 模型	☐ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☐ 書類ファイル	☐	☐			
			☐ 写真・動画	☐ 個人資料	☐ マイクロフィルム	☐	☐	☐			
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ	☐	☐			
			☐ その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト									
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：							
			☐ 非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	京都大学蔵書検索kulineにて検索可能 https://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/?page_id=13								
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否				☐ 可	☐ 不可				

【見取り図・写真】



京都大学桂建築系図書館にある棚橋諒の著作

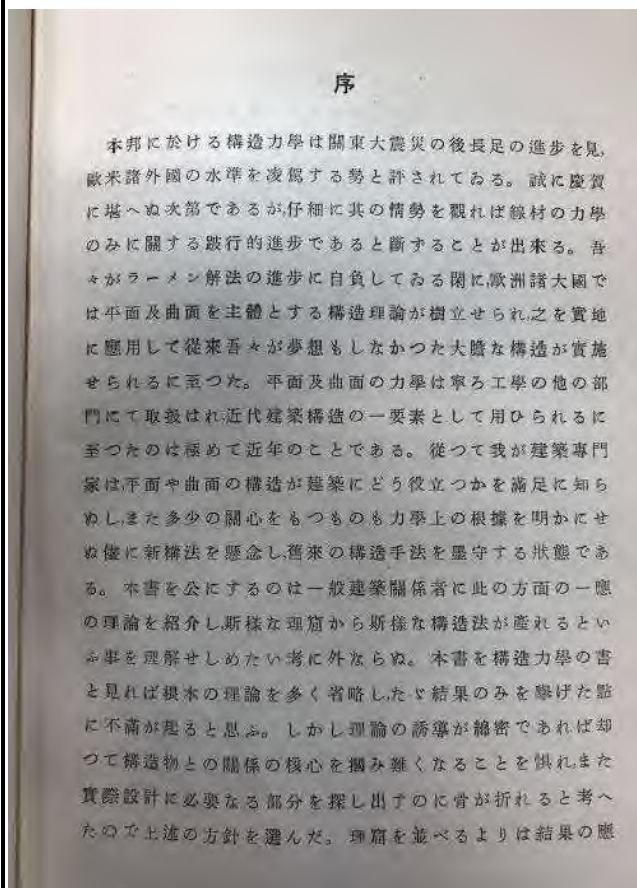
近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6.4	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (京都大学 吉田建築系図書室 の資料)				調査年月日	平成31年1月25日											
								調査員	満田衛資											
	1	所有者	京都大学大学院工学研究科建築学専攻																	
	2	管理者	同上																	
	3	資料所在地	京都大学吉田キャンパス内 吉田建築系図書室																	
	4	管理責任者	氏名： 建築学専攻長 役職：				連絡担当者		氏名： 吉田建築系図書室 役職： TEL：075-753-5761 E-mail:090archilib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp											
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☒ 当初から所蔵	☐ その他														
	6	資料の来歴	坂静雄資料（全10冊）のうち 坂静雄本人による寄贈が4冊、高木卓爾氏による寄贈が1冊、藤井壽子氏による寄贈が1冊。残りは図書室で購入。 藤井壽子氏は藤井厚二京大名誉教授の親族で、坂静雄が藤井厚二に寄贈したものが、藤井没後にその親族により寄贈された。 棚橋諒資料（全6冊）のうち 上谷宏二氏による寄贈が1冊、真島利行氏寄贈が1冊。残りは図書室で購入。																	
	7	著作権保有者																		
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	坂静雄関連資料として 聯立方程式によらざる高層架構の新解法、坂静雄、1927；耐震及耐火建築構造、武田五一・藤井厚二・坂静雄共著、大阪毎日新聞社、1927；偏心荷重を受ける鉄筋混凝土材の応力計算法及び断面決定法、坂静雄、文啓社書房、1928；高層架構論、坂静雄、文啓社書房、1930；鉄筋コンクリート平面と曲面の構造、坂静雄、工業図書、1937；鉄筋コンクリートの設計、坂静雄、工業図書、1942；鉄筋コンクリート学教程、坂静雄、産業図書、1948；鉄筋コンクリートの研究、坂静雄、産業図書、1954；コンクリートハンドブック、近藤泰夫・坂静雄編、朝倉書店、1957；プレストレストコンクリート、坂静雄等、朝倉書店、1961、他 全17冊 棚橋諒関連資料として 鉄骨構造学、棚橋諒、山海堂出版部、1938；架構力学講義、棚橋諒、建築研究協会、1966；鉄骨構造講義、棚橋諒、山海堂、1967； 建築施工ハンドブック、棚橋諒編、朝倉書店、1960；建築見積ハンドブック、棚橋諒編、朝倉書店、1966；建築材料ハンドブック、棚橋諒編、朝倉書店、1970、他全9冊 が京都大学吉田建築系図書室内にて保管。																	
	9	資料作成年代																		
	10	主な資料種別	☐ 図面（原図）	☐ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☐ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類	☐ 模型	☒ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☐ 書類ファイル	☐ 写真・動画	☐ 個人資料	☐ マイクロフィルム	☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ	☐ その他（ ）
	11	含まれる 主なプロジェクト																		
	12	廃棄した資料																		
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：																
			☐ 非公開	非公開の理由：																
	14	展覧会の実績	展覧会名称：																	
	15	出版物の制作																		
	16	備考	京都大学蔵書検索kulineにて検索可能 https://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/?page_id=13																	
	17	調査結果公開の可否	☒	☐ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）														
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否										☐ 可	☐ 不可							

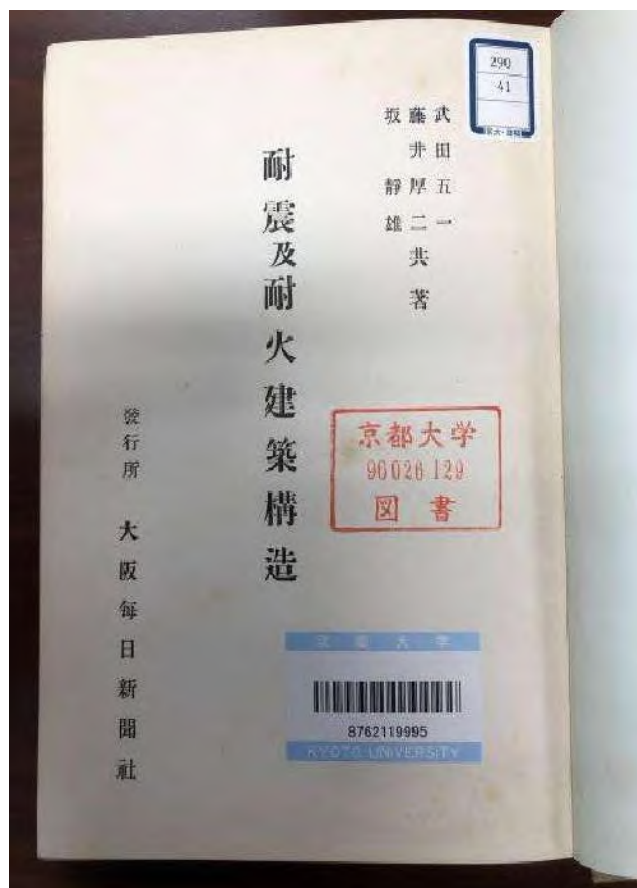
【見取り図・写真】



京都大学吉田建築系図書室にある坂静雄の著作



鉄筋コンクリート 平面と曲面の構造（昭和12年）の序文

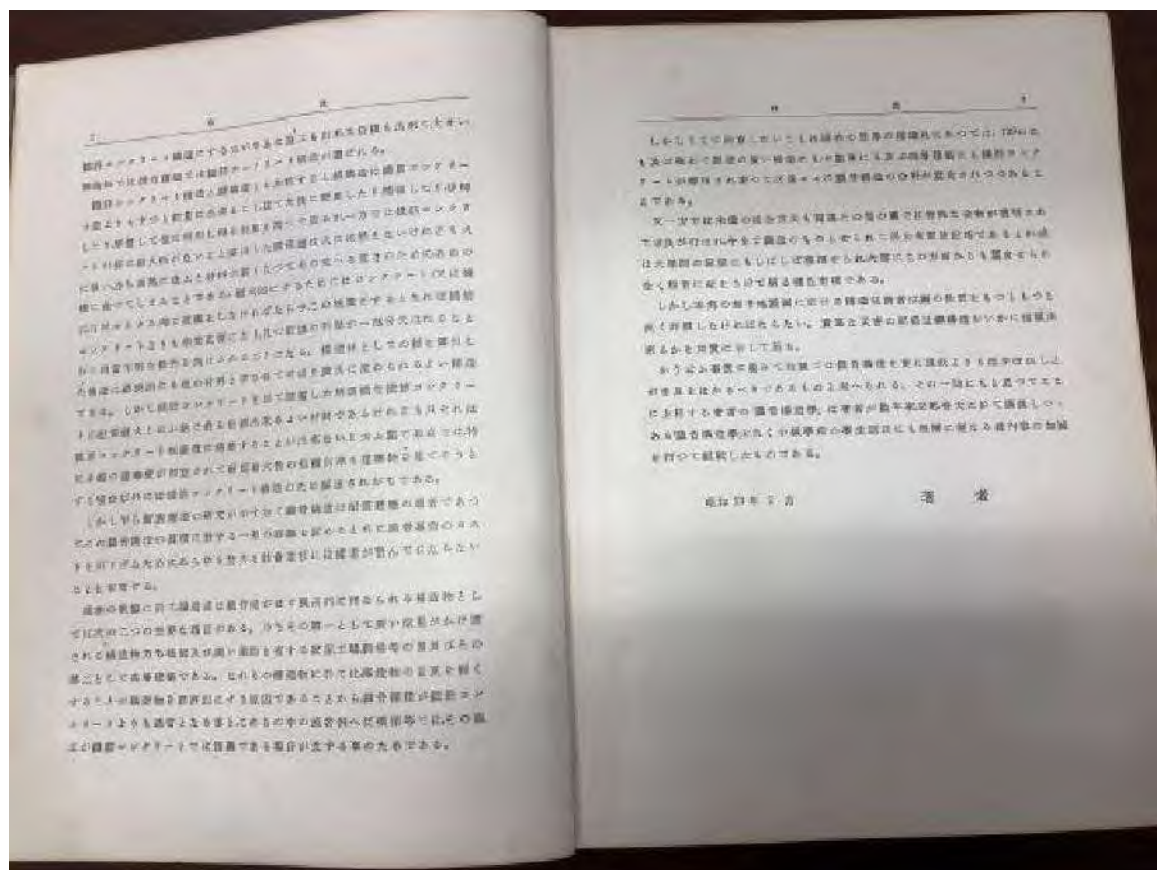


耐震及耐火建築構造（昭和2年）の扉

【見取り図・写真】



京都大学吉田建築系図書室にある棚橋の著作



鉄骨構造学（昭和13年）の序文

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	6.5	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (関西大学西澤研究室管理のもの)				調査年月日	平成30年11月28日			
								調査員	満田衛資			
	1	所有者	西澤英和 関西大学教授									
	2	管理者	同上									
	3	資料所在地	関西大学 西澤研究室									
	4	管理責任者	氏名： 西澤英和 役職： 関西大学教授（元京都大学講師）			連絡担当者		氏名： 同左 役職： 同左 TEL： E-mail: sc8h-nszw@asahi-net.or.jp				
	5	所有形態	寄贈	寄託	当初から所蔵	✓	その他					
	6	資料の来歴										
	7	著作権保有者	不明									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：坂・棚橋以外の資料類もあり、今回調査時は坂・棚橋関連のうち用意していただいた資料現物のみを閲覧したため総量は不明 形態：青焼き（A1×1枚、A2×1枚）、アルバム1冊、出版物コピー（A3×7頁）、青焼きコピー（A4×2枚）、履歴書及び勤務記録カードコピー（A4×8枚）、今後アーカイブ化予定とのこと（現状は資料別に分類程度）									
	9	資料作成年代	1960年代									
	10	主な資料種別	図面（原図）	✓	青焼き図面	✓	スケッチ等	✓	構造計算書	✓	実験関係書類	工事関係書類
			模型		原稿	✓	書籍・雑誌		書類ファイル			
			✓ 写真・動画	✓	個人資料							
			図面デジタル		計算書デジタル		解析データ		実験データ			
			その他（ ）									
	11	含まれる 主なプロジェクト	棚橋諒：京都タワー、京阪淀屋橋ビル 坂静雄：PC梁やRC壁の実験資料、南淡町庁舎、名古屋毎日会館									
	12	廃棄した資料										
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：								
			✓ 非公開	非公開の理由：公開施設ではないため								
	14	展覧会の実績	展覧会名称：									
	15	出版物の制作										
	16	備考	棚橋諒関連 京都タワー資料として、■青焼き図中に記された打合せメモ類（A1×2枚）、■「京都タワーの構造」季刊コラムNo.15抜刷 京阪淀屋橋ビル資料として、■竣工パンフレット（1963.11.29竣工で、棚橋寄稿による構造計画概要、鉄骨ディテール、建方写真等を含む） 棚橋諒個人資料として、■京都大学における勤務記録カード（A4×8枚） 坂静雄関連資料 実験等資料として、■写真アルバム1冊（実験や現場視察・工場視察時の写真等（主に昭和30年代前半）が含まれる。実験内容としては、主にPC片持ち梁載荷試験、耐震壁試験体配筋（対角線方向配筋）、同（30度方向配筋）、応力線型配筋耐震壁せん断試験、高周波鋼棒単純梁実験、現場および工場視察写真には、神鋼尼崎工場、南淡町庁舎現場、名古屋毎日会館現場（住友ベークPC建物現物）、他が含まれる） 研究・調査報告書等資料として、■法隆寺国宝保存事業部内報告書 第1報～第10報のコピー、■木造架構の強度実験 建築学研究 第8輯第43号 昭和6年1月10日 発行 建築学研究会発行、 ■林政健 社寺建築物の風圧に就いて 昭和9年9月21日 第一室戸台風被害後の初期の風洞実験の報告（林政健卒業論文、坂静雄指導） その他図面資料として、■PC詳細図のコピー（A4×2枚）：FRAME OF MITSUWA SOAP FACTORYとBridging Corridor over Truck Passage, Tokyo Munisipal Building 坂静雄の個人資料として、■履歴書、■功績調書、■文献リスト 西澤研究室には上記以外の未整理資料もある模様（総量未確認）で、今後、西澤研究室にてそれらを含めアーカイブ化を行い、可能な限り公開していく予定									
	17	調査結果公開の可否	✓	可	不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否				可	不可					

【見取り図・写真】



坂静雄関連資料

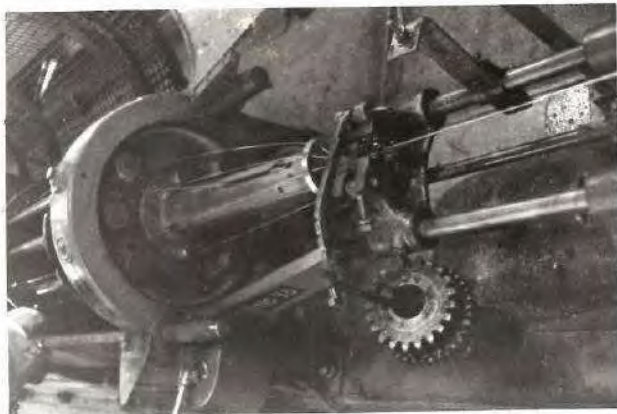
上段左；アルバム表紙、上段中；実験写真（耐震壁）、上段右；実験写真（梁）

中段左；実験写真やPC鋼材工場の写真フィルム、中段右；名古屋毎日会館建設現場写真フィルム

下段左；FRAME OF MITSUWA SOAP FACTORY

下段右；Bridging Corridor over Truck Passage, Tokyo Municipal Building

【見取り図・写真】



坂静雄関連資料

京都大学吉田キャンパス内にあった工学部総合研究センターでの鉄筋コンクリート造の実験風景

上段左：プレテンの緊張状況写真

中段左：曲線型配筋の耐震壁 中段右：梁のせん断試験状況

下段左：戦前ドイツから導入されたローゼンハウゼン式疲労試験機と幅の広い長柱試験機が写る

下段右：石膏を塗布した耐震壁試験体と 当時最新鋭のひずみ測定装置

【見取り図・写真】

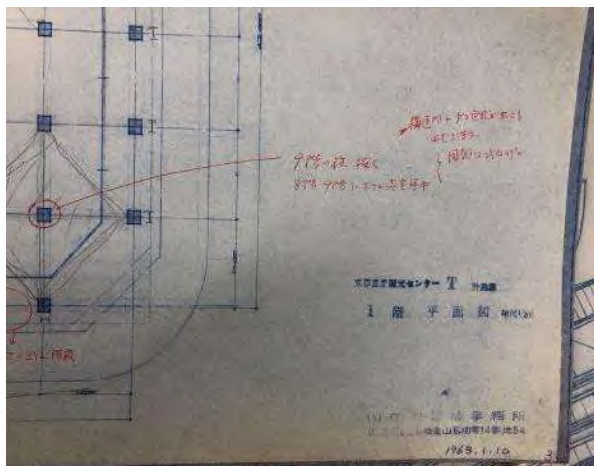
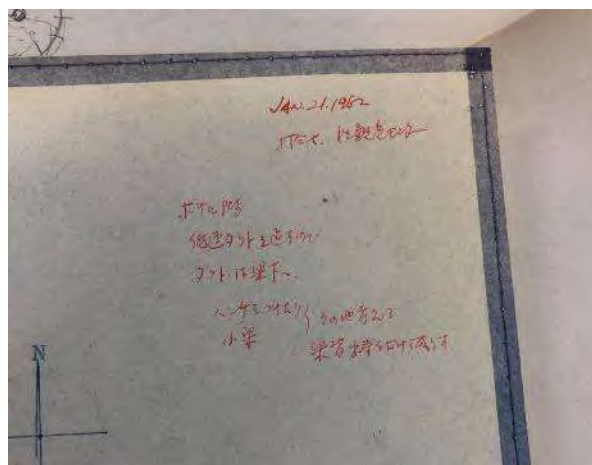
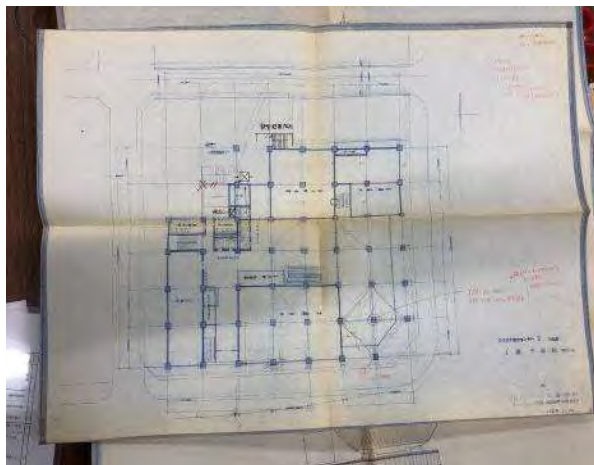
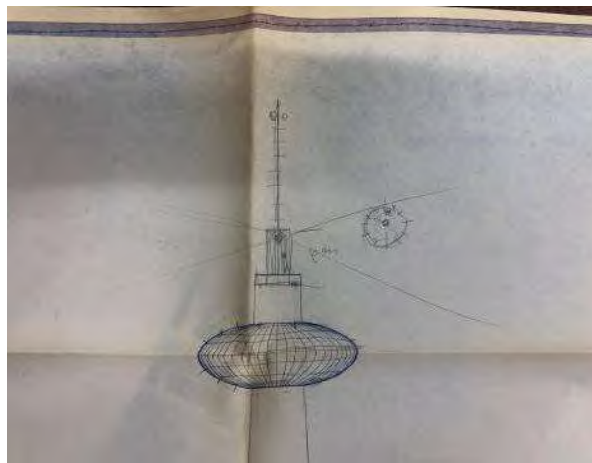


坂静雄関連資料

南淡町庁舎現場写真

2 段目右：プレキャスト化されたI型梁、3 段目左：緊張用ジャッキの説明状況、4 断面右：視察する坂静雄

【見取り図・写真】



棚橋諒関連資料

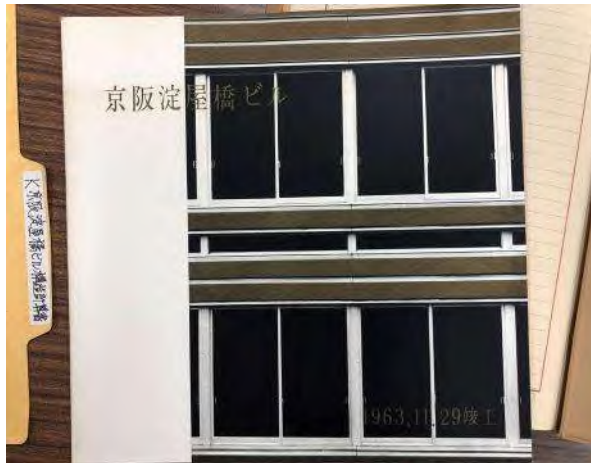
上段左：京都タワー立面図、上段右：同左タワー頂部スケッチ

中段左：京都タワー1F平面図、中段右：同左内の打合せメモ

下段左：京都タワー1F平面図内打合せメモ、

下段右：コラム記事「京都タワーの構造（棚橋諒+金多潔）」の一部

【見取り図・写真】



構造上の特長

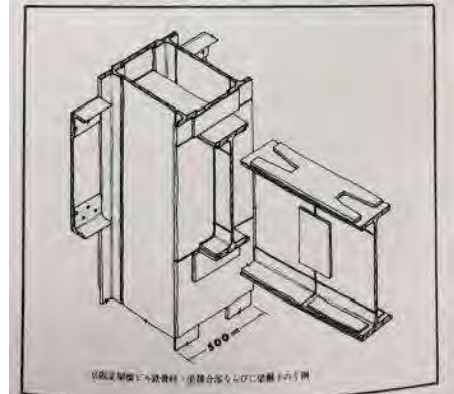
京都大学教授
工学博士 棚橋 諒

京阪淀屋橋ビルの特徴は一口に云って、この建物に要求せられた設計条件を満足して、しかも、耐震安全性を高めるために色々な構造的なアイデアが盛り込まれたものと申せましょう。現在のわが国では造船界で開発の口火がきかれた高張力鋼や溶接技術が建築の分野においても十分に信頼できる状態になりましたのと、鉄鋼界が断面性能の秀れたH型鋼を多量に生産するようになりましたので私共はそれらの特色を総て生かしてこのビルの構造計画を行なったのであります。

この建物の高さを現行法規で定められたように軒高31m以内におさえ、しかも1階をすべて公衆の交通空間に提供するという京阪電鉄当局の御英断に沿うには、上に述べた特色を十二分に発揮して、しかも自重の軽い建築が是非とも望ましい訳ですが、建物自重の軽減には軽量コンクリートの使用があつて力あったと思っております。

この建物の中央部には柱がなく、たゞ建物の両側面に柱が存在するだけでありますが、その柱の太さは在来の建物と比較しても決して太いということはありません。また柱から柱へと架けられた長さ12m余りの大ばりもそのはり背をあまり大きくすることなしに作り上げることができました。これはこの建物の2階以上の部屋を使用なさるテナントの方々に居住室を極めて有効に使い得るという利点を与えるものと考えられますが、また私共が試みましたがいくつかのアイデアが将来建てられるわが国の高層建築にも大いに参考になるものと自負している次第です。

京阪電鉄当局の御意向を理解し、また私共の考えを正しく表現し、実行に移して戴いた京都大学防災研究所金多満助教授及び、株式会社奥村組ならびに株式会社駒井鉄工所の関係各位に対して、このビルが本日目出度く竣工しました機会に改めて敬意と感謝の意を表するものであります。



棚橋諒関連資料

上段左；京阪淀屋橋ビル竣工時パンフレット

上段右；同パンフレット内の建方写真と、仕口ディテールのアクセメ図

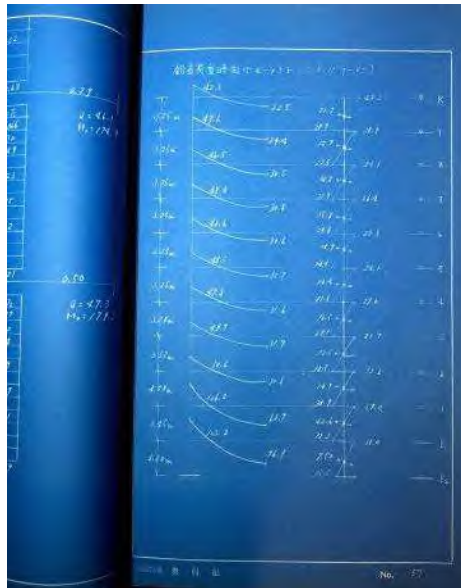
下段左；同パンフレット内、棚橋による構造解説文

下段右；同パンフレット内の建物全景

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

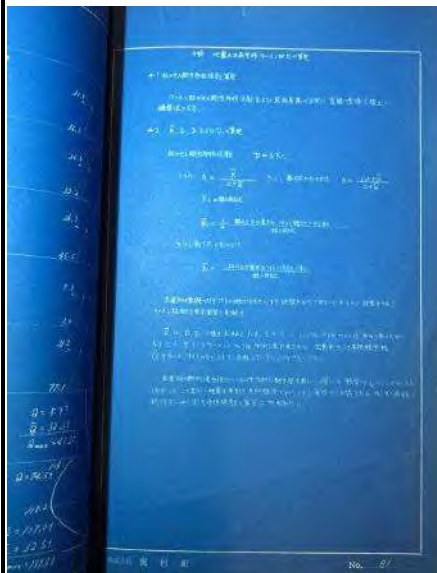
非公開 項目	番号	6.6	資料群名称	坂静雄・棚橋諒資料 (京都工芸繊維大学建築構造学研究室保管の資料)				調査年月日	平成30年9月25日		
								調査員	満田衛資		
	1	所有者	満田衛資								
	2	管理者	満田衛資								
	3	資料所在地	京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学								
	4	管理責任者	氏名：満田衛資 役職：京都工芸繊維大学 教授			連絡担当者		氏名：満田衛資 役職：京都工芸繊維大学 教授 TEL：075-724-7666 E-mail:mitsuda@kit.ac.jp			
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他					
	6	資料の来歴	石田修三氏（京都工芸繊維大学名誉教授）の退官時に森迫清貴氏（現京都工芸繊維大学学長）に引き渡された資料内に含まれていた。森迫氏の部屋の荷物整理に際し発見される。本WGメンバーであり同じ大学の教員である満田に平成30年8月に譲渡される。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	京阪淀屋橋ビル構造計算書（昭和37年）および同変更・追加分、各1冊（ともに青焼き・製本） 四天王寺五重塔構造計算書（昭和32年） 1冊（青焼き・製本） 満田教員室の本棚にて保管中								
	9	資料作成年代	1950～60年代								
	10	主な資料種別	☐ 図面（原図）	☐ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☒	☐ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐	☐ 工事関係書類	
☐ 模型			☐ 原稿	☐ 書籍・雑誌	☐	☐ 書類ファイル	☐	☐	☐		
☐ 写真・動画			☐ 個人資料	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐ 図面デジタル			☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐	☐ 実験データ	☐	☐	☐		
☐ その他（ ）											
	11	含まれる 主なプロジェクト	京阪淀屋橋ビル（SRC造、地上9階／地下2階、昭和38年竣工、現存） 四天王寺五重塔（S造※、地上5階、昭和33年再建、現存）（※：本計算書内ではS造（SRC造部材のRCには期待しないとの記載あり） だが、施工を手掛けた大林組広報資料によると鉄筋コンクリート造とあるため要確認。）								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☐ 公開	主な公開資料：							
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではないため							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	本資料の元所有者の石田修三氏が棚橋諒氏の下で実質的に作業をしていたのではないかと推測される。今後石田氏にヒアリングを行い確認したい。 四天王寺五重塔の再建当時の施工者である大林組の広報（HP）によると同建物は鉄筋コンクリート造とされている。現在同社による耐震改修工事のため内部確認等可能か問合せる予定								
	17	調査結果公開の可否	☒	☐ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					☐ 可	☐ 不可			

【見取り図・写真】



左：京阪淀屋橋ビル構造計算書表紙

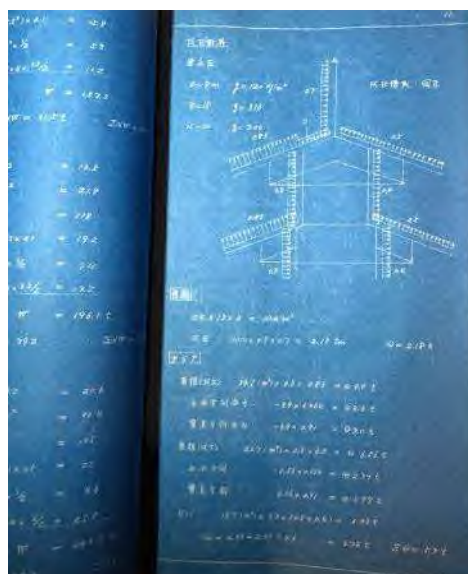
右：同57頁長期曲げモーメント図



左：同81頁 4節頭書き

「ラーメン材のせん断力分担係数および反曲点高の算定は武藤清博士提出の略算法による」との記載がある

右：京阪淀屋橋ビル構造計算書の変更・追加計算書表紙



左：四天王寺五重塔構造計算書表紙

右：同11頁 風圧計算

4.7

横山 不学

よこやま ふがく

1902 年（明治 35 年）～1989 年（平成元年）

官庁において構造設計を経験した後、我が国で初となる構造設計専門事務所を開設し、構造設計の実務を通じて「構造設計家」の職能の確立、「構造設計論」の体系化にエネルギーを注いだ。大学時代の学友であった前川國男との協働が多く、その初期の段階では近代建築を生み出していくための構造技術の導入を図るいわゆるテクニカルアプローチの実践を行った。その他に丹下健三、村田政真、太田和夫らとの協働がある。また超高層ビルの実現にも関心を寄せ、東京海上ビルディングの構造設計に関わるとともに初期の日本建築センターの高層建築審査会委員も務めた。職能活動としては、建築家協会の中に構造設計者の組織として「構造懇談会」を組織するなどの活動を行った。

・年表

1902 年（明治 35 年）	東京都生
1928 年（昭和 3 年）	東京帝国大学工学部建築学科卒業
1928 年（昭和 3 年）	日本銀行建築部勤務（日本銀行本支店の新築・増築の設計監理）
1938 年（昭和 13 年）	東京市財務局建築部勤務（公共施設の設計監理）
1941 年（昭和 16 年）	内閣技術院参技官（科学技術刷新の行政事務）
1945 年（昭和 20 年）	特許標準局標準部、工業技術庁標準部勤務（工業標準化法の成立に尽力）
1950 年（昭和 25 年）	横山建築構造設計事務所を創立
1961 年（昭和 36 年）	「構造計画技術の推進」により日本建築学会賞（業績）
1972 年（昭和 47 年）	「建築構造の設計監理に関する功績」により勲三等瑞宝章

・主な構造設計作品

日本相互銀行本店(1952)、図書印刷原町工場(1955)、東京都室内プール(1958)、国際貿易センター1号館(1959)、山梨文化会館(1967)、東京海上ビルディング(1974)

・主な著作

建築構造設計シリーズ1 建築の構造計画（共著、1973）、理念の追求と展開（1979）、世界のランドマークを求めて（1981）

4.7.1 本年度調査の概要

横山不学の構造設計に関する資料は横山建築構造設計事務所で系統的に保存されており、事務所に訪れて保存状況と内容の調査を行った。図面はマイクロフィルムとその陽面焼きで保存されており、原図が残存するものは一部である。計算書はほとんどが原図で保存されている。その他、若干の設計時のメモノートが存在する。

また、かつての所員であった金箱（金箱構造設計事務所）が横山不学氏や横山建築構造設計事務所より寄託された資料として、雑誌掲載原稿の下書き資料、構造設計時のメモノートなどを保存している。

横山不学の代表的な構造設計は「日本銀行本店」である。全溶接鉄骨構造、大架構方式、軽量コンクリート、プレキャストカーテンウォールなどの新しい技術が取り入れられた。設計図として多量の鉄骨詳細図が残っているほか、設計途上の詳細検討メモのコピーが存在している。この建物の構造計画や溶接技術に関しての執筆論文は多くある。

構造設計時のメモノートはプロジェクト開始時のものが多く、会議出席者、スケジュール、建設コストなどが詳細に記載されてお横山不学の几帳面な性格を伺える資料となっている。

調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	7-1	資料群名称	横山不学（横山建築構造設計事務所）				調査年月日	平成30年10月9日		
								調査員	金箱温春		
	1	所有者	横山建築構造設計事務所								
	2	管理者	同上								
	3	資料所在地	新宿区本塩町4番5号								
	4	管理責任者	氏名： 根津 康紀 役職： 代表取締役		連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03-3353-7561 E-mail:				
	5	所有形態	寄贈	寄託	レ	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	設計事務所として設計した資料を最小限の情報として保存している。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	- 一部の図面の原図は前川事務所の倉庫の保存されている - 図面は基本的にマイクロフィルムにて保存し、陽画焼きしたものを製本して保存している。 - 計算書は原図で保存している。								
	9	資料作成年代	1950年～1970年								
	10	主な資料種別	レ	図面（原図）	青焼き図面	レ	スケッチ等	レ	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類
				模型	原稿		書籍・雑誌		書類ファイル		
				写真・動画	個人資料	レ	マイクロフィルム				
				図面デジタル	計算書デジタル		解析データ		実験データ		
			レ	その他（ 陽画焼き図面 ）							
	11	含まれる 主なプロジェクト	日本相互銀行本店、図書印刷原町工場、国際貿易センター1号館、山梨文化会館、東京海上ビルディング								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
			レ	非公開	非公開の理由：						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	関連する文献 1)横山不学「全溶接工法による鋼構造骨組の設計について（日本無尽ビルの場合）」、建築雑誌、1951年8月号 2)横山不学「建築構造物への溶接利用の現状と将来」、溶接界、1956年1月 3)横山不学「日本相互銀行の構造計画」国際建築、1953年1月								
	17	調査結果公開の可否	可	レ	不可	部分的に可（公開可の項目： ）					
	18	（17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	レ	可	不可						

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



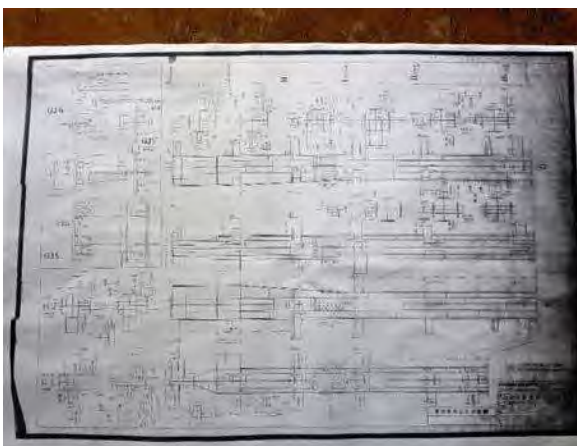
横山建築構造設計事務所（ミドビル）



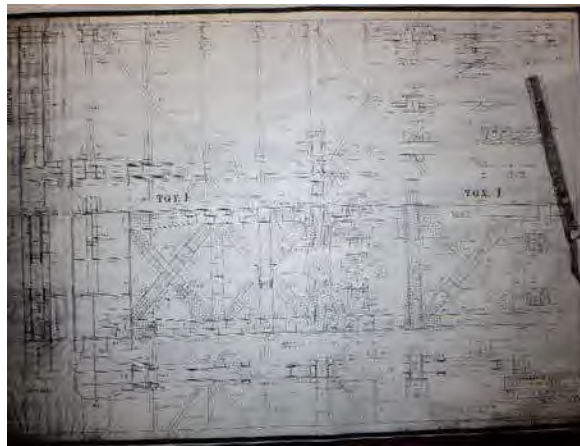
縮刷版の図面保存状況



計算書原図の保存状況



日本相互銀行本店 図面（原図）

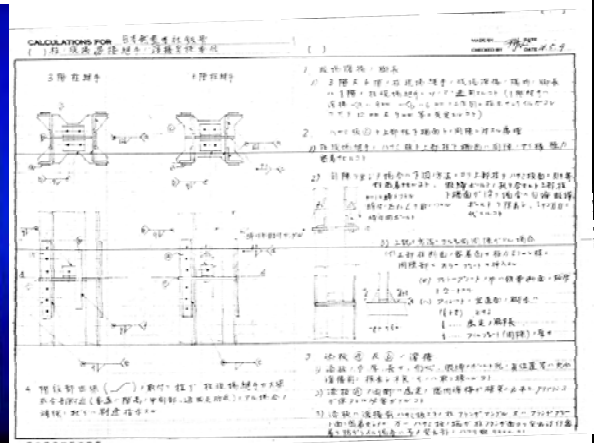


日本相互銀行本店 図面（原図）

【見取り図・写真】



日本相互銀行本店 図面（原図）



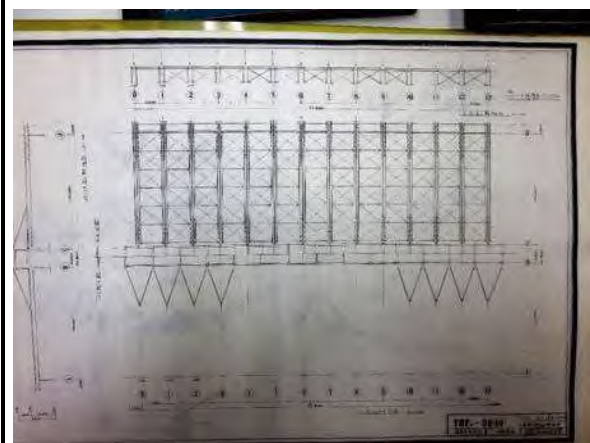
日本相互銀行本店 溶接メモ（原図）



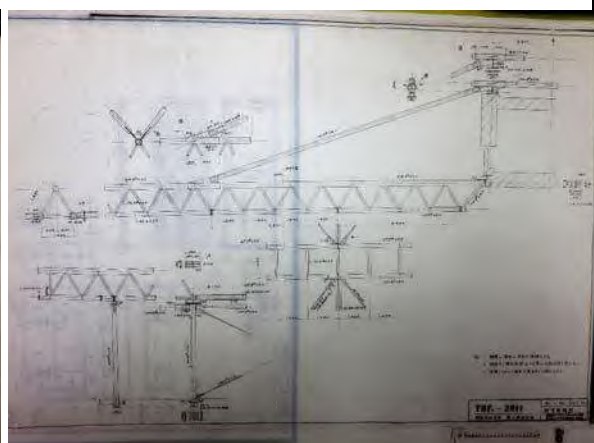
三井信託銀行大阪南支店 計算書（原図）



三井信託銀行大阪南支店 計算書（原図）

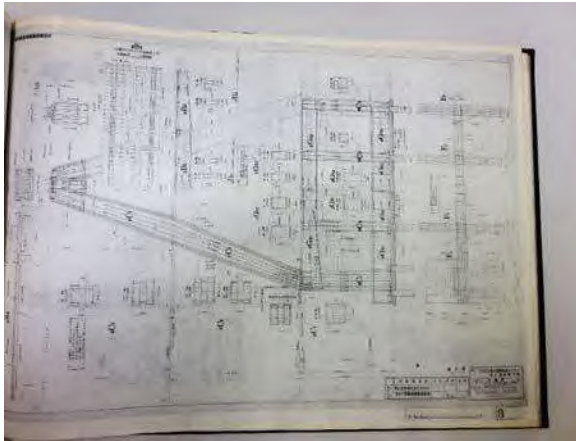


図書印刷原町工場 図面（陽画焼き）

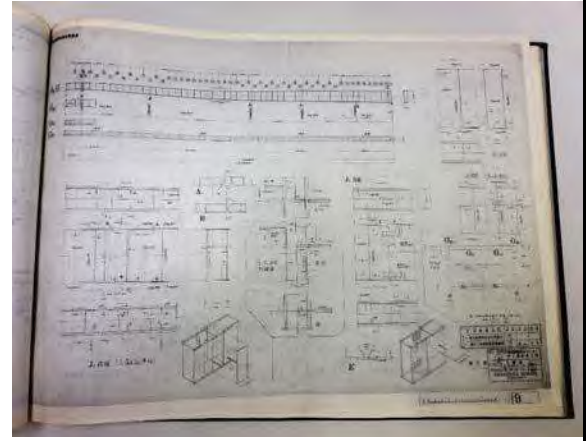


図書印刷原町工場 図面（陽画焼き）

【見取り図・写真】



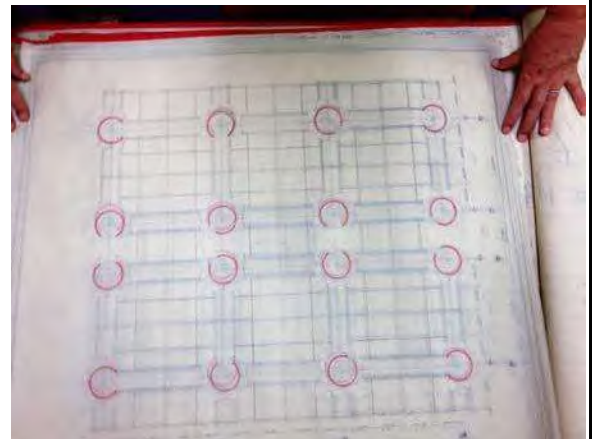
国際貿易センター1号館 図面（陽画焼き）



国際貿易センター1号館 図面（陽画焼き）



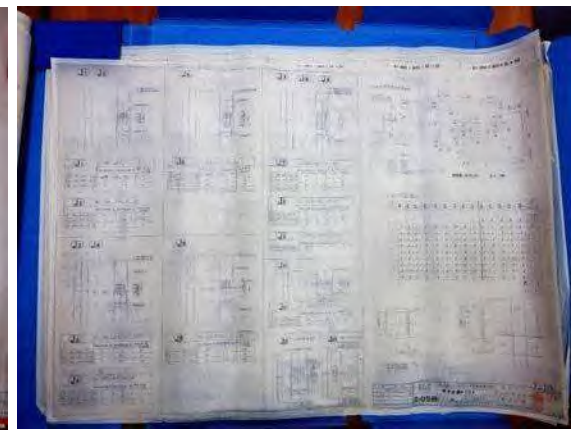
国際貿易センター1号館 計算書（原図）



山梨文化会館 図面（原図）



山梨文化会館 図面（原図）



東京海上ビルディング 図面（原図）

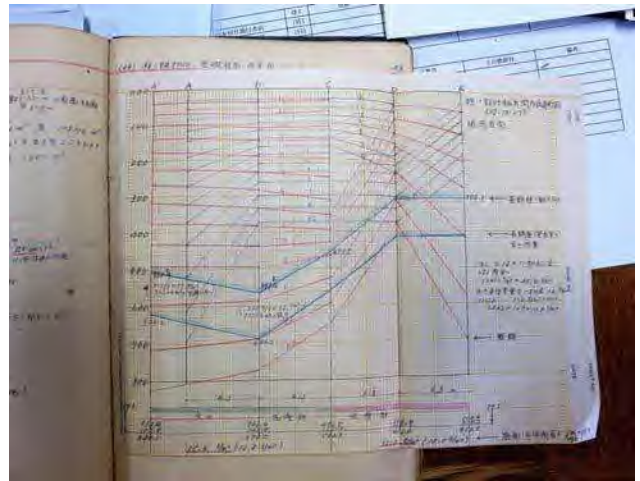
【見取り図・写真】



東京海上ビルディング 図面 (原図)



八重洲ビル設計メモノート

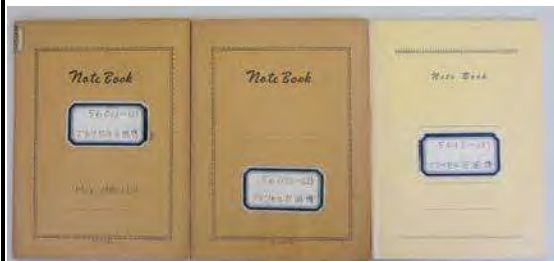


八重洲ビル設計メモノート

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	7-2	資料群名称	横山不学（金箱構造設計事務所）				調査年月日	平成31年1月9日		
								調査員	金箱温春		
	1	所有者	金箱構造設計事務所								
	2	管理者	同上								
	3	資料所在地	品川区西五反田3-12-14 西五反田プレイス6階								
	4	管理責任者	氏名： 金箱 温春 役職： 代表取締役			連絡担当者	氏名： 役職： TEL：03-3353-7561 E-mail:				
	5	所有形態	寄贈	レ	寄託	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	横山不学氏、横山建築構造設計事務所より寄託され保存している								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	・構造設計時のメモノート ・原稿執筆時の下書き（原図）								
	9	資料作成年代	1950年～1970年								
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類			
模型			原稿	書籍・雑誌	書類ファイル						
写真・動画			個人資料	マイクロフィルム							
図面デジタル			計算書デジタル	解析データ	実験データ						
レ			その他（メモノート、執筆原稿原図）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	ブリュッセル博覧会日本館、東京都室内プール								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
レ			非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	可	レ	不可	部分的に可（公開可の項目：）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否		レ	可		不可				

【見取り図・写真】

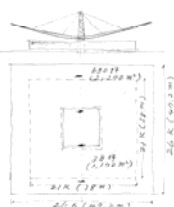


[1] 前川政三「第1回の巻頭事項」(1956, 5, 49)

- (9) 年費 約 6,000 万円 (国庫 60% 国交)
- 標準車 250 142cc 170
- ④ 160,000 円
- (10) 建造者 中野野矢寅吉 中津。明 25 日 大
陸渡りの貨車 17 号車
- (11) 所有氏 寿月 21 日 現地所有者 乃湯崎の平
次郎 貸付 鎌倉 倉庫 1958 年 4 月迄
- (12) 設計 基本方針
- ① $26 \frac{1}{2} \times 26 \frac{1}{2} \times 680 \text{ 円} = 680 \text{ 円}$
- ② $92 \times 26 \frac{1}{2} \times 26 \frac{1}{2} = 2,270 \text{ 円}$
- また、1.5m 2.7m 敷き延べ面積 40.5m² 2
号車 2 両 2 号
- (13) ① 上りの下り建物の北側に有る敷地を
示す
- 陸羽線より上りの駅大越 (17 号) の外國
車 4 両を大越の空間に到着する
- (14) 陸羽線 大越

$$\begin{aligned} 21^{400} \times 21^{400} &= 440 \text{ TF.} \\ - 75^{400} \times 75^{400} &= 90 \text{ 中夜.} \\ 440 - 90 &= \div 350 \text{ TF} \\ 350^m \times 350^m &= (10^3 \times 10^3) = 1,400 = 290^m = 1.1. \end{aligned}$$

- 4) 計画予算等の概算は3分、4月～12月の月別とされた。



ブリュッセル万博日本館 設計メモノート

[8]	1956				1957		1958					
	1~3月	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
建院管理(用)的 整地及“规划” 要求 是		2.1		2.21								
合场使用 在图A排列 周 舍				2.1			2.21					
身 作 理								2.21		2.21		2.21
参加县行政(第		2.23										
参加县规划是			2.23									
建院管理规划		2.23										
建院在图A规划				2.23								
会上 参观				2.23								
建院图(第				2.23								
院 园 内 作				2.23								
内 新 地 较				2.23								
出 图 内 作				2.23								
排 出 图 内				2.23								
派 遣 人 员				2.23								
应 图				2.23								
建 院				2.23								
内 部 建 议 书				2.23								
身 作 理 及 派 遣				2.23								
致 地 局 委				2.23								
官 场 周 作				2.23								

ブリュッセル万博日本館 工程表

SECTION 3: GROUND. Art

Article 1: Placement and survey.

1. The Exhibitors Company will make the demarcations, and maintain the ground allotted the owner. A detailed surveying plan will be made showing existing fences and the allotment to be requested.

2. Any extension of the ground shall require a further contract, the conditions of which shall be subject to negotiation.

Article 2: State of ground Art 2

1. The ground will be placed at the disposal of the owner in the state in which it is found at the time he takes possession of it. The Exhibitors Company will be delivered the same time in the detailed survey plan referred to in Article 1.

2. The owner shall declare that he is aware of the state of the site, of the ground placed at his disposal (Art 2.1).

Consequently, neither the Commission General, nor Exhibitors Company will accept any responsibility regarding the nature of the soil and the situation of the site.

1. 漢語詞法學量理學 (how to learn Chinese)

2. *Generalisability* 的 1. 1 和 1.2 節

3. 中文、英文語法學 *grammar* 的 1.1, 1.2, 1.3 節

4. 陳定國 (1994) 李維平 (1994)

5. *the student thesis*

		清水堤水見程	才一重取 (價見品一)	才一重取 (計才重一)	才一重取 (計才重一)
1	低級二重 (7.0)	7.193, 226	5.230, 300	5.190, 000	5.190, 000
2	土一重	1.764, 302	1.136, 170	1.704, 000	1.704, 000
3	地回工事	1.171, 700	1.179, 000	1.179, 000	1.179, 000
4	土留工事	1.7, 116, 190	1.122, 196	1.122, 000	1.122, 000
5	土留工事	0.122, 166	3.780, 160	40, 000, 000	40, 000, 000
6	土留工事	0.122, 197	3.28, 190	3.28, 190	3.28, 190
7	低級二重	2.0, 190, 000	2.190, 190	2.190, 190	2.190, 190
8	水一重	2.0, 190, 000	2.190, 190	2.190, 190	2.190, 190
9	土一重	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190
10	低級二重	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190
11	低級二重	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190	6.190, 190
12	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
13	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
14	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
15	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
16	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
17	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
18	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
19	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
20	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
21	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
22	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
23	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
24	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
25	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
26	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
27	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
28	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
29	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
30	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
31	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
32	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
33	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
34	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
35	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
36	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
37	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
38	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
39	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
40	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
41	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
42	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
43	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
44	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
45	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
46	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
47	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
48	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
49	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
50	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
51	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
52	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
53	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
54	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
55	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
56	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
57	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
58	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
59	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
60	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
61	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
62	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
63	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
64	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
65	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
66	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
67	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
68	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
69	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
70	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
71	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
72	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
73	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
74	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
75	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
76	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
77	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
78	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
79	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
80	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
81	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
82	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
83	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
84	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
85	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
86	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
87	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
88	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
89	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
90	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
91	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
92	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
93	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
94	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
95	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
96	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
97	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
98	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
99	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
100	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
101	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
102	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
103	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
104	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
105	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
106	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
107	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
108	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
109	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
110	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
111	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
112	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
113	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
114	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
115	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
116	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
117	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
118	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
119	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
120	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
121	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
122	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
123	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
124	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
125	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
126	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
127	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
128	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
129	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
130	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
131	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
132	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
133	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
134	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
135	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
136	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
137	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
138	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
139	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
140	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
141	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
142	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
143	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
144	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
145	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
146	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
147	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
148	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
149	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
150	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
151	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
152	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
153	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
154	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190
155	土留工事	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190	1.122, 190

ブリュッセル万博日本館 仕様書解説メモ

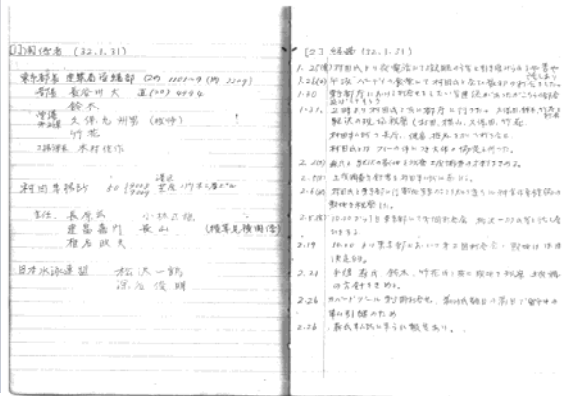
ブリュッセル万博日本館 工事予算メモ

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

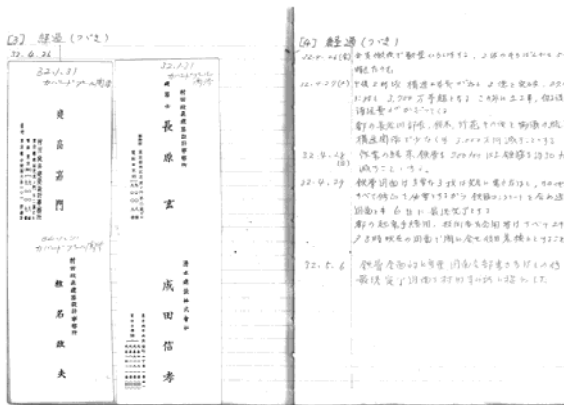
【見取り図・写真】



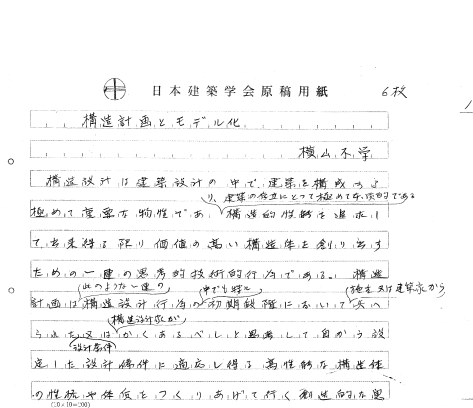
東京都室内プール 設計メモノート



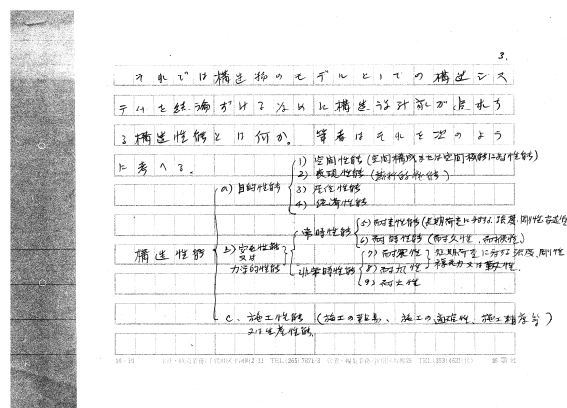
東京都室内プール 関係者と経緯のメモ



東京都室内プール 関係者と経緯のメモ



「構造計画とモデル化」下書き原稿 (建築学会と彰国社の原稿用紙が混用して使われている)



4.8

松井 源吾

まつい げんご

1920 年（大正 9 年）～1996 年（平成 8 年）

早稲田大学名誉教授。学外では、構造設計事務所 ORS を創設し設計活動を展開した。優れた建築を創造するには協働する構造設計者の幅広い技術的貢献が必要という思想を基に、自ら著名な建築家と協働し、構造家の業績に対する社会的評価の向上に大きく貢献した。また、現場打ち中空ボイドスラブ工法等、研究開発した工法も多数存在する。早稲田大学退官後、構造設計賞である松井源吾賞を創設。

・年表

1920（大正 9 年）	新潟県生
1943（昭和 18 年）	早稲田大学第一理工学部建築学科卒業
1948（昭和 23 年）	早稲田大学院博士課程修了 同大学専任講師
1952（昭和 27 年）	助教授
1956（昭和 31 年）	教授
1968（昭和 43 年）	日本建築学会賞（作品）
1991（平成 3 年）	早稲田大学名誉教授
1993（平成 5 年）	日本建築学会賞（業績）

・主な構造設計作品

早稲田大学理工学部 51 号館（1967）、桜台コートビレジ（1970）、中銀カプセルタワービル（1972）、シルバーハット（1984）、世田谷美術館（1985）、小国町民体育館（1988）、再春館製薬女子寮（1991）、多摩霊園納骨堂（1992）

・主な著作

建築構造計画入門（1969）、建築構造力学入門（1973）、中空スラブの設計（1974）、構造計画 建築選書（1974）見える力学 ― 力と縞（1986）、フラットスラブ構造のデザイン（1987）、中空スラブの計画と設計（1988）木造の構造設計（1988）、木造の継手と仕口（1989）、スラブのはなし ― 床構造入門（1989）、中空スラブ設計要覧（1995）

4.8.1 昨年度調査の概要

昨年度は松井源吾氏の事務所を継いだ構造設計事務所 ORS の依田氏にヒアリングを行い、どの程度の資料が事務所に残っているかを把握したが、多くの資料が事務所内に散在していたため、その詳細については把握することが出来ていなかった。よって、来年度以降の調査において ORS に保管されている資料の調査、更にその他の松井源吾氏に関係する構造設計事務所・意匠事務所に調査範囲を広げ、その所在を確認する事とする。

4.8.2 本年度調査の概要

本年度まず ORS に保管されている松井源吾氏に関する資料を確認する事が出来た。そのきっかけとなったのは ORS 事務所の閉所である。ORS 事務所の閉所日は明確ではないが、依田氏からの呼びかけで栗本鐵工所が ORS 内に保管されている資料の処分・保存を担った。栗本鐵工所は松井源吾氏が設計したボイドスラブ建築に積極的に関与したことから、ボイドスラブ関連の資料を中心とし、松井源吾氏の関係資料を ORS 閉所に合わせて多く保管する事となった。その際に、保管されていた資料を一式確認する事が出来たので、シートにまとめた。

次に、ビーファームに保管されている資料についても確認した。ビーファームは ORS から独立した構造設計事務所で、代表者が ORS 時代に携わった物件以外にも何点か松井源吾氏の資料を保管されていた。このようにビーファームのみならず松井源吾氏の資料は事務所 OB 等にも資料が分散されており、全てを把握することは困難である。建築家の坂茂氏も紙管の構造で松井源吾氏と協働しており、坂茂建築設計事務所にはそのプロジェクトに関する資料として様々な資料が保管されていた。今回建築家への調査は坂氏のみであるが、建築家の保管している資料も何点かあることは考えられる。その一方で、意匠事務所には構造計算書等の保管は少なく、松井源吾氏とのやり取りや図面の保管が主であると感じた。

次ページ以降に本年度の調査内容を示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	8-1	資料群名称	松井源吾 オーク構造設計 所蔵資料				調査年月日	平成30年8月27日		
								調査員	伊藤		
	1	所有者	オーク構造設計								
	2	管理者	新谷 真人								
	3	資料所在地	東京都渋谷区桜丘町29-33-308								
	4	管理責任者	氏名：新谷 真人 役職：代表			連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03 3770 7331 E-mail:oak@blue.ocn.ne.jp			
	5	所有形態	寄贈	寄託	☒	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴									
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	松井源吾作品集に係わるデジタルデータの所有。稲門が製作した松井源吾先生の建築ライブラリー等印刷物の所有も有り								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類			
			模型	原稿	☒	書籍・雑誌	書類ファイル				
			写真・動画	個人資料							
			☒ 図面デジタル	計算書デジタル	☒	解析データ	実験データ				
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	多数								
	12	廃棄した資料	不明								
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではない為							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	☒	可	不可	部分的に可（公開可の項目： ）					
	18	(17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					可	不可			

【見取り図・写真】



早稲田理工学部51号館



桜台コートビレジ

【見取り図・写真】



中銀カプセルタワービル



中銀カプセルタワービル

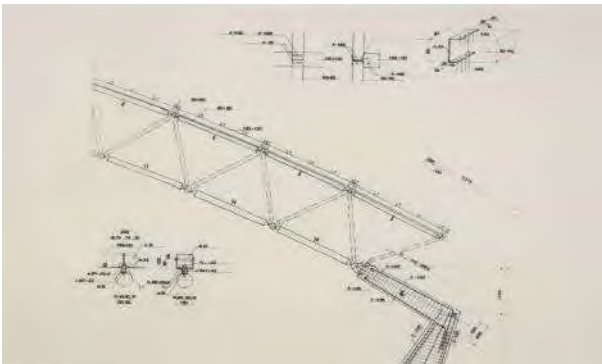


シルバーハット

【見取り図・写真】

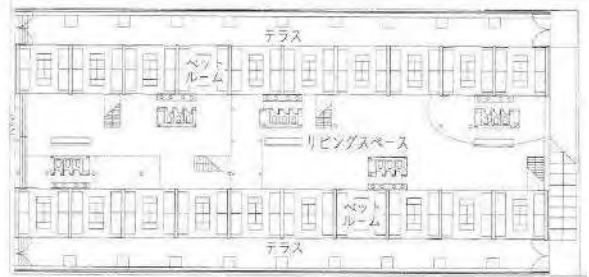
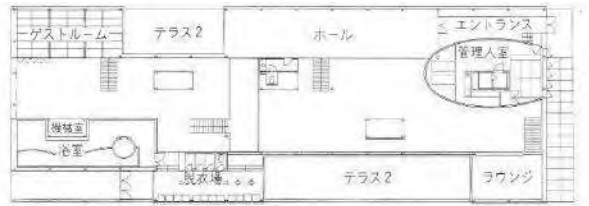
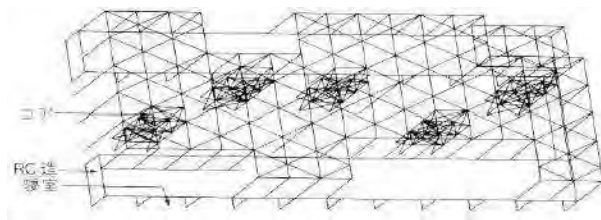
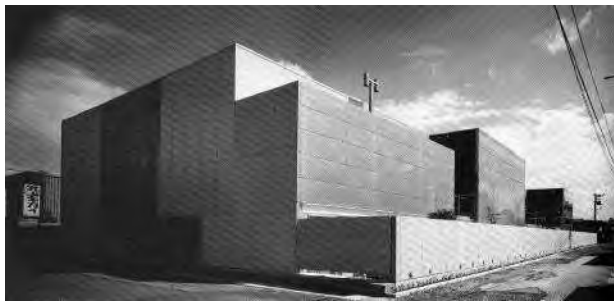


世田谷美術館

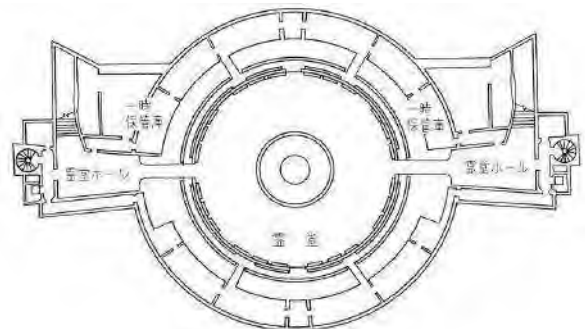
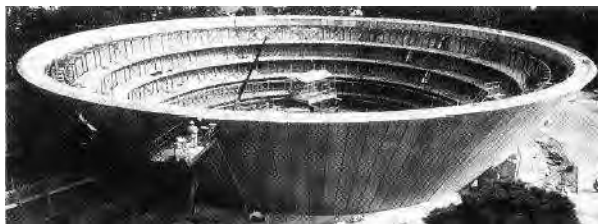
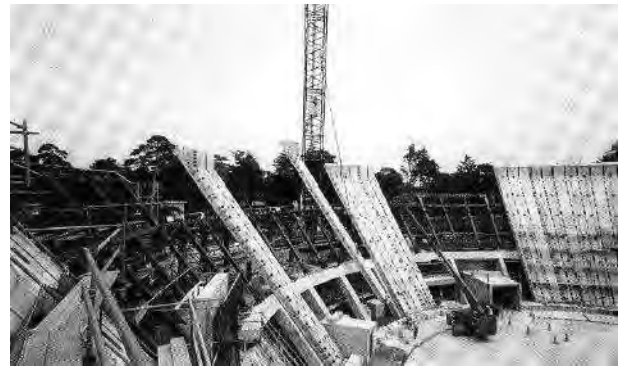


小国町民体育館

【見取り図・写真】



再春館製薬女子寮

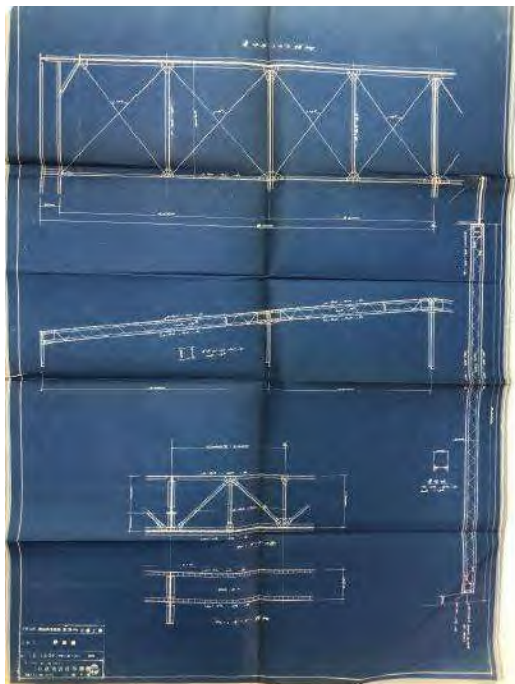


多摩霊園納骨堂

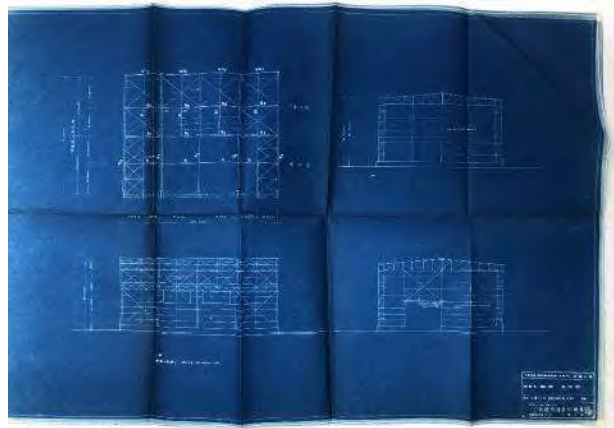
近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	8-2	資料群名称	松井源吾 ビーフาร์ม				調査年月日	平成30年10月20日	
								調査員	伊藤	
	1	所有者	ビーfarm							
	2	管理者	岡本 隆之様							
	3	資料所在地	169-0075 東京都新宿区高田馬場1-28-18-501							
	4	管理責任者	氏名：岡本 隆之 役職：代表取締役		連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03-5292-3746 E-mail:okamoto@b-farm.net			
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他				
	6	資料の来歴	松井先生の資料をビーfarmが保管している経緯は、ほぼ全てORSにあった資料の寄贈となります。 ORSより早稲田大学芸術学校の伊沢先生に、寄贈された資料を、2018/3月の伊沢先生の定年による退官に当たり、当社で保管することになりました。							
	7	著作権保有者								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	構造図・構造計算書・施工図等プロジェクト毎に整理されていて、紙袋3個程度にまとめられている。どのプロジェクトが保管されているかは把握されている。							
	9	資料作成年代								
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図）	☒ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☒ 構造計算書	☐ 実験関係書類	☐ 工事関係書類		
			☐ 模型	☐ 原稿	☐ 書籍・雑誌	☐ 書類ファイル				
			☐ 写真・動画	☐ 個人資料						
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☐ 実験データ				
			その他（ ）							
	11	含まれる 主なプロジェクト	浅草三葉会館・森邸・全般連八日市高架水槽・加藤邸・春日井市農協支所・大和町小学校・橋本自動車工場・アサヒ製作所総本社・千代田女学園・東邦大学体育館＋一般教室・横田商事倉庫・							
	12	廃棄した資料								
	13	公開の状況	☐ 公開	主な公開資料：						
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではない						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：							
	15	出版物の制作	名称：							
	16	備考								
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	（17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	☐ 可	☐ 不可						

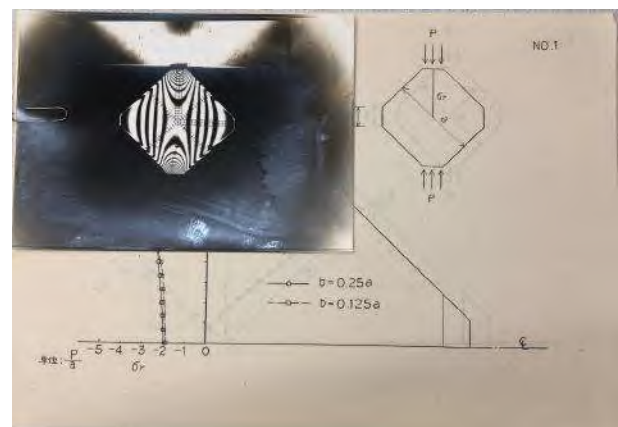
【見取り図・写真】



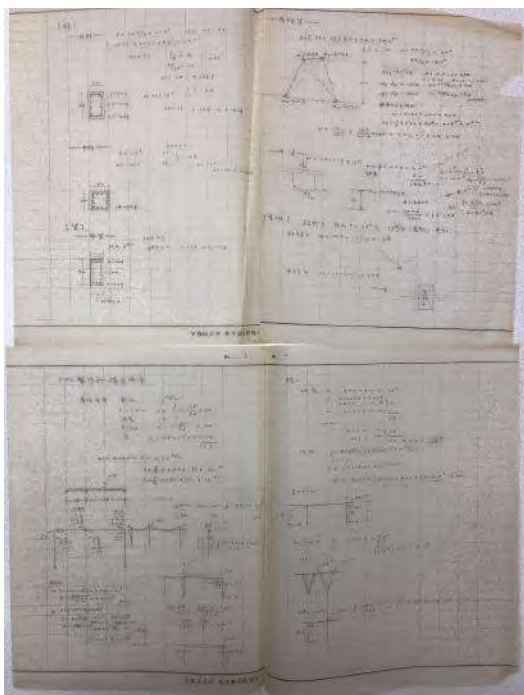
横田商事 倉庫事務所 構造図



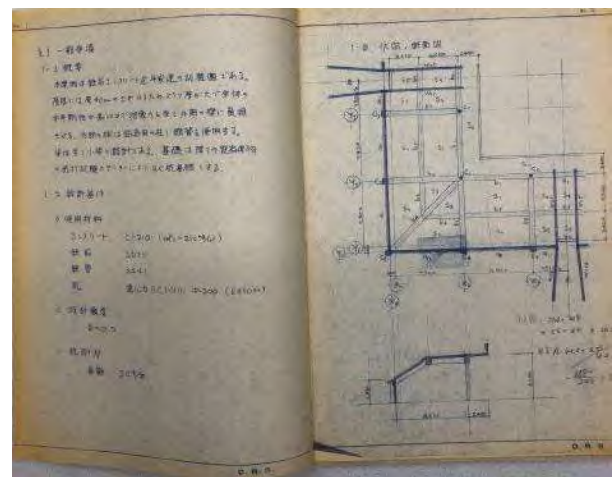
横田商事 倉庫事務所 構造図



春日井農協支所 構造計算書



橋本自動車工場 馬力試験室 構造計算書

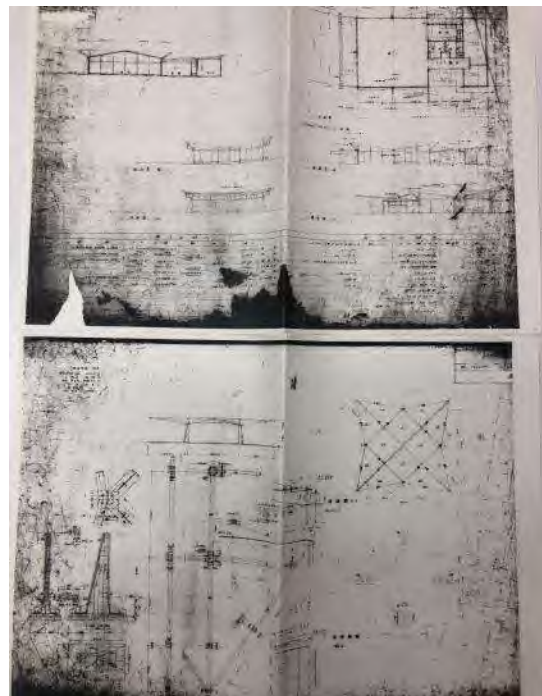


千代田女学園 構造計算書

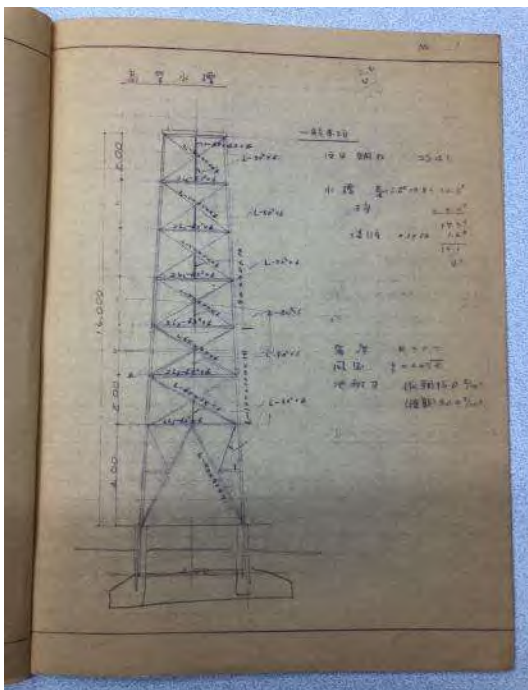
【見取り図・写真】



三谷パルプ食堂屋根 構造計算書原図



三谷パルプ食堂屋根 構造計算書原図



全販連 八日市高架水槽 構造計算書



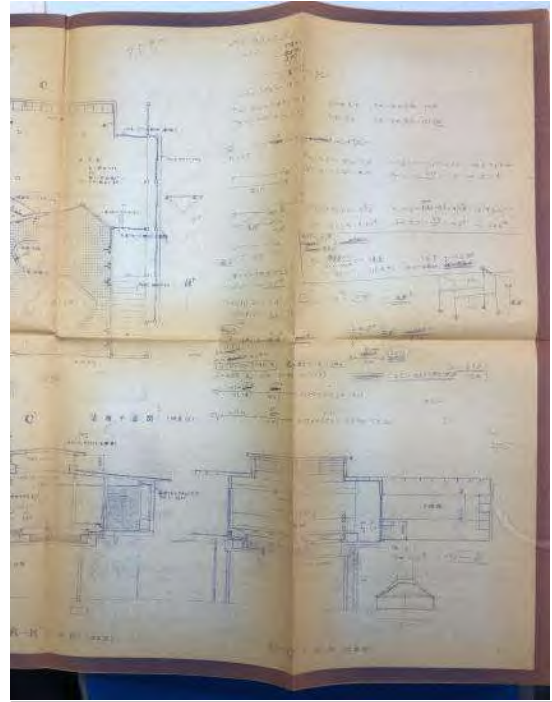
加藤邸 構造計算書

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

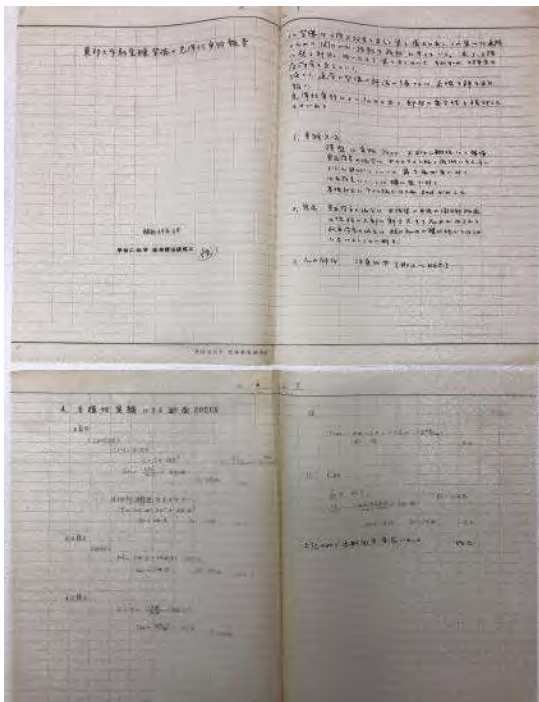
【見取り図・写真】



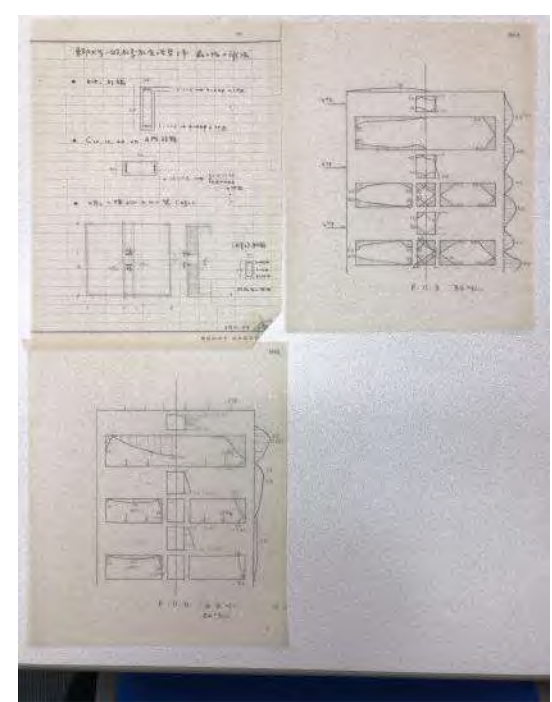
東光園 ロビー実測図



東光園 ロビー実測図



東邦大学 一般教養自然科学教室 計算書原図



東邦大学 一般教養自然科学教室 計算書原図

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

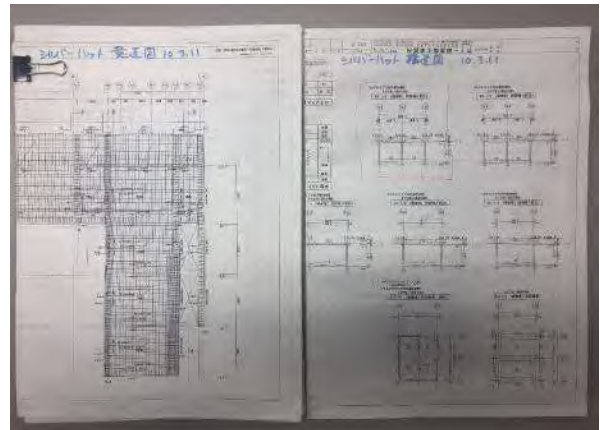
非公開 項目	番号	8-3	資料群名称	松井源吾（栗本鐵工所）				調査年月日	平成30年12月6日																																						
								調査員	新谷 伊藤																																						
	1	所有者	栗本鐵工所																																												
	2	管理者	正 木 秀 樹様																																												
	3	資料所在地	東京都港区港南2丁目16-2（太陽生命品川ビル）（株）栗本鐵工所 東京支社																																												
	4	管理責任者	氏名：正 木 秀 樹 役職：		連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03-3450-8558 E-mail:h_masaki@kurimoto.co.jp																																								
	5	所有形態	☒ 寄贈	☐ 寄託	☐ 当初から所蔵	☐ その他																																									
	6	資料の来歴	ORSに保存されていた松井源吾に関する資料の多くが栗本鐵工所に移動された。2019/1月までは栗本鐵工所東京支店に保管され、その後は栗本鐵工所 古賀工場に移動される予定。 ORS自体は2019/3に閉所予定																																												
	7	著作権保有者																																													
	8	資料概要 （総量・形態・ 管理方法）	図面・計算書・関係資料をダンボール10箱程度保有。20枚程度写真の原版が有りパネルにまとめられている。 プロジェクトごとにファイリングされており、プロジェクトごとの資料がどの程度あるかも明確である。																																												
	9	資料作成年代																																													
	10	主な資料種別	<table border="1"> <tr> <td>図面（原図）</td> <td>青焼き図面</td> <td>スケッチ等</td> <td>☒</td> <td>構造計算書</td> <td>☒</td> <td>実験関係書類</td> <td>☒</td> <td>工事関係書類</td> </tr> <tr> <td>模型</td> <td>原稿</td> <td>書籍・雑誌</td> <td>☒</td> <td>書類ファイル</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>☒ 写真・動画</td> <td>個人資料</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>図面デジタル</td> <td>計算書デジタル</td> <td>解析データ</td> <td></td> <td>実験データ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> その他（パネル）									図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	☒	構造計算書	☒	実験関係書類	☒	工事関係書類	模型	原稿	書籍・雑誌	☒	書類ファイル					☒ 写真・動画	個人資料								図面デジタル	計算書デジタル	解析データ		実験データ				
図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	☒	構造計算書	☒	実験関係書類	☒	工事関係書類																																							
模型	原稿	書籍・雑誌	☒	書類ファイル																																											
☒ 写真・動画	個人資料																																														
図面デジタル	計算書デジタル	解析データ		実験データ																																											
	11	含まれる 主なプロジェクト	シルバーハット（移築時のもの）・パシフィックホテル・ホテル佐渡・出雲大社宝物殿・筑波研究学園都市・田部美術館・島根県武道館・東京博物館・東光園・萩市民会館・福岡市庁舎・万博博 ランドマークタワー																																												
	12	廃棄した資料																																													
	13	公開の状況	☐ 公開		主な公開資料：																																										
			☒ 非公開		非公開の理由：公開施設ではない																																										
	14	展覧会の実績	展覧会名称：																																												
	15	出版物の制作	名称：																																												
	16	備考																																													
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可		部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）																																									
	18	（17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	☒ 可	☐ 不可																																											

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

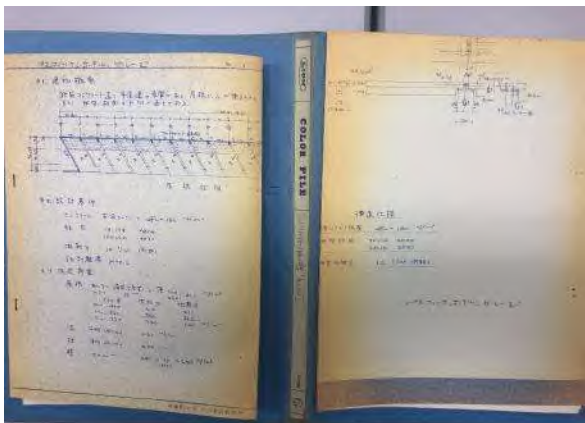
【見取り図・写真】



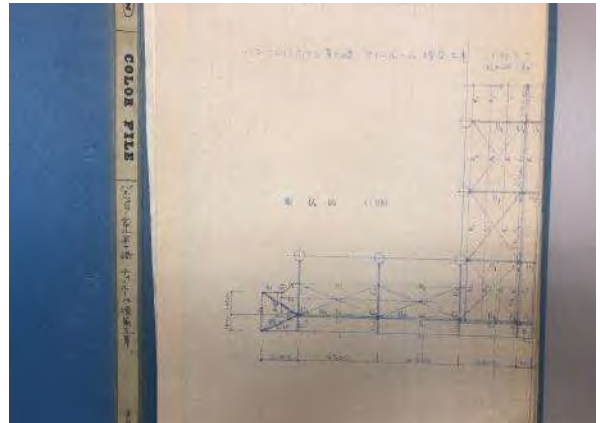
シルバーハット 移築計算書



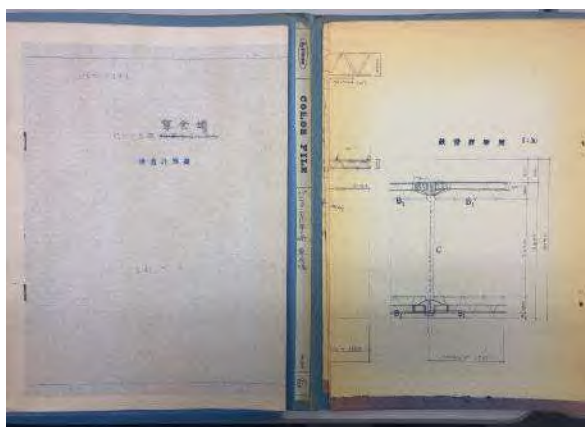
シルバーハット意匠図・構造図



パシフィックホテル茅ヶ崎ガレージ 構造計算書



パシフィックホテル茅ヶ崎ティールーム増築 構造図



パシフィックホテル茅ヶ崎宴会場 構造計算書



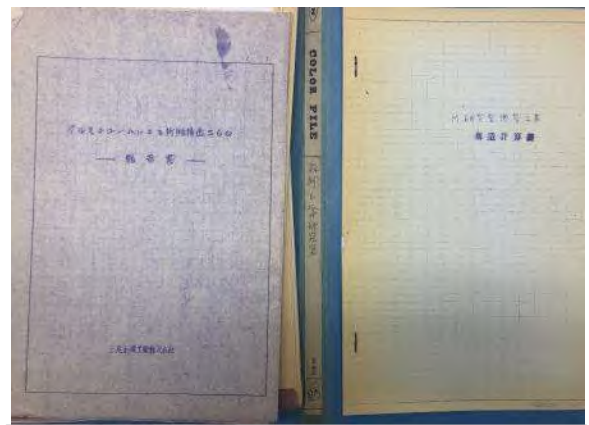
ホテル佐渡 構造計算書

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

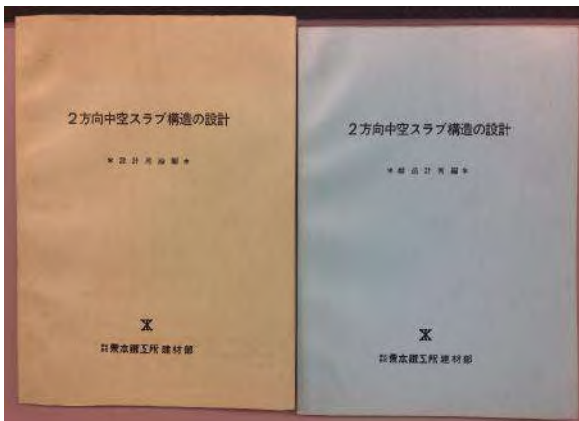
【見取り図・写真】



検査風景



森邸と松井研究室棟 構造計算書



中空スラブの設計



田部美術館 構造計算書



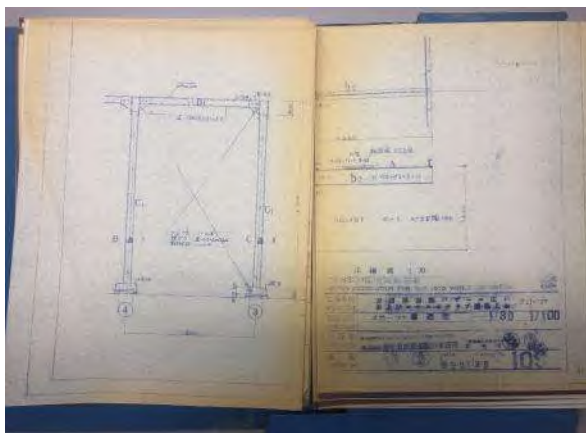
東光園 構造計算書



東光園 構造計算書

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

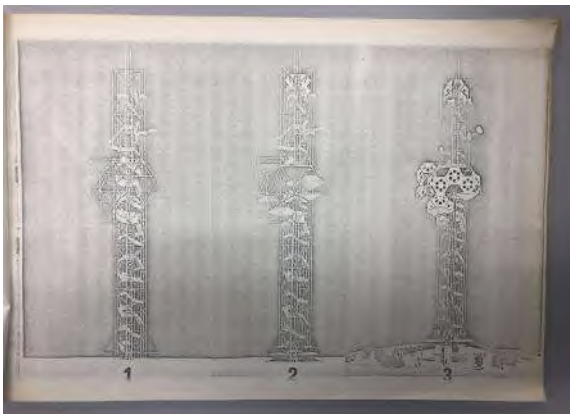
【見取り図・写真】



万国博 パザール広場 施工図



万博 球ジョイント資料



万博 塔 計画図



万博 風圧測定報告書



パネル (シルバーハット)



パネル (早稲田大学理工学部51号館)

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	8-4	資料群名称	松井源吾 坂茂建築設計事務所				調査年月日	平成31年1月22日		
								調査員	伊藤		
	1	所有者	坂茂建築設計事務所								
	2	管理者	坂茂								
	3	資料所在地	東京都世田谷区松原5-2-4								
	4	管理責任者	氏名：坂茂 役職：		連絡担当者		氏名：原野 泰典 役職：ダイレクター TEL：03-3324-6760 E-mail:yharano@shigerubanarchitects.com				
	5	所有形態	寄贈	寄託	☒	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	紙管を構造体として使う為の検討を松井源吾氏に依頼し、その後完成までのやり取りがプロジェクトとして多々残されている。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	坂氏と松井氏の打合せ内容が分かるFAX資料が多く残されている。事務所にて管理されており、管理状態は良い。 量としてはFAX関連が100ページほど、それ以外に実験報告や積算資料などが有り、合計で10cmのファイル3部程度にまとめられていた。								
	9	資料作成年代	1990年頃								
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	☒	スケッチ等	構造計算書	☒	実験関係書類	☒	工事関係書類
			模型	原稿		書籍・雑誌	書類ファイル				
			写真・動画	個人資料							
			図面デジタル	計算書デジタル		解析データ	実験データ				
			その他（ ）								
	11	含まれる 主なプロジェクト	小田原パビリオン ときめき小田原まつり メイン会場								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
			☒ 非公開	非公開の理由：公開施設ではない							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作	名称：								
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	☒ 可	☐ 不可	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）						
	18	（17が「不可」の場合）外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	☐ 可		☐ 不可						

紙筒トラスについて

松井源吾

坪井さんを経え、坂さんから、最初には、
 土佐石の1は、小田原博メイン会場に使う紙筒
 の強度を調べ、1と2があった。この紙筒は、
 この実験の外壁と12本立して使われるので、
 同圧をうけるのである。実験(重量1.2.3)
 結果は、圧縮強度 30 kg/cm^2 、3/3倍り 70 kg/cm^2 、
 曲げ 4.5 kg/cm^2 ~~と大差あり~~ 2があった、松
 井さんへ、この強度を示して設計してもらう

20×10 TEL:05913231(大)

松井源吾研究室

発注年月日 2002年12月2日

宛先	発信
早稲田大学 理工学部 〒160 東京都新宿区大久保3-4-1 所属 松井研究室 氏名 松井 源吾	Phone: 03-303-4141 (機) Fax : 03-200-2587

振茂 殿

Phone:
Fax :

原稿枚数 3 枚 (本用紙を含めて)

伝言

概説

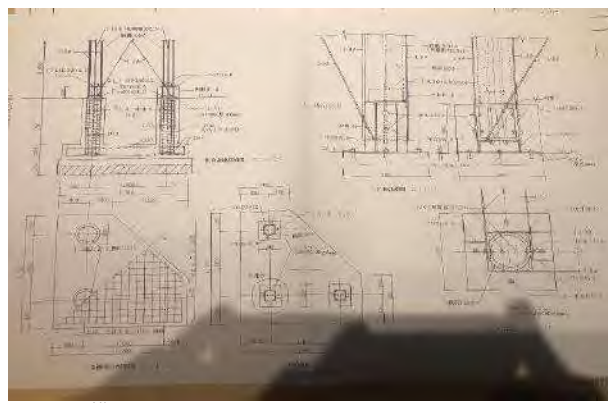
紙筒の構造は、4角筒、1/2サイズの鋼板を4角に
 トリミングの枠組みで構成する。
 1/2サイズの鋼板は、鋼材は $\phi 150$ の厚肉の $\phi 4$ の
 材に直交して $\phi 100$ の筒、板厚 $\phi 4$ の鋼材で構成する。
 1/2サイズの筒内、板厚 $\phi 4$ の筒、板厚 $\phi 4$ の筒、
 2枚の筒の外、板厚 $\phi 4$ の筒、板厚 $\phi 4$ の筒、
 鋼材の接合部は、すき間を埋める。

新築のため、実験を参考にして、短期荷重時の
 下記となる (kg/cm^2)

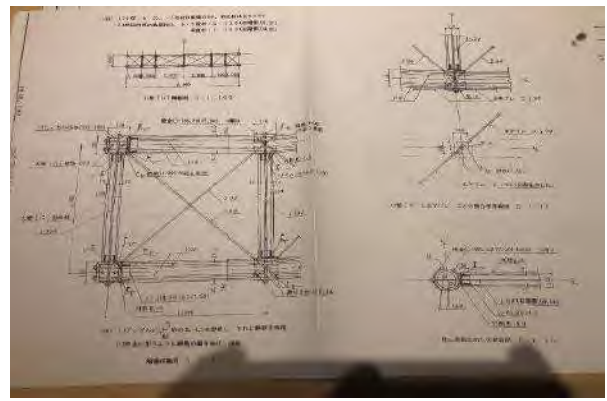
$\phi 150$	圧縮	90	曲げ	140
$\phi 100$	圧縮	100		

部材は、図1.1.1より決定寸法とし、間隔 40 cm と
 地盤は、長期 5 t/m^2 とする。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート



構造図



試験耐力実験報告書



4.9

松下 富士雄

まつした ふじお

1926 年（昭和元年）～2011 年（平成 23 年）

元巴コーポレーション会長。八戸火力発電所貯炭場上屋を始めとする我が国におけるラチスシェル屋根構造のパイオニア。シェル理論をアングル材によるラチスシェル屋根構造に応用したダイヤモンドシェルの開発を通じ、多くの学校体育館を始めとする空間構造への適用を行った。昭和 37 年度に「鉄骨立体屋根構造の応力解析に関する研究」として民間人としては初めて日本建築学会賞（論文）を受賞。1995 年藍綬褒章受章。

・年表

1950 年(昭和 25 年)	東京工業大学建築学科卒業、巴組鐵工所入社
1960 年(昭和 35 年)	建築年鑑賞「八戸火力発電所貯炭場上屋」
1962 年(昭和 37 年)	学位取得:工学博士(東京工業大学)「鉄骨立体構造の研究」
1963 年(昭和 38 年)	日本建築学会賞(論文)
1964 年(昭和 39 年)	軽金属協会建築賞「全アルミニウム建築による大智寺本堂」
1965 年(昭和 40 年)～1984(昭和 59 年)	立体構造国際会議(ICSS)組織委員
1975 年(昭和 50 年)～1976 (昭和 51 年)	日本建築学会理事
1985 年(昭和 55 年)～1995 年(平成 7 年)	東京工業大学大学院理工学研究科 非常勤講師
1986 年(昭和 61 年)～1991 年(平成 3 年)	鉄骨建設業協会運営委員長
1991 年(平成 3 年)～1993 年(平成 5 年)	立体構造国際会議(ICSS)組織委員
1994 年(平成 6 年)	科学技術庁長官賞
1995 年(平成 7 年)	藍綬褒章

・主な構造設計作品

八戸火力発電所貯炭場上屋（1950）、日本原子力研究所（東海村）炉室（1962）、栃木県民体育館（1965）、中央電気通信学園中央講堂（1956）、日本万国博覧会住友童話館、姫路厚生年金会館、日本通運大阪ターミナル、今市市大桑小学校体育館、栃木聾学校体育館、慶応高校体育館、NTT 通信学園講堂

・主な著作

建築学大系 40：鉄骨造設計例（1968）、大スパン建築（1970）、スペースストラクチャーの設計と実例（1971）

4.9.1 昨年度調査の概要

(株)巴コーポレーション事業開発部:岡本哲美氏に2018年3月6日にヒアリングを行った結果、松下富士夫氏に関する資料として、ダイヤモンドシェルに関する論文、八戸火力発電所貯炭場上屋の建設に関する資料(模型実験写真、実験報告書、現場施工時写真、鉄骨構造図)他が同社内に残っていること、また、本社が昨年2月に移転した折に、資料の一部を小山工場内に保管している可能性があるとの回答を得たため、同社を中心に次年度に調査することとした。

4.9.2 本年度調査の概要

昨年度の調査において、松下資料保有候補先として挙げられた(株)巴コーポレーションを中心にヒアリングを行った。松下富士夫氏に関する社内資料は松下氏2004年3月退職時に、残された資料が立体構造部長:植木隆司氏に引き継がれ、植木氏退職に伴い後任者の向山洋一氏に引き継がれ現在に至るとのことで、まず2018年9月7日に同本社(東京都中央区月島)を訪問し、資料調査を行った。その結果、段ボール箱2箱分の図面・構造計算書ファイル、施工・竣工写真・スライド、実験報告書および原稿等が保管されていることが確認された。

一方、同社創業者である野澤一郎の業績を記念した小山工場の野澤一郎記念体育館内にも、関連資料がある可能性があるとのことで、2018年9月28日に訪問し調査を行った。その結果、松下富士夫氏が関わった作品の構造模型や博士論文が保管されていることが確認された。

なお、岡本哲美氏より2018年10月にご長男の松下聡氏に連絡を取っていただき確認したところ、松下富士夫氏に関する資料は全て整理されており、ご遺族側では全く保管していないという回答を2018年10月16日に得た。

以上の調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	9-1	資料群名称	松下富士雄資料				調査年月日	2018. 9. 7		
								調査員	竹内・稲永		
	1	所有者	巴コーポレーション								
	2	管理者	鉄構事業部 立体設計部：向山洋一氏								
	3	資料所在地	巴コーポレーション月島本社								
	4	管理責任者	氏名：向山洋一 役職：技術開発部長・鉄構設計副統括 03-3533-4911				連絡担当者	氏名：竹内 徹 役職：東京工業大学 教授 TEL：03-5734-3165 E-mail:takeuchi.t.ab@m.titech.ac.jp			
	5	所有形態	寄贈	寄託	☒	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	松下氏2004.3退職時に、残された資料が立体構造部植木隆司氏に引き継がれ、植木氏退職に伴い向山洋一氏に引き継がれ現在に至る。								
	7	著作権保有者	巴コーポレーション								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	図面・構造計算書ファイル類：7冊 (円筒シェル縮小試験体、日本原子力研究所炉室上屋、栃木県民体育館、中央電気通信学園講堂など) 施工・竣工写真・スライド類：6冊 (東北電力八戸貯炭場実験、現場、姫路厚生年金会館、日本通運大阪ターミナル、今市市大桑小学校体育館、栃木聾学校体育館、慶応高校体育館、NTT通信学園講堂、東北電力八戸貯炭場、フラードーム、EXP01980、都立有明プール、長野オリンピックスケート場、夢の超大スパンなど) 実験報告書：2冊(東北電力八戸火力発電所貯炭場、円筒ダイヤモンドシェル) 雑誌：6冊(新建築と新工法、社内報：鉄骨シェル構造の特性とその応力解析など) 書籍：4冊(建築学大系、大スパン建築、スペースストラクチャーの設計と実例、Braced Domes)								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	☒ 図面(原図)	☒ 青焼き図面	☐ スケッチ等	☒ 構造計算書	☒ 実験関係書類	☒ 工事関係書類			
			☐ 模型	☒ 原稿	☒ 書籍・雑誌	☐ 書類ファイル					
			☒ 写真・動画	☐ 個人資料	☐ マイクロフィルム						
			☐ 図面デジタル	☐ 計算書デジタル	☐ 解析データ	☒ 実験データ					
			☐ その他()								
	11	含まれる 主なプロジェク ト	東北電力八戸貯炭場、日本原子力研究所炉室、栃木県民体育館、中央電気通信学園講堂、姫路厚生年金会館、日本通運大阪ターミナル、今市市大桑小学校体育館、栃木聾学校体育館、慶応高校体育館、NTT通信学園講堂等								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☒ 公開	主な公開資料：							
			☐ 非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作	代表的な作品は雑誌、書籍にシェル理論、解析、設計概要と共に掲載								
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	☒	可	☐	不可	部分的に可(公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック)				
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否		可	☐	不可					

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

右: 資料一覧と収納箱
下: シェル理論メモと円筒シェル
実験モデル解析計算書(青焼き)16b



調査状況: 竹内と向山氏



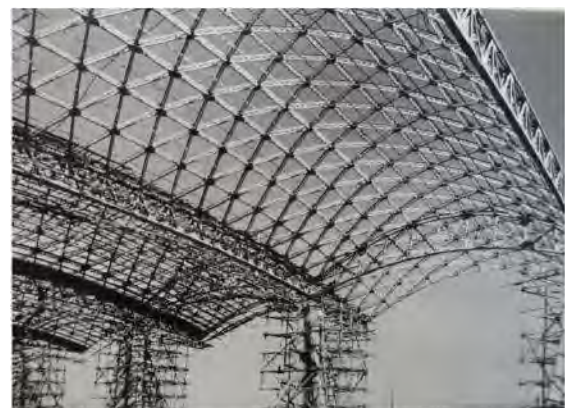
日本原子力研究所炉屋根実験報告17



東北電力八戸火力貯炭場実験写真7



栃木県体育館屋根伏図(手書)18



栃木県体育館屋根スケッチ・手書原稿18



東北電力八戸火力貯炭場現場写真3

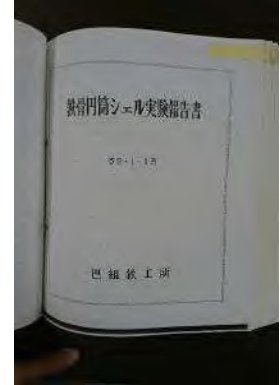
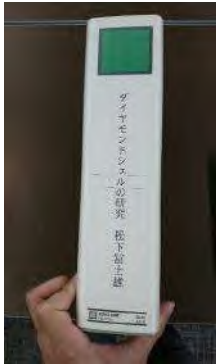
近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】			
	表題	内容、時期	関連プロジェクト
1	ファイル：ダイヤモンドシェルの研究	理論・計算書等ファイル	
2	アルバム(Photo Graphs)	プロジェクト施工写真	姫路厚生会館、日本通運大阪ターミナル、今市市大桑小学校体育館、栃木聾学校体育館、慶応高校体育館
3	アルバム(緑)	プロジェクト施工写真	東北電力八戸貯炭場
4	鉄骨円筒シェルの研究	計算書・工程表・論文別刷	
5	アルバム(Snapbook青)	東北電力八戸火力発電所貯炭場載荷試験写真集	東北電力八戸貯炭場
6	鉄骨円筒シェル実験報告書		スパン12m
7	東北電力八戸火力発電所貯炭場載荷試験報告書		東北電力八戸貯炭場
8	アルバム(青・白玉)	東北電力八戸火力発電所貯炭場現場写真集	東北電力八戸貯炭場
9	雑誌：新建築と新工法	北海道建築部監修、S35年	記事(ダイヤモンドトラスおよびダイヤモンドシェル)
10	雑誌：特殊工法の構造理論とその構法	北海道建築行政協会、北海道建築法令普及会、1959	記事(ダイヤモンドトラスおよびダイヤモンドシェル)
11	スライド： 鉄骨シェルの歴史と超大スパン構造	55枚	NTT通信学園講堂、東北電力八戸貯炭場、フラードーム、EXP01980、都立有明プール、長野オリンピックスケート場、アストロドーム、ピッツバーグシビックアリーナ、スカイドーム、福岡ドーム、東京ドーム、モンテリオールオリンピック競技場、ジョージアドーム、サンコーストドーム、アラモドーム、夢の超大スパン
12	クリアファイル	雑誌(建築界Vol.4、No.8、S30.8)・論文別刷(日本建築学会論文報告集No.60、S33.10)、ダイヤモンドシェル実験写真、載荷図	東北電力、円筒シェル、球形ドーム
13	計算書原図	鉄骨造円筒シェル構造計算書	梁間12.8m×桁行20m
14	施工時写真		EXP070(住友児童館、フランス館)、EXP085、体育館、秋田スケート、名古屋展示場、栃木県体育館、作新学院体育館、日生中学校体育館、真岡市総合体育館
15	社内報：鉄骨シェルの構造の特性とその応力解析、アメリカ・ヨーロッパにおける最近の鉄骨立体構造	巴組鐵工所、S37年7月	様々な形状に対する理論解説と米国紹介
16a	社内報：鉄骨シェルの実験について(円筒型シェルの場合)、	巴組鐵工所、S30-10-8	国立音楽大学音楽教室、スパン22m、縮小試験体スパン12.8m
16b	研3、鉄骨造円筒シェルの研究、実験概要	青焼S30.5.15	円筒シェル縮小試験体の計算書、シェル理論のメモ
17	日本原子力研究所炉室上屋模型実験報告	巴組鐵工所、S34.10.31	日本原子力研究所(東海村)炉室上屋、スパン3.35m(1/10)
18	栃木県体育館意匠図、構造原図、施工写真、報告書手書き原稿	建築材料、1966年2月、曲面集成シェルによる体育館の設計と施工、松下富士雄、木村幸男、和田兵易のための原稿・原図	栃木県体育館
19	季刊カラム、No.24、S42.10	トラス：松下富士夫	
20a	雑誌別刷：中央電気通信学園講堂	竣工写真、図面、構造設計報告	中央電気通信学園講堂
20b	書籍：建築学大系40：鉄骨造設計例	II中央電気通信学園講堂、球形シェル、スパン33.85m	中央電気通信学園講堂
21	書籍：大スパン建築	日本構造構造協会、S45.5	当時の代表的研究者が手書き執筆、立体トラスの接合部を担当
22	スペースストラクチャーの設計と実例	日本構造構造協会編、鹿島出版会、S46.8	当時の代表的研究者による活字版、立体トラスの接合部を担当
23	Braced Domes	Z.S. Makowski	

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】

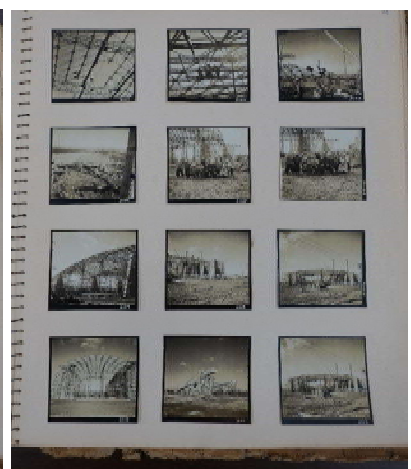
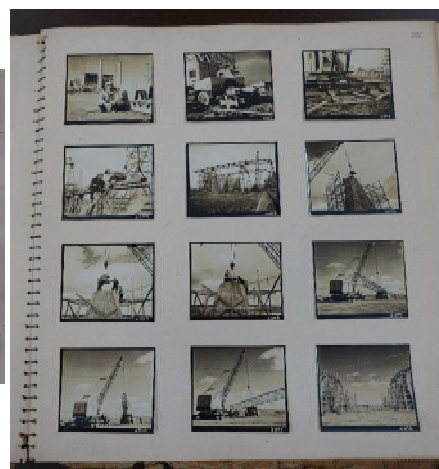
右:資料保管状況



ファイル:ダイヤモンドシェルの研究 1



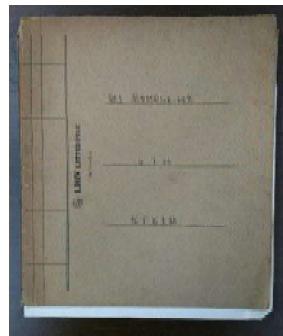
アルバム(Photo Graphs)・プロジェクト施工写真 2



アルバム(緑)・プロジェクト施工写真 3

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

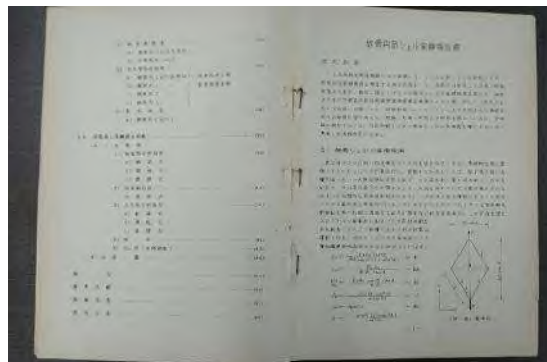
【見取り図・写真】



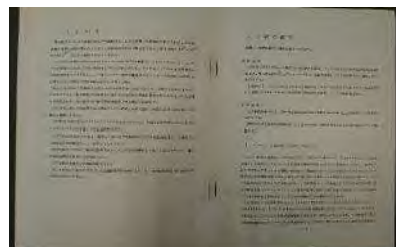
鉄骨円筒シェルの研究 計算書・工程表・論文別刷 4



アルバム(Snapbook青)・東北電力八戸火力発電所貯炭場載荷試験写真集 5



鉄骨円筒シェル実験報告書 6



東北電力八戸火力発電所貯炭場載荷試験報告書 7

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



アルバム(青・白玉)・東北電力八戸火力発電所貯炭場現場写真集 8



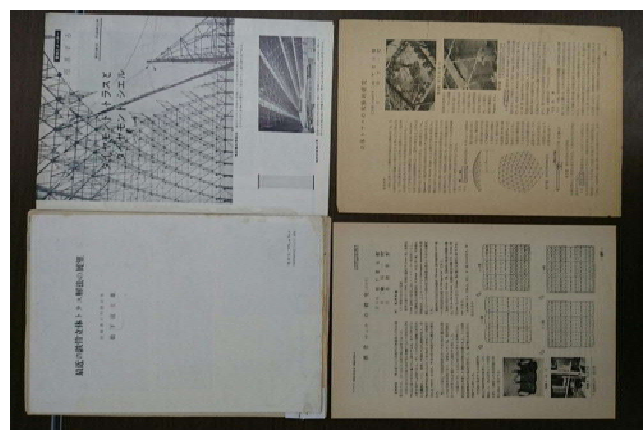
雑誌:新建築と新工法 9



雑誌:特殊工法の構造理論とその構法 10



スライド:鉄骨シェルの歴史と超大スパン構造 11



クリアファイル・雑誌・論文別刷 12

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

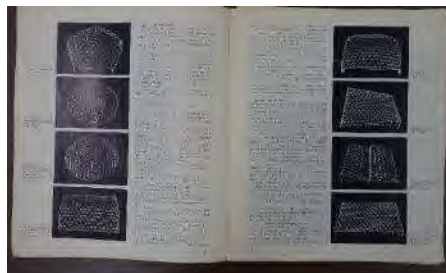
【見取り図・写真】



計算書原図・鉄骨造円筒シェル構造計算書 13



施工時写真 14



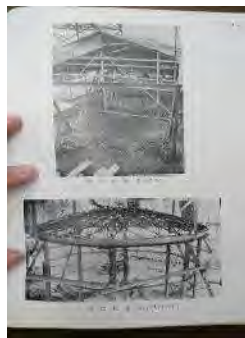
社内報:鉄骨シェル構造の特性とその応力解析 15



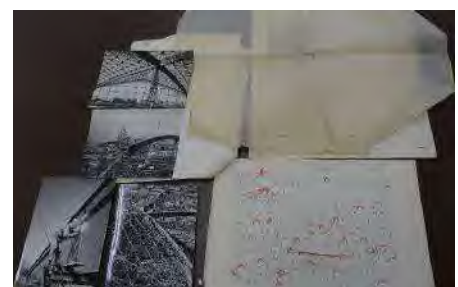
社内報:鉄骨シェルの実験について・鉄骨造円筒シェルの研究 16a/b

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

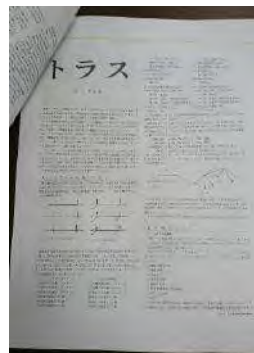
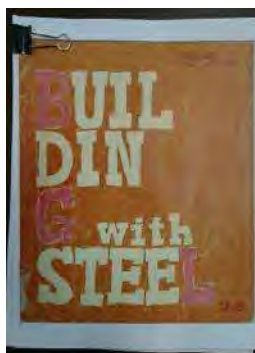
【見取り図・写真】



日本原子力研究所炉室上屋模型実験報告 17



栃木県体育館意匠図、構造原図、施工写真、報告書手書き原稿 18



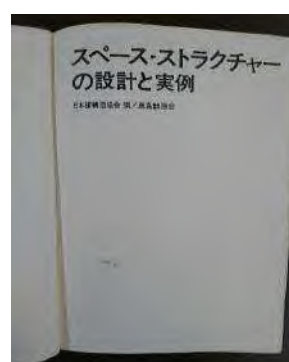
季刊カラム No.24 19



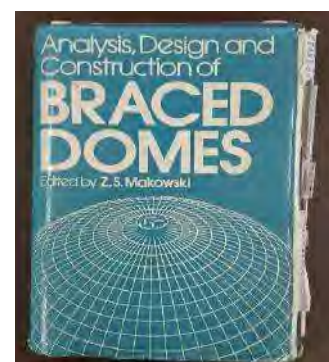
書籍: 建築学大系40: 鉄骨造設計例 20a/b



書籍: 大スパン建築 21



スペースストラクチャーの設計と実例 22



Braced Domes 23

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	9-2	資料群名称	松下富士雄資料				調査年月日	2018.9.26		
								調査員	稲永・佐野		
	1	所有者	巴コーポレーション								
	2	管理者	事業管理室：野澤善雄氏								
	3	資料所在地	巴コーポレーション小山工場 野澤一郎記念体育館								
	4	管理責任者	氏名：野澤善雄 役職：事業管理室長 03-3533-5311				連絡担当者	氏名：竹内 徹 役職：東京工業大学 教授 TEL：03-5734-3165 E-mail:takeuchi.t.ab@m.titech.ac.jp			
	5	所有形態	寄贈	寄託	☒	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	野澤一郎記念体育館に入って左手に創業者の銅像や巴コーポレーションの歴史に関する展示室があり、その一部に模型や特許記念盾が展示されている。								
	7	著作権保有者	巴コーポレーション								
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	博士論文:1冊 工事施工計画書:1冊 模型(単層ドーム、ダイヤモンドトラス、円筒シェル) ダイヤモンドトラス特許記念盾 野澤一郎記念体育館								
	9	資料作成年代	1962年、1987年								
	10	主な資料種別	☒	図面(原図)	青焼き図面	スケッチ等	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類		
				模型	原稿	書籍・雑誌	書類ファイル				
				写真・動画	個人資料	マイクロフィルム					
				図面デジタル	計算書デジタル	解析データ	実験データ				
			その他(博士論文、ダイヤモンドトラス特許記念盾)								
	11	含まれる 主なプロジェ クト	伊丹空港格納庫								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	☒	公開	主な公開資料：						
				非公開	非公開の理由：						
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	博士論文1冊、工事施工計画書1冊は今後、巴コーポレーション月島本社にて保管 野澤一郎記念体育館はシステムトラスの評定のために建設された。								
	17	調査結果公開の可否	☒	可		不可	部分的に可(公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック)				
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					可		不可		

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



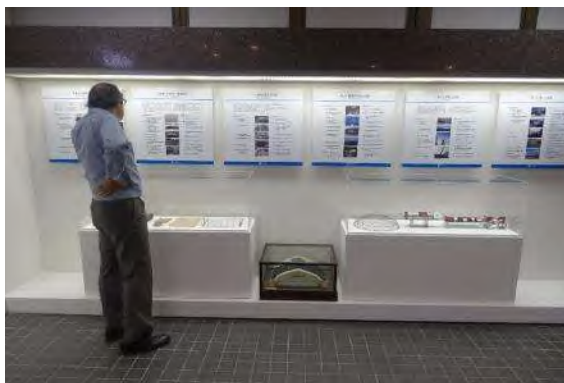
巴コーポレーション小山工場 野澤一郎記念体育館 外観



巴コーポレーション小山工場 野澤一郎記念体育館 内観



資料保管状況(模型・特許記念盾)



調査状況:岡本氏

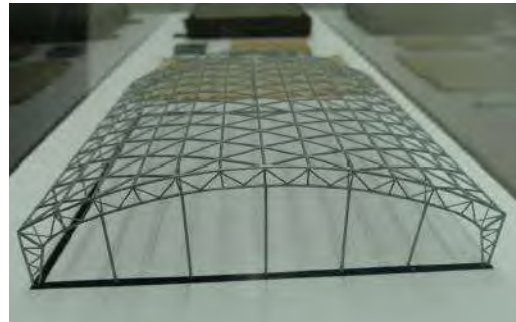
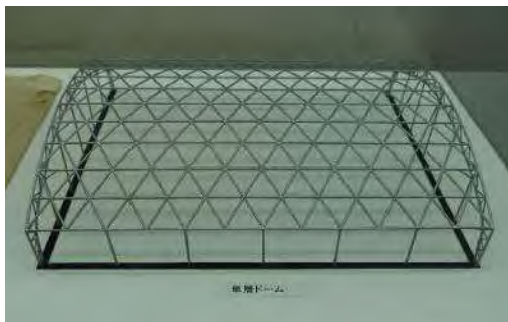


調査状況:稲永

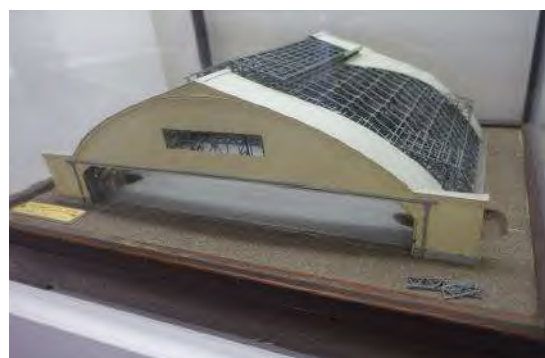
【見取り図・写真】



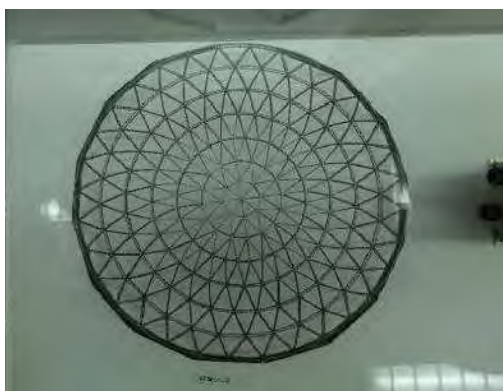
ダイヤモンドトラス特許記念盾



模型(単層ドーム)



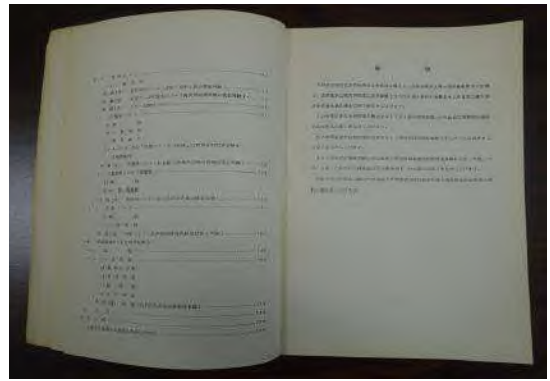
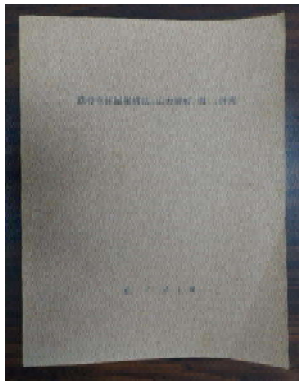
模型(ダイヤモンドトラス, A Type, 40x30m, 1/100, 初期の格納庫)



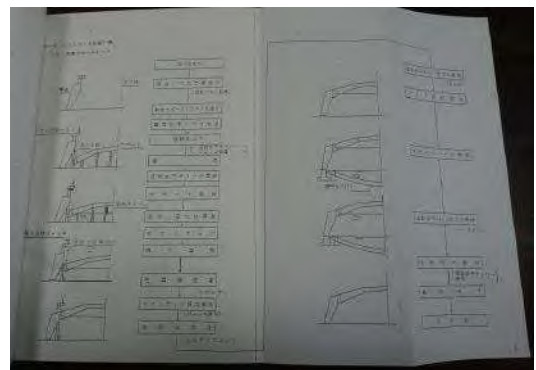
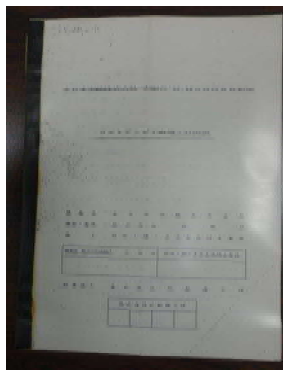
模型(円筒シェル)

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



鉄骨立体屋根構造の応力解析に関する研究(博士論文)



全日本空輸株式会社 大阪O'H・HANGAR新築 リフトアップ工事施工計画書

	表題	内容、時期	関連プロジェクト
1	ダイヤモンドトラス特許記念盾		
2	模型(単層ドーム)		
3	模型(ダイヤモンドトラス, A Type, 40x30m, 1/100, 初期の格納庫)		
4	模型(円筒シェル)		
5	鉄骨立体屋根構造の応力解析に関する研究	博士論文、1962	
6	全日本空輸株式会社 大阪O'H・HANGAR新築 リフトアップ工事施工計画書	施工計画書・工程表、1987	伊丹空港

4.10

木村 俊彦

きむら としひこ

1926 年（大正 15 年）～2009 年（平成 21 年）

建築家前川國男の薫陶を受け、「構造のための構造」ではなく「建築のための構造」を標榜し、半世紀にわたって、大谷幸夫、大高正人、楨文彦、磯崎新、谷口吉生、篠原一男、原広司、伊東豊雄、山本理顕ら著名建築家との協働により多数の名建築を生み出す。その結果、日本建築学会賞（作品）を受賞した建築作品は 13 点に上る。また、木村の事務所からは優れた構造設計者が多数輩出され、アトリエ系構造設計事務所が発展期を迎える礎を築くことになる。ELA-PLA 法など独自の視点による振動解析手法の研究や構造設計者の地位向上に向けた活動など、構造設計業界に多大なる貢献をなす。

・年表

1926 年（大正 15 年）	香川県生
1950 年（昭和 25 年）	東京大学工学部建築学科卒業，前川國男建築設計事務所入所
1952 年（昭和 27 年）	横山建築構造設計事務所設立に際し移籍
1964 年（昭和 39 年）	木村俊彦構造設計事務所設立
1976 年（昭和 51 年）	日本建築学会賞（業績）
1992 年（平成 4 年）	KSP 設立
1993 年（平成 5 年）	日経 BP 技術賞大賞
1999 年（平成 11 年）	設計活動から引退，木村俊彦構造設計事務所解散
2002 年（平成 14 年）	日本建築学会賞（作品）
2006 年（平成 18 年）	日本建築学会大賞

・主な構造設計作品

神奈川県立図書館・音楽堂（1954），国際文化会館（1955），国立京都国際会館（1966），千葉県立中央図書館（1968），京都駅ビル（1997），梅田スカイビル（1993），公立はこだて未来大学（2000）

・主な著作

E.TOROOJA 現代の構造設計（1960），構造の原理と解法 I～III（1976），構造設計とは（1991），日本現代建築家シリーズ 17 木村俊彦（1996）

4.10.1 昨年度調査の概要

木村俊彦構造設計事務所では、事務所解散の際に、設計図面および計算書をリスト化し、その管理者を定めるとともに、設計図面に関してはデジタルアーカイブとして保存する作業を行っていた。

その後2014年に、資料散逸防止のため、ご令室のもとに一括して収集して管理することとした。2015年より近現代建築資料館への寄贈を前提として、法政大学の浜田研究室で保管分類作業を行なった。設計図面に関しては、175本の図面筒、計222プロジェクト、7629枚の構造図を確認した。構造計算書について、全容把握には至らなかったが、多数含まれていることを把握した。他に、木村氏直筆の建物風景画3点、校正原稿、事務所で作成したプログラムソースコード集、施工中のスライドなどが多数保存されていた。2018年3月、これらの資料を近現代建築資料館に移管した。

横山建築構造設計事務所時代の木村俊彦氏関連資料は、近現代建築資料館に移管した資料の中にはほとんどなかったため、次年度、横山建築構造設計事務所にて調査することとした。

4.10.2 本年度調査の概要

近現代建築資料館に移管された資料のうち、段ボール箱に収納されていた資料についてリスト作成を行なった。資料の内容は大別して構造計算書、プログラムファイル、写真、原稿、通信記録などであった。

これら資料に設計図面も合わせて明らかになった木村資料の全容を題材として、本調査事業で提案を行う構造資料のアーカイブ指針案を作成した。

また、横山建築構造設計事務所時代の木村俊彦氏関連資料については、横山不学氏の調査と連携する形で所在調査を実行し、10プロジェクトの設計図書（構造図、構造計算書）の所在を確認した。

本年度の調査内容の詳細について、次項以降の調査シートに示す。

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	10-1	資料群名称	木村俊彦（横山事務所所属時）				調査年月日	平成30年10月9日		
								調査員	金箱温春		
	1	所有者	横山建築構造設計事務所								
	2	管理者	同上								
	3	資料所在地	新宿区本塩町4番5号								
	4	管理責任者	氏名： 根津 康紀 役職： 代表取締役			連絡担当者		氏名： 役職： TEL：03-3353-7561 E-mail:			
	5	所有形態	寄贈	寄託	レ	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	設計事務所として設計した資料を最小限の情報として保存している。								
	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	・図面は基本的にマイクロフィルムにて保存し、陽画焼きしたものを製本して保存している。 ・計算書は原図で保存している。								
	9	資料作成年代	1950年～1965年								
	10	主な資料種別	図面（原図）	青焼き図面	スケッチ等	レ	構造計算書	実験関係書類	工事関係書類		
			模型	原稿	書籍・雑誌		書類ファイル				
			写真・動画	個人資料	レ	マイクロフィルム					
			図面デジタル	計算書デジタル		解析データ	実験データ				
			レ	その他（ 陽画焼き図面 ）							
	11	含まれる 主なプロジェクト	神奈川県立音楽堂、国際文化会館、福島県教育会館、岡山県庁舎、晴海高層アパート、ブリュッセル万博日本館、東京文化会館、学習院大学大教室、世田谷郷土資料館、蛇の目ビル								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
			レ 非公開	非公開の理由：							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作									
	16	備考	関連する文献 木村俊彦：構造設計の初心、木村俊彦構造設計事務所発行（非売品）、1998年								
	17	調査結果公開の可否	レ	可	不可	部分的に可（公開可の項目： ）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否					レ	可	不可		

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

【見取り図・写真】



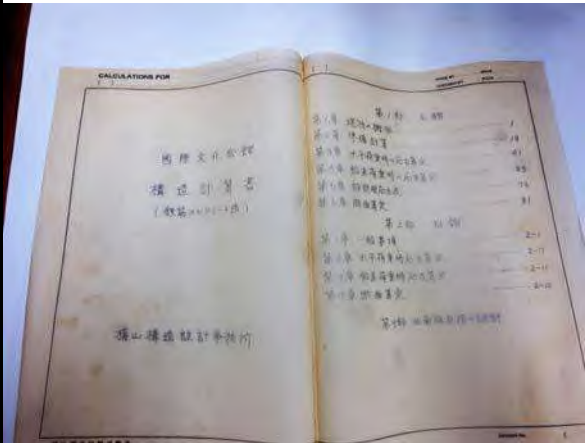
横山建築構造設計事務所（ミドビル）



縮刷版の図面保存状況



計算書原図の保存状況

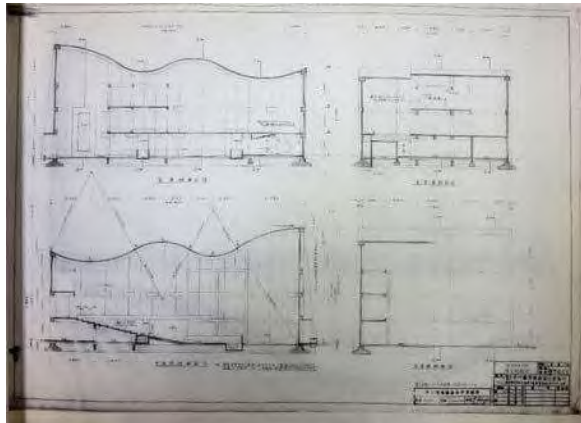


国際文化会館 計算書（原図）

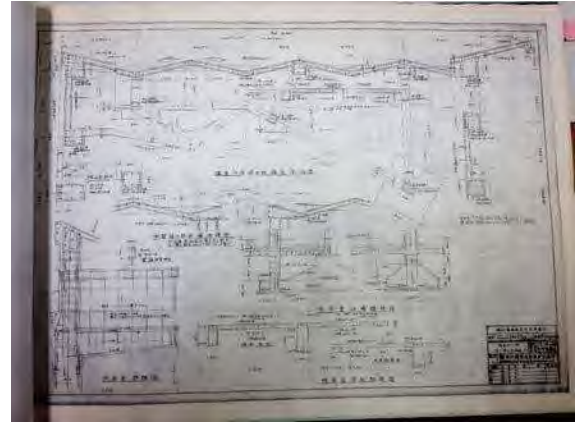


国際文化会館 計算書（原図）

【見取り図・写真】



福島県教育会館 図面（陽画焼き）



福島県教育会館 図面（陽画焼き）



福島県教育会館 計算書（原図）



福島県教育会館 計算書（原図）

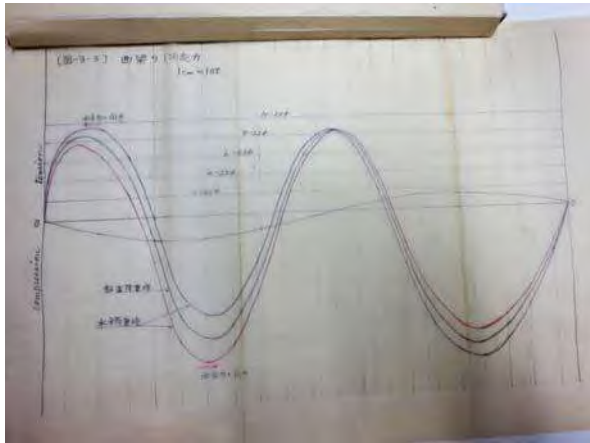


福島県教育会館 計算書（原図）

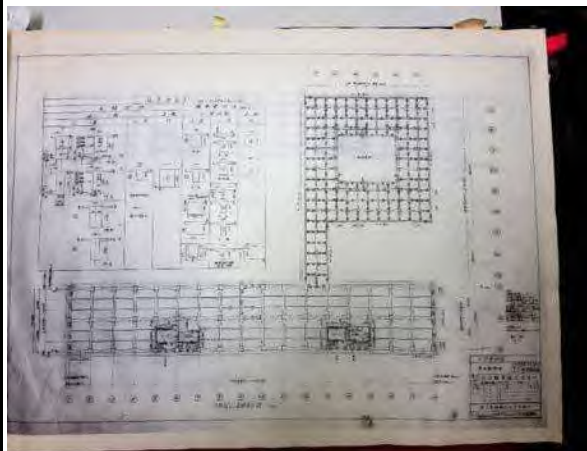
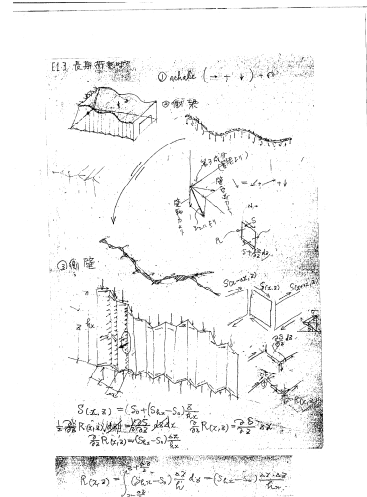


福島県教育会館 計算書（原図）

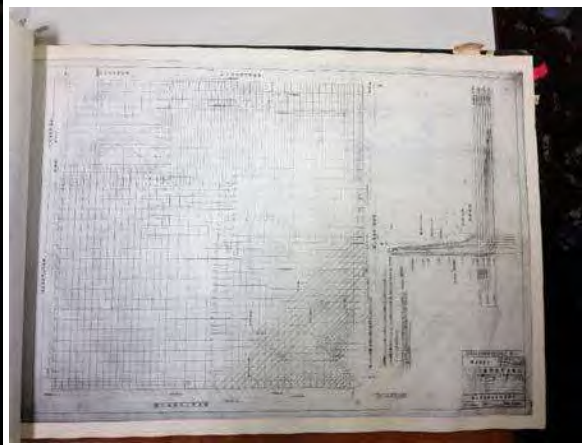
【見取り図・写真】



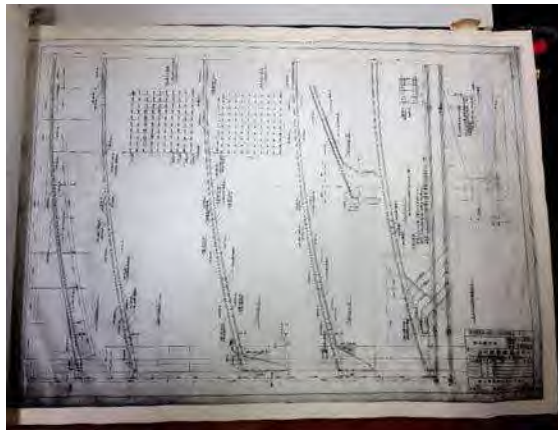
福島県教育会館 計算書 (原図)



岡山県庁舎 図面 (陽画焼き)



岡山県庁舎 図面 (陽画焼き)

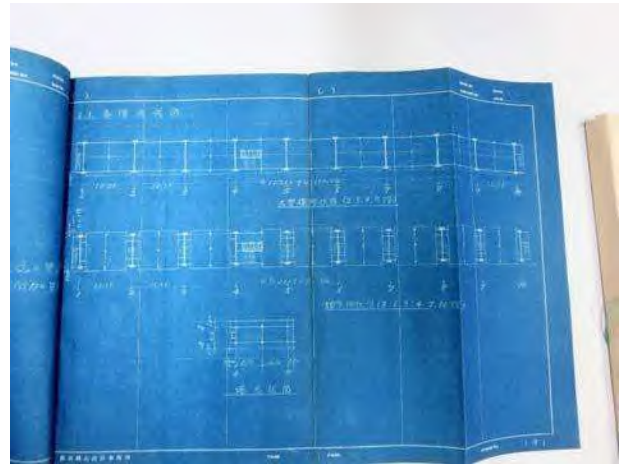


岡山県庁舎 図面 (陽画焼き)

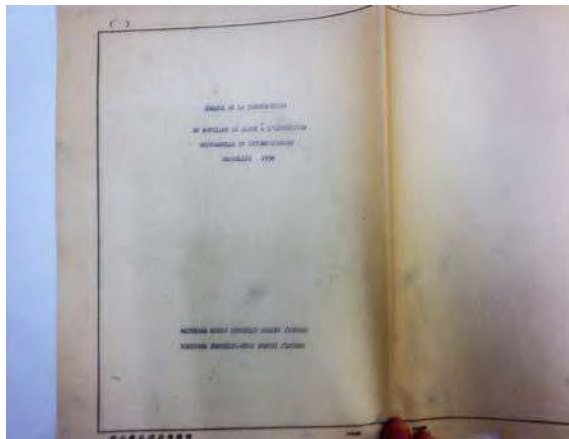
【見取り図・写真】



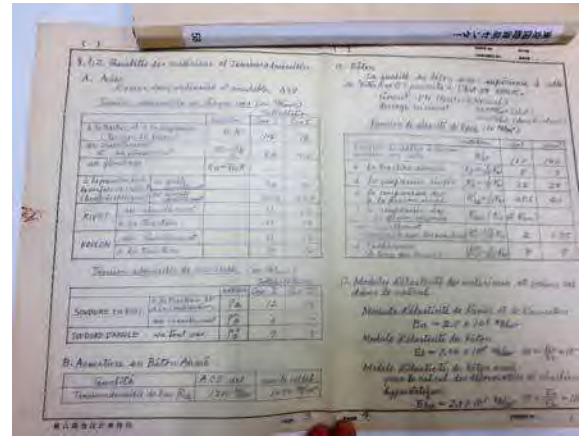
晴海高層アパート 計算書（青焼き）



晴海高層アパート 計算書（青焼き）



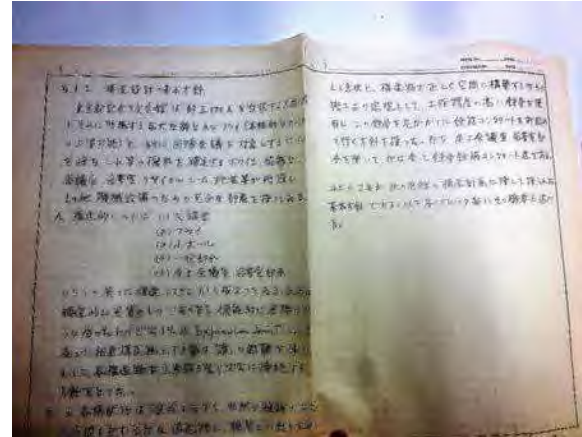
ブリュッセル万博日本館 計算書（原図）



ブリュッセル万博日本館 計算書（原図）

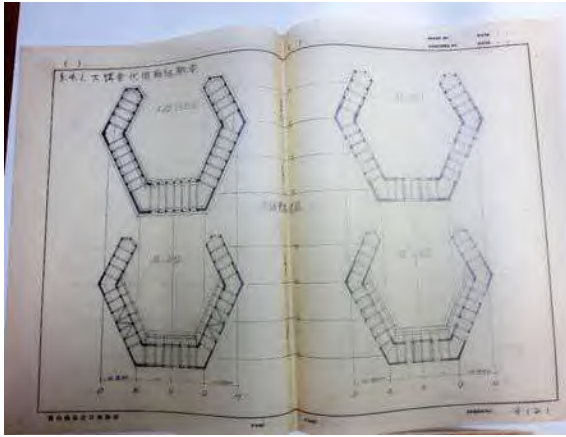


東京文化会館 計算書（原図）

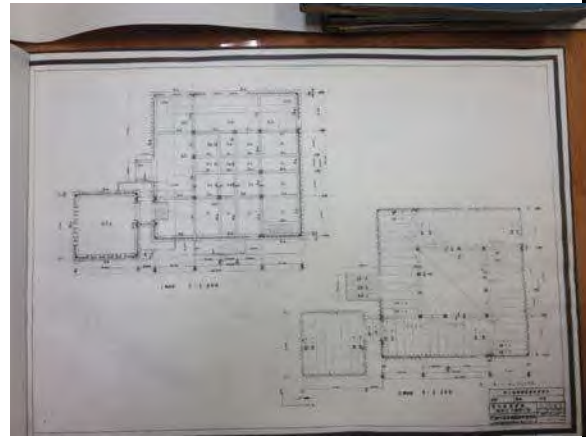


東京文化会館 計算書（原図）

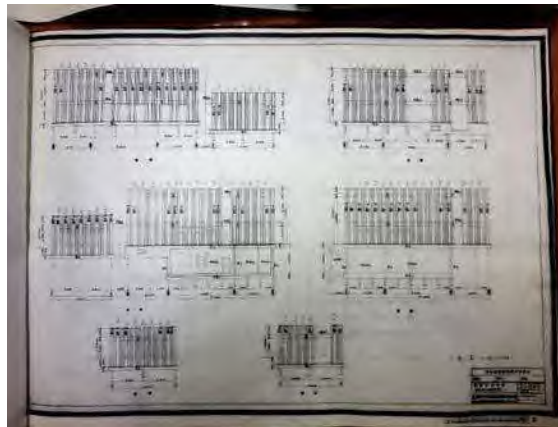
【見取り図・写真】



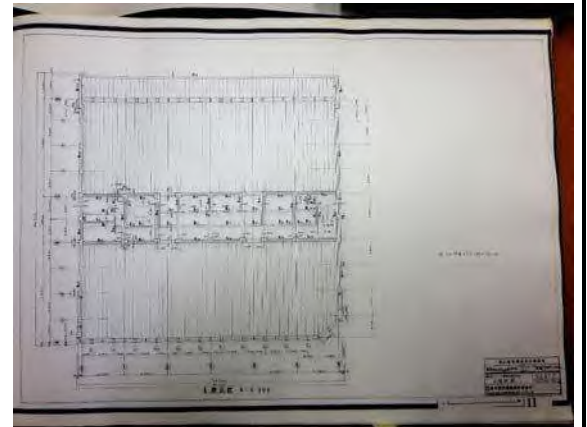
東京文化会館 計算書 (原図)



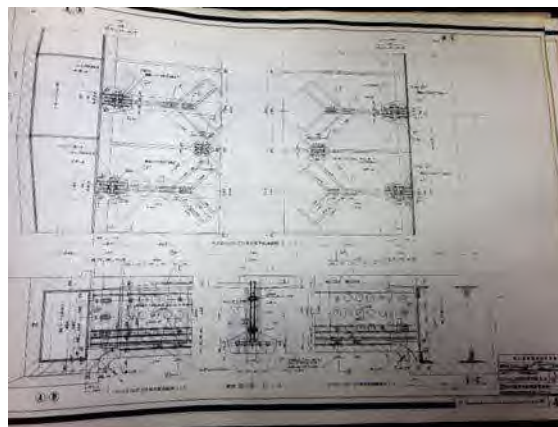
世田谷資料館 図面 (陽画焼き)



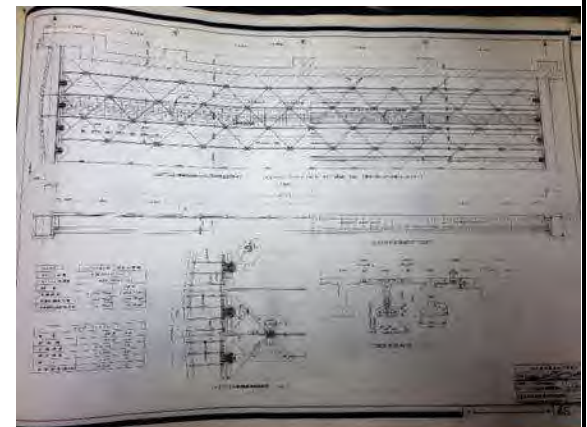
世田谷資料館 図面 (陽画焼き)



蛇の目ミシンビル 図面 (陽画焼き)



蛇の目ミシンビル 図面 (陽画焼き)



蛇の目ミシンビル 図面 (陽画焼き)

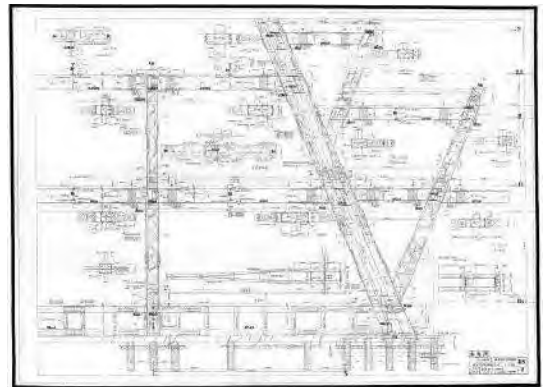
近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート

非公開 項目	番号	10-2	資料群名称	木村俊彦資料				調査年月日	平成30年3月31日		
								調査員	佐々木, 浜田		
✓	1	所有者									
	2	管理者	全上								
	3	資料所在地	東京都文京区湯島4-6-15 国立近現代建築資料館								
✓	4	管理責任者					連絡担当者				
	5	所有形態	寄贈	寄託	✓	当初から所蔵	その他				
	6	資料の来歴	2009年に木村俊彦氏が亡くなられた後、2010年頃から木村俊彦構造設計事務所の資料の整理は開始し、金沢工業大学のJIA-KITに寄贈する話が出て、資料の大半は新潟在住のOBが保管していたが、2013年8月にマンションの一室に保管場所を移動した。その後2015年3月法政大学で資料を保管後、2018年3月近現代建築資料館へ移動された。現在、資料館への寄贈に向けて準備中。								
✓	7	著作権保有者									
	8	資料概要 (総量・形態・ 管理方法)	総量：図面角筒128本、図面丸筒18本、段ボール約53箱、 形態：図面角筒：ほぼ全て105mm×105mm×800mm 内容は別紙参照 状態良好 図面丸筒：寸法はまちまち 内容は別紙参照 状況良好 段ボール：ほぼ455mm×380mm×310mm 内容は構造計算書、打合せ記録、掲載雑誌、写真アルバム等 本棚 木村俊彦氏の著作等 管理方法：図面はプロジェクト毎に管理、資料リスト、図面のデジタル化画像あり								
	9	資料作成年代									
	10	主な資料種別	☒ 図面（原図） ☐ 模型 ☒ 写真・動画 ☐ 図面デジタル	☒ 青焼き図面 ☒ 原稿 ☒ 個人情報 ☐ 計算書デジタル	☒ スケッチ等 ☒ 書籍・雑誌 ☐ ☐ 解析データ	☒ 構造計算書 ☒ 書類ファイル ☐ ☐ 実験データ	☐ 実験関係書類 ☐ ☐	☒ 工事関係書類 ☐ ☐			
	11	含まれる 主なプロジェクト	国立京都国際会館、千葉文化会館、北九州市立美術館、京都駅ビル、慶応大学藤沢キャンパス 他								
	12	廃棄した資料									
	13	公開の状況	公開	主な公開資料：							
			✓ 非公開	非公開の理由：公開準備中のため							
	14	展覧会の実績	展覧会名称：								
	15	出版物の制作	名称：「日本現代建築家シリーズ17 木村俊彦」新建築社、「構造設計とは」鹿島出版会、「構造の原理と解法(1)～(3)」彰国社、「木村俊彦の設計理念」鹿島出版会、「構造設計の初心-木村俊彦=初期の軌跡」								
	16	備考									
	17	調査結果公開の可否	可	不可	✓	部分的に可（公開不可の項目は、最左欄「公開の可否」欄にチェック）					
	18	(17が「不可」の場合) 外部からの問合せに対する所在情報提供の可否	可	不可							

近現代建築構造資料所蔵調査 調査シート



東京経済大学図書館 構造計算書



国立京都国際会館 構造図



電通大阪ビル 製品検査



プログラムソースコード



木村氏直筆の国立京都国際会館の風景画



テニスゲームプログラム

5. 構造資料のアーカイブ方法に関する提言

4章において説明したように、構造資料所蔵調査を行なった結果、一定以上の貴重な構造資料が存在していることが明らかになった。我々の未調査箇所にも、近現代建築に関わる構造資料が多数存在していると予想される。また、現在ご存命の構造家の方々に関する構造資料なども考えると、構造資料は膨大な量になるものと思われる。これら構造資料を全て保管することは不可能であり、そのうちから保管すべき資料を選別する必要にせまられる。この選別においてある一定の指針が存在すれば、今後の構造資料のアーカイブにとって有意義であろう。

このような背景から、本事業において、構造資料にはまずどういったものが存在するかを明らかにし、それらのアーカイブ方法について、本調査において収集された実際の構造資料を基に、ワーキンググループで議論を行なった。特に、現在最も資料整理の進んでいる木村俊彦関連資料を基に、構造資料を定義し、それらを細分化、細分化された項目ごとにアーカイブ指針案を策定することとした。

次項に、本WGにおける議論の結果、策定された構造資料のアーカイブ指針案を示す。

構造資料のアーカイブ指針案（木村資料を題材として）

凡例 ○：現物保存 △：可能なら現物保存，不可能ならデジタル保存 ×：可能ならデジタル保存

分類	細分類	判断	備考
構造図	原図	○	復元不可のため
	第二原図	×	原図ない場合 ○
	青焼き図面	×	原図ない場合 ○
	マイクロフィルム	×	原図ない場合 ○
	図面データ	×	原図ない場合 ○
	現場変更指示書	△	内容によって判断，一般的には×
スケッチ等	エスキス	○	復元不可のため
	通信記録	△	構造設計の姿勢によって判断
構造計算書	構造設計内容の説明書	○	設計者の意図が反映されているため
	構造計算書（手書き）	△	設計作品によって判断
	構造計算書（電算出力）	△	設計作品によって判断
	解析データ	×	
構造解析プログラム	自作ソースプログラム	○	出版物でまとまっていれば ×
	チェック用出力プログラム	×	
工事関係書類	現場監理写真	×	
	施工記録写真・動画	△	工法や設計作品によって判断
	スライド	×	
	ネガフィルム	×	
	現場打合せ資料	△	本人の直接指示などは ○
実験関係書類	土質試験	×	
	部材等の性能評価試験	△	工法や設計作品によって判断
	写真	×	
研究活動	ノート・メモ	○	
	発表論文	×	
原稿	直筆	○	復元不可のため
	校正用原稿	×	
	抜刷り	×	
書籍・雑誌	自著，作品掲載等	△	絶版は ○
	他著，参考図書等	×	貴重本は参考図書として ○
その他	事務所経営書類	×	
	対象者の個性を示すもの	○	絵画や随筆集，自作ゲームプログラムなど
	手紙	△	内容によって判断
	各種会議資料	△	内容によって判断

6. 来年度以降の調査方法の提案

来年度以降の調査方法についての議論の内容を以下の通りまとめる。

これまでの調査では、受賞歴などある一定の水準以上のものを列举した作品年表を作成し、その過程で浮かび上がってきた 11 名の構造家を調査対象としてきたが、今後は我が国における建築構造の現在に至るまでの通史を作成することを念頭におきながら、その過程でリストアップされる構造家や組織、他分野（土木分野など）のエンジニアなど、より広範囲に調査対象者を選定することとした。

その際には、本年度調査で整理された構造形式や構造技術の変遷を、より詳細に吟味していくことが重要であるため、その作業に注力することとした。構造力学や工学理論の発展、諸外国の動向、社会情勢などにも注意を向ける必要があるであろう。

また、来年度の 5 月に開催予定のシンポジウムでは、前述の 11 名の構造家たちの設計作品や設計思想がどのように現在につながっているかを各人のエピソードを踏まえながら紹介し、調査通史作成の全体的な機運醸成と各所からの意見聴取を行えるようなものとする事とした。

これらによって、新たな調査対象者をバランスよく選出し、その構造資料の所蔵調査を、これまでの方法と同様に行なっていくこととした。

参考として、来年度 5 月に開催予定のシンポジウムの企画書（案）を次項に示す。

日本の近代建築を支えた構造家たち ― 残された資料を通じて ―

日時：2019年5月18日（土）13:30～18:30（開場 13:00）

場所：法政大学市ヶ谷田町校舎 5 階マルチメディアホール（入場無料）

主催：日本構造家倶楽部，法政大学デザイン工学部建築学科

共催：文化庁国立近現代建築資料館

趣旨

我が国の近現代建築の発展を技術的側面から支えた構造設計手法や施工法などに関する構造資料は、これまでその概要が調査されたことやアーカイブ手法などについて議論されたことがなく、滅失や散逸の危機にさらされているものと推察されている。日本構造家倶楽部と法政大学は、文化庁国立近現代建築資料館の委託を受け、平成 29 年度よりこれら構造資料の概要把握調査を実施している。

本シンポジウムでは、その過程で得られた明治時代～1970 年代までの我が国の建築構造を牽引してきた 11 人の構造家の残された構造資料を通じて、彼らの設計作品や設計思想が現代にどのようなつながっているのか、現代の第一線の構造設計者たちが迫ることを目的としている。そして、このシンポジウムでの議論を通じて、日本の建築において構造家が果たした役割の大きさとその歴史認識の重要性について啓蒙していく。

プログラム

13:30～13:50 オープニング

趣旨説明：竹内徹

13:50～14:35 基調講演

「タイトル」：川口衛（法政大学名誉教授）

14:50～17:00 11 人の構造家と構造資料

佐野利器	:	多田脩二
内田祥三	:	未定
内藤多仲	:	伊藤潤一郎
武藤 清	:	浜田英明
坪井善勝	:	中田捷夫

（休憩 10 分）

坂静雄・棚橋諒	:	満田衛資
横山不学	:	金箱温春
松井源吾	:	新谷真人
松下富士夫	:	竹内徹
木村俊彦	:	佐々木睦朗

17:10～18:00 ディスカッション

モデレータ：難波和彦

構造がどう建築を変えてきたか？

7. 総括

H29～30 年度の 2 年にわたる調査の結果、抽出した 11 名の建築構造家について、人によるばらつきは大きいものの、一定以上の貴重な構造資料が存在していることが明らかになり、その概要が明らかになった。しかしながら調査の過程において既に破棄されてしまった図面や構造計算書があったことが明らかになり、また現在資料が保管されている団体の中には近く解散する見通しのものも複数存在することから、今後必要に応じ資料の保全を図ることが急務となっている。H31 年度以降の調査の実施に当たっては、以下の取り組みが必要となると考えられる。

- 1) 今回、現在最も資料整理の進んでいる木村俊彦関連資料等を基に、残すべき重要な構造資料とは何かを議論し、調査シートに反映させた。調査シートは平成 25 年度に実施された近現代建築資料所蔵状況調査に準ずるフォーマットとしたが、資料の種別として、構造図、構造計算書、実験装置などを追加し、整理方法などもデジタル化(pdf 化)などを含めて分類を行った。しかしながら今後集まる構造資料には構造計算書や構造図などをすべて含めると膨大な量となる場合もあることから、今回定めた方針を参考に、保管する資料の選別を進める必要がある。なお、木村俊彦資料は構造設計者としての資料が中心であり、大学研究者等についてはまた異なるカテゴリーが必要な可能性がある。
- 2) 年表の形でまとめている主要な近現代建築構造作品リストについては、より詳細なデータを加えて充実させるとともに、別途構造技術の系譜、構造家の系譜等の整理も基礎的ではあるが行った。今後各所からの意見を反映し、さらに現在の構造技術、構造家に繋がる整理が求められる。
- 3) この 2 年の活動を取りまとめ、H31 年 5 月に調査活動および調査結果を公表する関連シンポジウムを開催する。さらに、H31 年度はこの 2 年で選出されなかった構造家や、現在まだ存命している主要な構造家の作品・技術に関する資料調査および保存準備の検討を開始する。

付録 会合議事録

本報告書の作成にあたり，本年度計５回の会合を開催した。会合の目的，議題内容は下記のとおりである。

第１回 2018年7月24日

前年度事業の報告，本年度調査業務の仕様書の確認，本年度の事業実施体制や進め方などの協議のためのキックオフミーティング。

第２回 2018年10月6日

各委員からの調査対象者の資料所在調査中間報告ののち，調査シートの修正・評価，開催イベントの企画案，保存すべき構造資料の評価指針について議論を行う。

第３回 2018年12月13日

各委員からの調査対象者の資料所在調査報告ののち，構造家・構造形式・構造技術の系譜と年表，開催イベントの企画案，構造資料のアーカイブ指針，来年度以降の調査スケジュールと最終目標について議論を行う。

第４回 2019年1月29日

各委員からの調査対象者の資料所在調査報告ののち，構造家・構造形式・構造技術の系譜と年表，シンポジウム企画案，構造資料のアーカイブ指針，書籍出版と来年度展望について議論を行う。

第５回 2019年2月22日

報告書案を取りまとめ，読み合わせにより修正内容を確認し，最終報告書をまとめる。

次項以降に，これら会合の議事録を示す。

平成 30 年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第 1 回） 議事録

日 時：2018 年 7 月 24 日 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所：近現代建築資料館 2 階会議室

出席者：難波和彦，桐原武志，藤本貴子，藤井愛（国立近現代建築資料館）

新谷真人，伊藤潤一郎，金箱温春，佐々木睦朗，竹内徹，多田脩二，中田捷夫，満田衛資（日本構造家倶楽部），小澤雄樹（芝浦工業大学）

浜田英明，土肥篤志（記）（法政大学）

（※順不同，敬称略）

■打合せ概要

- ・ 前年度事業の結果報告
- ・ 今年度調査業務の仕様書の確認
- ・ 今年度の実施体制および業務計画について

■打合せ内容

1. 前回報告書の確認（浜田）

前回の報告書の内容について説明を行い，今年度への持ち送り事項などの確認をした。

2. 今年度調査業務仕様書の確認（桐原）

下記，今年度業務内容についての説明がされた。

- (1) 前年度の検討で調査対象となった構造家の資料調査
 - (2) 日本における構造家の系譜とその資料調査についての検討
 - (3) 代表的な建築物，構造解析方法，構法とその施工法のリストアップ
 - (4) 構造資料の内容と保存すべき構造資料の検討
 - (5) 構造資料についての理解を促進するためのイベントの開催
 - (6) 次年度以降の調査スケジュールの提案
- ・ (2)および(3)については，今後の資料収集や調査の際に，参考となるような，我が国の構造技術の変遷の全体像を俯瞰することができるようなガイドマップのようなものを作成することができればと思う。
(桐原)

3. 今年度調査対象者の担当割り当て（竹内）

今年度調査対象者(10 グループ)の資料調査担当の割り当てを行い，下記の通りとした。

- (1) 佐野利器 : 多田
- (2) 内田祥三 : 小澤
- (3) 内藤多仲 : 新谷，伊藤
- (4) 武藤清 : 浜田
- (5) 坪井善勝 : 中田，小堀，原田
- (6) 坂静雄・棚橋諒 : 満田
- (7) 横山不学 : 金箱，佐々木 木村俊彦独立前の横山事務所時代については佐々木

- (8) 松井源吾 : 新谷, 伊藤
- (9) 松下富士夫 : 竹内
- (10) 木村俊彦 : 佐々木, 浜田

- ・ 次回 10 月会合時に調査の中間報告を行なっていただきたい。(竹内)

4. 構造資料の所在調査について

調査方法や記録方法について議論を行った。

- ・ 現地調査において、調査シートへの記入と保管状況の写真撮影などを行なっていただき、報告書としてまとめて欲しい。(竹内)
- ・ 調査シートについては、たたき台を至急作成し、竹内主査および近現代建築資料館との協議後、ワーキンググループメンバーに8月上旬をめどに送付する。(浜田)
- ・ 調査を通じて気づいた調査シートの修正点などについて、次回会合時に持ち寄っていただきたい。(竹内)
- ・ 資料の公開条件についても配慮いただきたい。①内容全公開②リストのみ公開③すべて非公開など。(藤本)
- ・ 学生アルバイトを使用することも可能である。その際、法政大学側と契約を結ぶ必要があるので、その案内を後日送付する。(浜田)

5. 保存すべき構造資料の評価指針について

業務内容(4)について、今後具体的に保存すべき構造資料の評価指針の作成について議論を行った。

- ・ 次回 10 月会合において、現在近現代建築資料館にて保管されている木村資料を元に、具体的に保存資料の評価指針について議論してはどうかと考えている。(浜田)
- ・ 各自、現地調査において接した資料なども元にして、次回 10 月会合および 12 月会合において集中的に議論したい。(竹内)

6. 構造家および構造技術の系譜の作成について

構造家の系譜についてはたたき台を浜田が、構造技術の系譜についてたたき台を多田委員、浜田が作成することとし、次回会合時に集中的に議論することとした。

- ・ 網羅がテーマであるが、組織事務所やゼネコンが設計したものなどの、いわゆる構造家の顔が見えない建築はどう扱うのか。(中田)
- ・ まず個人の仕事に注目していけば、そのようなものも自然と浮かび上がるのではないか。今後はますます構造と構法は一体化されて個人に結びつけられなくなることは考えておく必要がある。(難波)
- ・ 構造家と構造形式の系譜の作成によって網羅的に拾っていきたい。また今回選出されなかった構造家についても将来の調査のきっかけとなるのではないか。(竹内)

7. イベントの開催について

仕様書の業務内容(5)のイベントの内容について下記の通り、議論が行われた。

- ・ ご存命の著名構造エンジニアの方のオーラルヒストリーの採取を兼ねて、一般向けの講演会を行う方法も考えられる。(浜田)
- ・ 一般的には、収集された資料について紹介するイベントと資料収集のために開催するイベントと 2 種類

ある。(桐原)

- ・ 資料を集めるために人を呼んでも思うように集まらないのではないかと？ケーススタディー，特殊解として，具体的なテーマに基づいて開催する方がよいのではないかと。(難波)
- ・ 調査内容と直接結びつかなくても構造資料収集の重要性の理解を促進するような位置づけでよい。(藤本)
- ・ 現役の主要な構造エンジニアと，調査対象者の業績紹介をセットでシリーズ化しながらシンポジウムを行い，参加者から資料保存情報を収集するのも良いかもしれない。(新谷)
- ・ 次回 10 月会合までに各自調査内容の進捗をみて企画案を持ち寄り，議論してはどうか。(難波)
- ・ 会場としては，法政大学市ヶ谷田町校舎のマルチメディアホール（定員 180 名）は使用可能である。1 月中で午後いっぱい使用できる日をリストアップしておく。(浜田) →1/11（金），12（土），17（木），24（木）が使用可能。
- ・ 来年 1 月開催を目標とし，次回 10 月会合にて企画内容を議論する。(竹内)

8. その他，今後について

- ・ この調査事業の全体としての想定期間と具体的な目標についてお聞きしたい。(新谷)
- ・ 事業の総期間としては，あと 1～2 年ほどを目途に決着をつけたいと考えているが，予算がつくかはまだわからない。(桐原)
- ・ 今回まとめたものを一般向けの出版物として作成するのも良いかもしれない。(竹内)

9. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は 10 月 6 日（土）13：00～ 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回のワーキングまでに各自調査を進める。
- ・ 次回の予定議題
 1. 中間調査報告
 2. 調査シートの修正・評価
 3. 1 月開催イベントの内容
 4. 保存すべき構造資料の評価指針
 5. 構造家および構造形式・構造技術の系譜

以上



平成 30 年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第 2 回） 議事録

日 時：2018 年 10 月 06 日 13 時 00 分～16 時 00 分

場 所：近現代建築資料館 2 階会議室

出席者：桐原武志，藤本貴子，藤井愛（国立近現代建築資料館），難波和彦（同運営委員）

新谷真人，伊藤潤一郎，金箱温春，小堀徹，佐々木睦朗，竹内徹，満田衛資（日本構造家倶楽部）

浜田英明，伊藤文明（記）（法政大学），稲永匠悟，佐野航（東京工業大学）

（※順不同，敬称略）

■打合せ概要

- ・ 中間調査報告
- ・ 調査シートの修正・評価
- ・ 開催イベントの企画案
- ・ 保存すべき構造資料の評価指針

■打合せ内容

0. 前回議事録の確認／浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，今年度への持ち送り事項，本会議の議題などの確認をした。

1. 調査対象者の中間調査報告／各委員

各委員より，調査対象者について資料調査の中間報告を行い，それぞれについて確認を行った。

（1）佐野利器：竹内（多田，欠席のため代理）

- ・ 役所関係の資料が多い。
- ・ 日本大学の土木系の名誉教授が資料を所持している可能性があるとの情報あり。（浜田）

（2）内田祥三：竹内（小澤，欠席のため代理）

- ・ 東京都公文書館に 9784 件資料有り。内，418 件は内田自身の著書。
 - ・ 資料の多くは論文，記事，図面，工事記録，写真等でマイクロフィルム化されている。
- 一部原本のみ

（3）内藤多仲：新谷，伊藤

- ・ 自邸，別邸に構造図の原図，構造計算書，耐震に関わる書物が多数存在，建物の状態は良好。
- ・ 管理者は山田眞教授（早稲田）→退職後，大学が引き継いで管理か確認の必要あり。
- ・ 資料は紙媒体が多いため，デジタル化する必要あり。

（4）武藤清：浜田

- ・ 東京大学の図書館，関係研究室には資料なし。→小堀鐸二研究所に移管済み。
 - ・ 三井不動産が霞ヶ関ビル関連資料（図面，計算書，建設委員会議事録，現場写真）を多数保管。
- 「武藤清先生を偲ぶ」を借りる。
- ・ ご親族が武藤清に関する資料の一箱を所持か。
 - ・ 武藤研出身者，岡田恒男先生が大型試験機の計算書，講義ノートを所持している可能性あり。

（5）坪井善勝：小堀

- ・ 東京大学の川口健一先生が川口衛先生に関連したもののみ資料（原図等）を所持。

- ・ご親族は不所持、清水建設は社内向けの資料のみを所持。

(6) 坂静雄・棚橋諒：満田

- ・京都大学に増田友也（建築家）の設計資料一式有り。
→桂キャンパス内の図書館にてアーカイブ化を予定しており、近い将来公開予定。
- ・坂記念館の特記仕様書、構造図等有り。
- ・京都工芸繊維大学名誉教授より、資料（京阪淀屋橋ビル、四天王寺五重塔）を譲渡される。
- ・京都大学のアーカイブから離れて調査する予定。

(7) 横山不学：金箱、佐々木

- ・横山建築構造設計事務所が図面、構造計算書
→図面はマイクロフィルム、計算書は原図で保存。
- ・自身が設計したのは、初期のみ。8点ほどが見つかる。
- ・日本総合銀行に関しては図面、溶接に関するメモ有り。
→当時の雑誌から設計思想を読み取れる可能性あり。

(8) 松井源吾：新谷、伊藤

- ・O.R.S 事務所が構造図、計算の原本を所持。
- ・栗本鉄工所へ行き、資料を調査選別。
→必要な資料は早めに引き取る必要有り。
- ・ビーファームがデジタル資料を所持（元々はO.R.S 事務所が所有していたもの）。

(9) 松下富士夫：竹内

- ・巴コーポレーションに図面、構造計算書等有り。→八戸火力発電所貯炭場、栃木県体育館等。
- ・シェル理論メモ、八戸現場写真、講演会のスライド、栃木県体育館の屋根伏せ図等、資料は充実。
- ・野沢一郎記念体育館にダイヤモンドトラス特許記念盾、単層ドーム模型等有り。

(10) 木村俊彦：佐々木、浜田

- ・図面、構造計算書、写真、特にプログラムのソースが多数。（近現代建築資料館に保存済み）
- ・横山建築事務所時代のものは同事務所が計算書（マイクロフィルム）、図面（原図）を所持。
→国際文化会館、福島県教育会館

- ・次回以降、資料がなかったという事実も経緯を含めて資料調査シートに記入していただきたい。（桐原）

2. 調査シートの修正・評価（浜田）

今回使用した構造資料調査シートについて、追加・変更すべき項目に関して議論を行い、下記の通りとした。

- ・調査シートの「10. 主な調査種別」にマイクロフィルムを追加する。
- ・調査シート項目 17 と 18、調査結果公開の可否に関して、その内容と意味するところを確認した。
 - (1) 調査シート項目 17 と 18 は、調査シート完成後に資料管理責任者等に記入していただく欄であること。
 - (2) 17 が「可」の場合、調査シートの内容は全て HP 等などで公開される。「不可」の場合、一切公開されないが、非公開の報告書にはその内容は全て記載される。「部分的に可」の場合は、その部分が明示できるように、調査シートを修正する。
 - (3) 調査シートを完成させた上で、所有者又は管理者に公開の可否の確認をとること。
- ・調査対象者の資料に関して、本会議の中間報告順で調査シート左上に番号を付すこととした。

(例：松井源吾に関する資料の場合→8-1,8-2 等)

3. イベントの企画案について（近現代建築資料館）

イベントの内容、開催時期、方法について議論を行った。

- ・ イベントの内容について、

A 案：構造調査・分析の中間報告会

→各調査担当者からの調査内容報告、技術の系譜・構造家の系譜の紹介、日本の構造資料の状況等

B 案：オーラルヒストリーの収録

→「構造と感性」記載のアイディアの原点をお話していただく。

C 案：川口先生による講演会

→質問形式で進行し、オーラルヒストリーとして近現代建築資料館の保存資料とする。

D 案：建築見学ツアー

→技術の系譜で紹介された建物の内、構造の流れが明確な建物の見学

- ・ 川口先生の講演会と構造資料の報告会（A 案+C 案）を同時に行うのがいいのではないかと。（竹内）
- ・ 開催時期について、構造資料調査・分析と報告会の企画を年度内に行い、報告会自体は来年度の 5 月に法政大学と共催するのはどうか。（藤本）→可能である。（浜田）
- ・ 中間報告会は構造に関する通史を何らかの形でまとめるのがよいのではないかと。（難波）
→構造技術史や系譜における調査対象者の立ち位置、人物像、思想の紹介を流れがわかるように各担当者にやっていただくのはどうか。（竹内）

4. 構造家・構造形式・構造技術の系譜、年表について（浜田）

構造家・構造形式・構造技術の系譜、年表の作成方法、テーマ、あり方について議論を行い、引き続いて次回会合時に集中的に議論することとした。

明治から 100 年くらいのスパンで今回の構造資料調査対象者を主軸として年表を作成し、全体像を把握しようと考えている。（浜田）→最終的にはご存命の構造家に繋げる形でまとめる予定。

- ・ 師弟関係で分類すると、大学時代や社会人時代等、重複して関係が繋がるため立体的に系譜を作成する必要がある。（浜田）
- ・ 空間構造や耐震工学などの分野別に系譜を作成するのはどうか。（竹内）
- ・ 研究テーマや設計作品を軸とした切り口も考えられるのではないかと。（新谷）
- ・ 一般の方に伝えるには、その時期においてが脚光を浴びた理由まで掘り下げる必要がある。（難波）
- ・ 本調査及び報告会が一過性のものとなるのを防ぐため、各担当者または全員で調査内容について何らかの形で書籍化するのはどうか。（新谷）

5. 構造資料のアーカイブ指針について（近現代建築資料館）

近現代建築資料館に保管済みの木村俊彦の構造資料を実際に参考しながら、具体的に保存すべき構造資料の選別、議論を行った。

- ・ 当時の新技術・新工法に関する資料は保存する価値があるのではないかと。（桐原）
- ・ 直接関連はなくても、逸話と併せた資料があれば保存するのも面白いかもしれない。（竹内）
→手書きの原稿、やりとりの記録等は保存すべきではないかと。
- ・ 当時の構造計算書は現在のもとの仕様・量が大きく違うのでマスターピースとして残せば面白いかもしれない。

しれない。(新谷)

- ・ 地盤調査報告書や実験報告書など、調査対象者が作成したものでないものは保存しなくても良いだろう。

6. 建築雑誌の原稿確認 (竹内)

建築雑誌 2018 年 12 月号特集「建築のレコード・マネジメント (仮)」に掲載されるコラムの内容について確認した。

7. 本ワーキンググループの最終目標について (近現代建築資料館)

本ワーキンググループにおける最終目標について議論を行い、引き続いて次回会合時に議論することとした。

- ・ 最終成果物として書籍を出版するにあたって近現代建築資料館として事業は来年度も継続可能なのか確認したい。(新谷)
→法政大学に委託事業としての出版は可能。文化庁から出版する場合は予算、著作権等の確認事項がいくつかある。(藤本)
- ・ 各調査の担当者が構造資料を紐解きつつ、考察を織り交ぜながら文書化すれば個性が出て面白いのではないか。(竹内, 新谷)
→調査報告書とは別に、構造関連の系譜を含めて出版物としてまとめるのは近現代建築資料館としても喜ばしい。(藤本)

8. その他

- ・ 来年以降も本ワーキンググループが継続するようであれば、川口健一先生に参加を依頼したい。(小堀)
- ・ 来年 5 月連休明け、土曜日あたりに法政大学マルチメディアホールが使用可能な日を確認→浜田
- ・ 川口衛先生のご予定の確認→桐原

9. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は 12 月 13 日 (木) 13:00～ 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回の会議までに、引き続き各自調査を進める。
- ・ 次回の予定議題
 1. 中間調査報告および調査シートについて
 2. 保存すべき構造資料のアーカイブ指針について
 3. 構造家および構造形式・構造技術の系譜の作成について
 4. 来年度 5 月開催イベントの内容
 5. 報告書の骨子について
 6. 次年度以降の調査内容およびスケジュールの提案

以上



平成 30 年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第 3 回） 議事録

日 時：2018 年 12 月 13 日 13 時 00 分～16 時 00 分

場 所：近現代建築資料館 2 階会議室

出席者：桐原武志，藤本貴子，藤井愛（国立近現代建築資料館），難波和彦（同運営委員）

新谷真人，伊藤潤一郎，金箱温春，小堀徹，佐々木睦朗，竹内徹，多田脩二，満田衛資（日本構造家
倶楽部），川口健一（東京大学）

浜田英明，伊藤文明（記）（法政大学）

（※順不同，敬称略）

■打合せ概要

- ・ 中間調査報告
- ・ 調査シートの修正・評価
- ・ 開催イベントの企画案
- ・ 保存すべき構造資料の評価指針

■打合せ内容

0. 前回議事録の確認／浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，今年度への持ち送り事項，本会議の議題などの確認をした。難波委員の所属，川口委員の発言について訂正をした。

1. 調査対象者の中間調査報告／各委員

各委員より，調査対象者について資料調査の中間報告を行い，それぞれについて確認を行った。

(1) 佐野利器 : 多田

- ・ 日本大学の土木系の伊藤先生が資料を所持している可能性が高い。
→連絡を試みるも，体調が思わしくなく，連絡待ち。
- ・ 清水建設や東京大学に確認したが，資料はないとのこと。

(2) 内田祥三 : 竹内（小澤，欠席より代理）

- ・ 東京都公文書館に 9784 件資料有り。内，418 件は内田自身の著書。
- ・ 東洋大学の内田祥士先生が資料を所持している可能性有り。
- ・ 岸田省吾先生も資料を所持している可能性有り。

(3) 内藤多仲 : 新谷，伊藤

- ・ 第 2 回会議で報告したものが資料の全てだと思われる。

(4) 武藤清 : 浜田

- ・ 資料があると思われる場所は，株式会社小堀鐸二研究所，三井不動産（霞ヶ関ビルに関して），ご親族の方（プライベートな資料）の 3 ヲ所。
- ・ 今回は小堀小堀鐸二研究所にて段ボール 17 箱程の資料を確認した。
→内容は，設計図書というよりもご本人の論文，講演，書籍などの原稿，実験の概要書，設計の概要図書が主体。原子力発電所・超高層ビル関係の耐震設計資料も豊富にあった。
→公表不可と思われるが，GHQ の接收を免れた原爆鑑定資料や耐爆実験資料等も有り。

→資料の全てはナンバリング，リスト化済みで静岡の倉庫会社にて保管済み。

- ・三井不動産に資料自体あるが，所有は山下設計，鹿島建設のもの。
- 50周年記念イベントが終了し、落ち着いたところで調査に着手
- ・ご親族がお持ちのものに関してはご連絡待ち。

(5) 坪井善勝 : 中田，小堀，原田

- ・千葉大学の豊川斎赫准教授が丹下先生の資料を収集している際に，東京大学の倉庫にて丹下資料の一部から坪井先生の資料を確認し，現在は川口健一先生が保管。
- 非常に良い状態で図面が原図を保管されており，リスト化・デジタル化済み。
- ・清水建設には，PR用の映像として代々木国立競技場・第1体育館他と神慈秀明会神殿及び教祖殿の2つあるのみ。
- 神慈秀明会神殿及び教祖殿に関しては，工事記録があり，中には打ち合わせをしている様子も映されていた。
- ・坪井先生のノートは半谷研究室を経て，ダンボール3、4箱程が川口健一研究室に保管。
- ・論文に関しては重要と思われるものを20部程保管。
- ・映像資料に関しては，代々木国立競技場、マリアカテドラルに加え，原子力炉容器モデルの公開実験の映像を保管しており，デジタル化済み。
- ・千葉県習志野市に米軍基地があった頃，騒音に悩まされている住人の相談に対して，当時の大学院生らとともに振動の測定を行い，陳情書作成に協力したエピソードがある。
- 資料として，地元の新聞記事がある可能性有り。
- ・工事記録としての資料はゼネコンに残っている可能性有り。
- ・お祭り広場の関連資料としては模型のみ，川口健一研究室に保管。
- 大屋根に関して，図面等は見た記憶があるが，現在の所在は不明。(川口)

(6) 坂静雄・棚橋諒：満田

- ・新規に調査したものは第3回資料P.43から。
- ・関西大学にて同大学西澤英知教授の確認の下，調査を行った。
- 赤字は明確に解答を頂けなかった部分。
- ・京都タワーに関して，頂部スケッチ，平面図，打ち合わせメモ，コラム記事「京都タワーの構造(棚橋諒+金多潔)」や京阪淀橋ビル竣工時パンフレット等の資料有り。
- ・経緯は不明だが，坂研究室関連のPCや耐震壁の実験写真が載るアルバムを西澤教授が所持。
- ・京都大学にて同大学の西山峰弘の立ち合いの下，資料を確認予定。
- 資料としては南淡町庁舎や坂記念館、RC系・PC系の研究資料類が多い。

(7) 横山不学 : 金箱，佐々木

- ・横山建築構造設計事務所が図面，構造計算書
- 図面はマイクロフィルム，計算書は原図で保存。
- ・自身が大きく関わったのは，日本相互銀行本店，東京海上ビルディング，図書印刷原町工場，国際貿易センター1号館，山梨文化会館
- ・三井信託銀行大阪南支店に関しては，図面がなく，計算書が有り。
- ・国際貿易センター1号店に関しては，図面と計算書有り。
- ・東京海上ビルディングに関しては，図面のみ有り。
- コラム記事にご本人の書かれたもの有り。

- ・打ち合わせの際に自らが執った議事録がいくつか有り。
 - 技術的なメモというよりは、予算やスケジュールに関するものが多い。
 - 構造設計・計画へのアプローチ、トライ&エラー等の軌跡や伝記的な部分と合わせると面白い。
- 残す価値があるのではないか。(竹内)

(8) 松井源吾 : 新谷, 伊藤

- ・O. R. S. に保存されていた松井源吾に関する資料の多くが栗本鐵工所に移動された。2019/1 月までは栗本鐵工所東京支店に保管され、その後は栗本鐵工所 古賀工場に移動される予定。
- ・栗本鐵工所へ行き、資料を調査選別。
 - 図面・計算書・関係資料をダンボール 10 箱程度保有。20 枚程度写真の原版が有りパネルにまとめられている。
 - プロジェクトごとにファイリングされており、プロジェクトごとの資料がどの程度あるか明確である。
- ・万博に関しては、エキスポタワーの計算書、部分的な図面はあるが、構造図は無し。

(9) 松下富士夫 : 竹内

- ・ご遺族に連絡するも、資料はないとのこと。
- ・第2回会議で報告したものが資料の全てだと思われる。

(10) 木村俊彦 : 金箱, 佐々木, 浜田

- ・横山建築事務所時代のものは同事務所が計算書（マイクロフィルム）、図面（原図）を所持。
 - 国際文化会館，福島県教育会館
- ・計算書の中身は数式が多く書かれていた。
- ・ブリュッセル万博日本館の計算書は、ご本人がフランス語で書かれたもの。
- ・世田谷資料館のプレキャストの接合図（陽画焼き）が有り。

- ・調査した資料の所在を把握していても、その後の所在が不明になる可能性があるのではないか。(小堀)
 - 調査報告書を調査先に配布し、資料の所在に動きがあった際には連絡が頂けるように周知する。(難波)

2. 調査シートの修正・評価（浜田）

第2回会議にてご指摘して頂いた部分について修正を加え、その説明を行い、今回使用した構造資料調査シートについて、追加・変更すべき項目に関して議論を行い、下記の通りとした。

- ・調査対象者の資料に関して、本会議の中間報告順で調査シート左上に番号を記入し、調査資料の差別化を図る。(例：松井源吾に関する資料の場合→8-1,8-2 等)
- ・資料群名称は資料調査対象者とカッコ付きで管理場所を書くこととする。
- ・調査資料シートは管理場所ごとに記入して頂きたい。(浜田)
 - 木村俊彦先生の資料に関して、横山事務所時代の資料を 10-1、独立後の資料を 10-2 とする。

3. イベントの内容について（近現代建築資料館）

イベントの内容、開催時期について議論を行った。

イベントの内容について：

- ・川口衛先生による講演会の後、本ワーキングの調査対象者 10 人に関して立ち位置や人物像、思想がわかるように、各担当者に紹介、報告をしていただく。

- ・講演を50分、報告会 1人15分程度（10人で2時間）休憩等含めて4時間程度を予定。

開催時期について：

- ・法政大学のマルチメディアホールは仮予約のみで、来年度以降に本予約する予定。（浜田）
- ・川口衛先生のご予定に関してはご体調次第とのこと。
→5月18日（土）を予定。

4. 構造家・構造形式・構造技術の系譜、年表について（浜田）

「近現代建築構造資料調査のための建築構造作品年表／系譜」を仮題とした年表のたたき台を基に、本ワーキンググループにおける調査対象者の位置づけ、建築作品、構造形式、構造技術、エポック等のつながりについての議論と、構造家の系譜（JA 95号、2014）を例に、現在の構造家への繋がりが明確となる構造家の系譜の作成方法、テーマ、あり方について議論を行った。

年表のたたき台について：

- ・年表の横軸に関して、右詰まりになっているため、ログスケールの表現するのが良いのではないかと。（難波、竹内）
- ・大きな出来事（関東大震災、万博等）は目立つように書いた方が良いのではないかと。（難波）
- ・エポックメイキングに関して、明確な年数や期間を表記した方が良いのではないかと。（竹内）
- ・「日本建築家山脈」村松貞二郎 著に倣って日本構造家山脈のようなものはどうか。（難波）

構造家の系譜について：

- ・現在を歴史の終着点とするような表現ではなく、そこから不確定に紡がれていくという意味で、時間的・人間関係的に開いていくように、現在から未来にあたる部分に余白を持たせるべき。（難波）
→「建築 2000」チャールズ・ジェンクス 著を参考にすると良いのではないかと。
- ・人間関係を線で紡ぐのではなく、帯でカテゴライズすると良いのではないかと。
- ・公式に人間関係を表すのは難しいため、プレゼンテーション時に前置きとして、発表者と調査対象者との関係を明示するのはどうか。（金箱）
→調査対象者に関して、選者がいて、ある基準を基にして作成したということを明確にするのは重要である。（川口）

5. 構造資料のアーカイブ指針について（浜田）

構造資料のアーカイブ指針を提言するにあたって、指針の具体的な内容、基準、方針についての議論を行い、引き続いて次回会合時に議論することとした。

- ・今後、二度と復原ができなくなるもの、調査対象者の人柄がわかるようなノート、スケッチ手書きの図面や計算書は残すべきではないかと。（竹内）
- ・デジタルデータには価値を見出し辛い。（竹内）
→CADの初期の頃（プロッターで出力していた頃）のものであれば、保存すべきではないかと。（桐原）
- ・5月予定の報告会における、発表者の応答も無形のアーカイブではないかと。（竹内）
- ・木村俊彦先生の資料を大枠で分類し、保存すべき資料のたたき台を作って頂きたい。（竹内→浜田）
- ・調査対象者の成果やその後の設計や学問に影響を与えたことが分かるような資料や関連するものも保存すべきではないかと。（新谷）
- ・保存すべき資料の選別は保存する側のキャパシティを把握してから始めるべきではないかと。（川口）
→キャパシティの優先順位は低く、資料の内容と数を把握しつつ、アーカイブ指針を作る。（難波）

→オリジナルはデジタル化をして情報として残すのは大前提としている。その上で、オリジナルとしての価値があるものに対して、優先順位をつけて選別する。(竹内)

→資料館として、キャパシティの問題はあるが、その後の管理者による整理の問題もあるため、まず選別するための基準を作って頂きたい。(桐原)

6. 成果品作成に向けての作業について（浜田）

今年度2月末における報告書に関して、目次案を基に、その内容について議論を行った。

- ・ 成果物として、去年の報告書、年表を含むのかどうか。(竹内)
→ブラッシュした上で、包含する形で含めるべき。(桐原)
- ・ 4番が調査内容であることに對し、3番がその結果について記述なので順番が逆ではないか。(新谷)
→作業としては確かにそうだが、本として成果物にするには結論（仮説）を先に明示し、それを補足する形で書くのが良い。(難波)

7. 来年度以降の調査スケジュールおよび最終目標について（近現代建築資料館）

本ワーキンググループにおける最終目標および来年度作業案について議論を行い、引き続いて次回会合時に議論することとした。

出版物について：

- ・ 税金を利用して作成した最終成果物をそのまま販売するのは難しい。(藤本)
→最終成果物としての書籍を出版社経由で出版する場合は以下の2つの方法がある。
 - (1) 中身をそのままに出版する。
→出版社から著作権料として売り上げの3%を文化庁に納める必要がある。
 - (2) 中身を利用し、編集して出版する。
→利用申請をして無料で提供可能。
- ・ 報告書としての全容をデジタルデータとして無料公開するのは前提として、出版するには次年度以降の調査の有無によって変わるのではないかと。(竹内)
→今年度で終了ならば、大幅な編集を加えた上で出版し、次年度以降も調査も含めるのであれば、報告書の時点で出版に向けた執筆を行い、中身を揃えつつ、来年度予算の検討をする。
- ・ 報告書という形で編集、デザインを終えた状態で出版すると、委託費を多くとる必要がある。(藤本)
→出版社に営利的なメリットがないため、厳しいのではないかと。(竹内)
- ・ 書籍として出版する場合は、近現代建築資料館が監修として本ワーキンググループの名前を載せられれば、出版社も利益を見込めるものとして、快諾していただけるのではないかと。(竹内)
→学生アルバイトにイラスト等の図版作成をやってもらうのはどうか。

今年度調査対象者以外の調査について：

- ・ 調査の価値があると意見される方に関しては、リストアップしてみるのはいかがでしょうか。(難波)
- ・ 戦前の功労者の方は調べてみると価値があるものがでてくるのではないかと。(川口)

8. その他

- ・ 次回の中間調査報告書に担当者による見解を1枚程度付随していただけるとありがたい。(桐原)
→顔写真や経歴・業績のリスト等に加える形であると良い。(竹内)
→次々回以降、フォーマットを作成し、それを基に各委員に書いていただく。(竹内→浜田)

- ・ 来年度予算については、出版等の作業を見込んで上限の100万円を予定。(藤本)

9. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は1月29日(火) 10:00～ 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次々回は2月22日(金) 13:30～ 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回までの課題
 1. 成果物に向けた調査シートの修正(各委員)
 2. 構造家の系譜, アーカイブ指針のたたき台作成(竹内, 浜田)
- ・ 次回の予定議題
 1. 中間調査報告
 2. 保存すべき構造資料の評価指針
 3. 構造家および構造形式・構造技術の系譜

以上



平成 30 年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第 4 回） 議事録

日 時：2019 年 1 月 29 日 10 時 00 分～14 時 00 分

場 所：近現代建築資料館 2 階会議室

出席者：桐原武志，藤井愛（国立近現代建築資料館），難波和彦（同運営委員）
新谷真人，佐々木睦朗，竹内徹，多田脩二，満田衛資（日本構造家倶楽部）
原田公明，安藤顕祐（日建設計）
浜田英明，土肥篤志（記）（法政大学）

（※順不同，敬称略）

■打合せ概要

- ・ 調査シートの現状確認
- ・ アーカイブ指針について
- ・ 5 月に開催されるシンポジウムの企画内容について

■打合せ内容

0. 前回議事録の確認／浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，本会議の議題などの確認をした。小堀氏の後任として坪井資料の整理を担当していただく原田氏，安藤氏に自己紹介していただいた。

1. 調査対象者の調査報告／各委員

各委員より，調査対象者について資料調査の報告を行い，それぞれについて確認を行った。

- (1) 佐野利器 : 多田
 - ・ 紹介された筑波大学に確認したが資料はなかった。四方八方にあたったが資料はなかった。
 - どこに連絡をとった結果見つからなかったのかを記録として残してほしい。（竹内）
- (2) 内田祥三 : 竹内（小澤，欠席より代理）
 - ・ 東京都公文書館に資料あり。内田自身の著書や図面などもあり，アーカイブが完了している状態である。
- (3) 内藤多仲 : 新谷
 - ・ 第 3 回会議で報告したものでほとんど調査は完了している。
- (4) 武藤清 : 浜田
 - ・ 調査対象者の経歴や，昨年度調査の概要，本年度調査の概要についてのフォーマットを作成した。
 - ・ 本年度報告書としては完成済みである。
- (5) 坪井善勝 : 原田
 - ・ 川口，中田，小堀と共に調査を行い調査シートは提出済み。
 - ・ フォーマットに合わせて調整は必要である。
 - ・ 親族の方に中田経由で連絡したが返事は来ていない。親族への連絡であるため無理な催促は難しい。
- (6) 坂静雄・棚橋諒 : 満田
 - ・ 経歴紹介文はこれから作成する。

- ・棚橋先生の長男が京都大学の追悼会に参加しているという情報を得て、十日前に手紙にて連絡したが返事は来ていない。

- ・京都大学の図書館を訪問した。p 29 に桂キャンパス図書館, p 31 に吉田キャンパス図書館の資料が記載してある。p 32 に坂先生の資料が記載してある。

- ・出版物に関してはどうアーカイブしていくのか？

→絶版など貴重本などは場合によっては必要ではないだろうか。(桐原)

- ・建築学専攻で保管されている整理中の資料がある。

→いずれ公開するという情報にとどめておいてほしい。回覧資料としては問題ないが公開資料にはできない。整理中なので問い合わせ等があると煩雑なのではないか。

- ・明確に公開不可とわかるようなフォーマットの仕組みが必要である。

(7) 横山不学 : 竹内(金箱, 欠席より代理)

- ・金箱事務所所蔵の横山資料に関する調査シートが新たに追加された。

- ・本年度報告書としては完成済みである。

- ・横山事務所時代の木村資料の棲み分けはどうか。

→横山事務所時代の木村資料は木村資料としてまとめることとする。(浜田)

(8) 松井源吾 : 新谷

- ・坂茂事務所所蔵の松井資料に関する調査シートが新たに追加された。

- ・本年度報告書としてはほぼ完成に近い状態である。

(9) 松下富士夫 : 竹内

- ・プロフィールについて巴組に確認いただいている。

- ・親族にコンタクトをとり、自宅を搜索してもらったが資料は見つからなかった。

→親族の方は資料をお持ちでないことを情報として記載しておいてほしい。(桐原)

(10) 木村俊彦 : 浜田

- ・経歴紹介ページ未作成。

- ・独立後の資料に関しては近現代建築資料館のものをうい、横山事務所時代の資料の調査シートについては金箱氏から提供されたものをういて、最終報告書の調査シートをまとめる。

- ・各自、最終版の調査シートをまとめて、提出することとした。

2. 構造家・構造形式・構造技術の年表・系譜について(浜田)

構造家・構造形式・構造技術の年表・系譜について以下の通り議論を行った。

系譜年表について

- ・作品年表に関しては昨年度に作成した年表を使用することとする。(浜田)

- ・明治以降から 60 年代までの作品を作品年表から抽出し構造形式別に並べ関連が分かるようにしたものを前回、構造技術の系譜年表として作成した。前回作成したものをどのように現代につなげるか、現在作業中である。(浜田)

- ・明治期や戦前は作成済みの資料を用いればよいが、それ以降は J S C A 出版の年表から抜粋し現代までつなげていくのが良いのではないか。(竹内)

- ・図中に多少の説明文は必要なのではないか。(浜田)

→その作業は時間がかかるので来年度の作業内容としたい。(竹内)

- ・初期はまとめやすいが現代に近づくにつれてハイブリッド化が進み難くなる。(多田)
- カテゴリーが混ざり合い混沌とする様子を年表にすればよい。(難波)
- ・帯を少しずつ重ねていきそれが縮んだり膨らんだりする様子を表現できれば良さそうである。(竹内)
- ・J S C Aの資料を使用することについては了解を得た。(桐原)
- ・現代に近づき内容があふれ、取捨選択をする際の評価基準を説明できるようにした方がよいのではないか。(佐々木)
- 受賞暦などの明確な基準によって、取捨選択してしまうのも一つの手である。(竹内)

3. 構造資料のアーカイブ指針について (浜田)

木村資料を題材とし、今までの議論を総合して構造資料のアーカイブ指針案のたたき台を作成した。この内容を確認しながら議論を行った。

(1) 構造図

- ・構造図については原図のみをアーカイブすることとする。(浜田)
- マイクロフィルムは保存に際して費用と手間がかかり捨ててしまうのはもったいないので。(竹内)
- ビネガーシンドロームによりマイクロフィルムは劣化してしまい、保存が難しい。(桐原)
- ・備考などを設けて、後々第三者が作業する際に機械的な作業となってしまうようにする必要がある。(竹内)

(2) スケッチ等

- ・スケッチについては基本的にアーカイブすべきであろう。(浜田)
- ・通信記録は手紙などにあたり、膨大な量になるため内容によって判断する必要がある。手書きかどうか、個人の姿勢が分かるもの等で判断するのがよいのではないか。(竹内)

(3) 構造計算書

- ・木村資料の場合、構造計算書には、概要説明書、計算書、解析データ出力などがある。(浜田)
- ・概要説明書に関しては、個人の設計思想が垣間見えるためアーカイブすべきだが、計算書や電算出力は内容によって判断すべきであろう。(浜田)
- ・解析データ出力は量が膨大であるため基本的には保存しない方針でよいだろう。(浜田)

(4) プログラムソースコード

- ・出版物として公開されたものに関しては保存しないが、公開されていないものについて内容によって保存するかを決める。(浜田)

(5) 工事関係資料

- ・施工記録写真や動画は工法や作品によって保存する方針で良いのではないか。(浜田)
- ・ご本人直接指示などによる打合せ資料に関してはアーカイブする必要がある可能性もあるのでは。(竹内)

(6) 原稿

- ・直筆のものは保存する。(浜田)

(7) 書籍・雑誌

- ・他著でも絶版になった書籍など貴重本に関しては保存でよいのではないか。(竹内)
- ・他者の書籍であっても重要性によっては参考図書として保管する。(桐原)

(8) その他

- ・木村資料の場合の自作ゲームプログラムなど、個人の特徴を表すものはアーカイブしてはどうか。(竹内)
- ・各種会議資料なども内容により保存すべきだろう。(竹内)

- ・プログラムの際の定式化などの理論や研究活動は残さないのか（佐々木）
- 「メモ」「理論スタディ」「ノート」などを追加する。（浜田）
- ・結果に至るまでのモチベーションやバックグラウンド，建築観に関する資料はどう処理するか（難波）
- 第三者から見てわかるかどうかで決まりそうである（竹内）
- ・今回の議論をまとめ，修正し次回読み合わせる。（浜田）
- ・「指針」ではなく「指針案」とする。（桐原）
- ・備考などを設け，この表が独り歩きしないものとする。（竹内）

4. 5月開催のシンポジウムについて（竹内）

5月18日に開催されるシンポジウムについて全体の内容，進行について議論を行った。

- ・日時：5月18日，場所：法政大学市ヶ谷田町校舎5階マルチメディアホール
- ・主催か共催として法政大学の名前を設定すると無料で利用することができる。（浜田）
- ・構造設計者の紹介に関しては，どのような資料が残っているかではなく作品や考え方，それらが現在にどのようにつながっているか等を個人のエピソードを踏まえながら発表する。（竹内）
- ・5時間は長いので休憩の設定が重要である。（難波）
- ・ディスカッションの形ではなく，構造史のヴィジョンについて浜田が話しそれについて議論するのはどうか。（難波）
- ・アーカイブ活動と構造エンジニアの紹介，どちらに焦点を当てるのか（新谷）
- エンジニアの歴史の重要性を世の中に認識させなければならず，そのためにもまずは構造エンジニアに焦点を当てるべきである（難波）
- ・なぜこの10人なのか，どのような基準で残すのかななどの説明も必要ではないか（竹内）
- ・資料調査について，このシンポジウムを通じて，その動機付けとなり裾野が広がっていけばと思う。（満田）
- ・建築の通史は日本になく，構造の分野では満田氏，多田氏，浜田氏らの世代から大構造通史を作成するきっかけになればと思っている。（難波）
- ・川口先生の講演時間を削り序盤の導入に時間を回したらどうか。（難波）
- ・川口先生の体調も考慮しピンチヒッターの用意も必要であると思われる。斎藤先生に頼むのはどうだろうか。（竹内）
- ・調査対象者の実績よりも人となりやエピソードに重点を置いて説明するべきである。何か個人の特徴を表す資料が1，2個あると面白いかもしれない。（桐原）
- ・最後のディスカッションは調査した10人が感じたことについて，パネルディスカッションを行うのはどうだろうか。会場の終了時刻には余裕があるので，終わりが伸びる分には問題ないであろう。（難波）

決定事項

- ・それぞれのエンジニアの説明時間を一人当たり12分にする。
- ・オープニングを13:30～13:50とし，川口先生の講演を13:50～14:35とする。
- ・今回の議論による主旨の変更を踏まえて概要文を再度見直す。
- ・日本構造家倶楽部および法政大学の主催，近現代建築資料館の共催の方向で進める。
- ・川口先生のピンチヒッターとして，斎藤先生にも打診をしておく。
- ・後々の出版を考え，建築技術などメディアも呼ぶべきである。
- ・シンポジウムのタイトルは「日本の近代建築を支えた構造エンジニア ～残された資料を通じて～」と

する。

- ・ 内田先生の調査発表については、竹内主査が小澤氏に帰国を打診する。
- ・ 坪井先生の調査発表は中田氏に要請する。

5. 報告書の出版と来年度の展望について（竹内）

来年度予算を獲得できた場合の調査方針と調査結果の出版について実現性を加味して、これまでの議論を総合して方針を以下のように定めた。

出版に関して

- ・ 報告書自体は出版物にはなり得ないので、大幅に再編集する必要があるだろう。（竹内）
- ・ 10 人の資料からピックアップして 10 ページ程度にまとめる。（竹内）
- ・ 年表や系譜も書籍の後ろに載せ、全体は 100 ページ弱程度の量にしたい。（竹内）
- ・ 印刷は白黒とし、金額は学生でも手の出しやすい 2000 円程度を目指す。（竹内）
- ・ 来年度 5 月のシンポジウムは各出版社への出版企画の宣伝の側面ももつ。（浜田）

来年度の方針について

- ・ 構造史全体の通史の作成にも着手したい。（竹内）
- ・ 別の構造エンジニアの調査も随時行っていく必要がある。（竹内）
- ・ 組織やゼネコンに所属するエンジニアや現在調査中の 11 人と比較して若いエンジニアも調査対象に設定するべきではないか。（桐原）

→会社などに所属している人は資料が探しやすく、存命の方々も存命のうちに今回作成したフォーマットや記入シートを用いて調査を進めれば作業量も少なく終わるので検討を進めたい（竹内）

6. 次回までの課題及び予定

- ・ 次回は 2 月 22 日（金） 13 : 30 ～ 近現代建築資料館 2F 会議室
- ・ 次回までの課題
 1. 成果物に向けた調査シートの完成・新フォーマットへの記入（各委員）
 2. 2 月 18 日 9 : 00 までに浜田に調査シートを PDF データで提出する（各委員）
 3. シンポジウムの概要文の修正を行う（浜田）

以上

平成 30 年度 我が国の近現代建築に関わる構造資料の概要把握調査 調査ワーキンググループ（第 5 回） 議事録（案）

日 時：2019 年 2 月 22 日 13 時 00 分～16 時 00 分

場 所：近現代建築資料館 2 階会議室

出席者：桐原武志，藤本貴子，藤井愛（国立近現代建築資料館），難波和彦（同運営委員）

新谷真人，伊藤潤一郎，金箱温春，佐々木睦朗，竹内徹，多田脩二，満田衛資（日本構造家倶楽部），原田公明，安藤顕祐（日建設計），浜田英明，伊藤文明（記）（法政大学）

（※順不同，敬称略）

■打合せ概要

- ・ 最終報告書の確認
- ・ 「構造家」の定義について
- ・ 最終報告書（案）の内容について
- ・ 構造家・構造形式・構造技術の系譜，年表について
- ・ 調査対象者の最終調査報告
- ・ アーカイブ方針に関する提言
- ・ 来年度開催シンポジウムについて

■打合せ内容

0. 前回議事録の確認／浜田

前回の議事録の内容について説明を行い，本会議の議題などの確認をした。

1. 「構造家」の定義について（竹内）

本調査で取り上げた 11 人について，どのような呼称で呼ぶべきかを議論し定義づけた。

- ・ タイトルの「エンジニア」の部分を「エンジニア達」に変更すべきではないか。（難波）
- ・ 「構造家」，「構造エンジニア」，「構造デザイナー」などの用語の使い分けが難しい。
- ・ 構造家倶楽部が明確な定義付けを行う必要がある。
- ・ 今回の調査はエンジニアという側面に注目している。（竹内）

→「構造家」に研究者・学者・構造デザイナー・技術者という意味を含ませ広い概念としてここに定義する。

- ・ 「建築家」などの語句に対して対等な位置づけを獲得するのに適した呼び方ではないか。

→報告書の主語を構造家に書き換える。

→シンポジウムのタイトルも「構造家達」とする。

2. 最終報告書（案）の内容について（浜田）

本報告書（案）の完成に向け，進捗と合わせ内容について最終的な確認を行った。

(1) 一，二章について

- ・ 一，二章については完成済みである。

(2) 三章について

- ・ 年表では建築作品については受賞歴などをもとにピックアップ済みであるが，見やすくレイアウトする

作業が残っている。(浜田)

(3) 四章について

- ・各委員から送付されたものを集め編集し、ほとんど完成に近い状態である。(浜田)
- ・内藤多仲、松井源吾に関しては資料が膨大で編集が終わっていない。(浜田)

→顔写真などのデータを使用するため浜田に昨年のデータを送付する。

- ・公開できない資料はあるか？(竹内)

→坂、棚橋、武藤の資料に関しては公開不可の資料が存在する。

- ・各委員の名前と所属について、構造家倶楽部と大学名どちらを記載するか。

→構造家倶楽部に所属している者に関しては構造家倶楽部を記載し、その他のものは大学名を記載する。

→難波に関しては「運営委員」とする。

3. 構造家・構造形式・構造技術の系譜、年表について(浜田)

「近現代建築構造資料調査のための建築構造作品年表／系譜」を仮題として建築作品について受賞歴をもとに年表を作成し、作品の選出に際しての妥当性について議論を行った。

- ・「構造エンジニア」という語句を「構造家」に訂正し竹内から浜田に送付する。
- ・大阪万博、東京オリンピックに関する建物をもう少し取り上げてもよいかもしれない。
- ・現代までつなげると2ページ必要であり、昨年の成果と合わせもう少し内容を濃くする。
- ・各委員それぞれ確認し、訂正の指摘を浜田に送信する。
- ・受賞歴のみの選定ではどうしても偏りが出る。(桐原)
- ・年表下段には人名の系統図を帯状にして挿入する。(浜田)

4. 調査対象者の最終調査報告(各委員)

各委員より、調査対象者について資料調査の最終報告を行い、それぞれについて確認を行った。

(1) 佐野利器(多田)

- ・ヒアリングを行った公文書館を記載した。

(2) 内田祥三

- ・フォーマットに合わせ修正した。所有者は親族か？
- ・国立公文書館と東京都公文書館は異なる。

(3) 内藤多仲

- ・調査シートをフォーマットに合わせ修正する。(浜田)
 - ・資料が膨大で、一つ一つの資料への説明書きが追いついていない。(浜田)
- 取捨選択し編集する。耐震構造研究所と旧自邸をピックアップする。(伊藤)

(4) 武藤清(浜田)

- ・武藤について、前回からの誤字脱字などを修正した他は変更なし。
- ・小堀研究所のものに関しては、報告書に載せるのは可であるが、リストを含めて公開不可であった。もう一度、公開の要請をしてみる。

(5) 坪井善勝(原田)

- ・ほとんど完成に近い状態である。
- ・p.54の「日本建築学会賞大賞」を「日本建築学会大賞」に訂正する。

(6) 坂静雄・棚橋諒(満田)

- ・坂と棚橋について、経歴シートを作成した。
- ・チェックがついている資料については報告書としての記載は可であるが、公開不可である。
- ・p.81の写真は新規で追加されたもの。
- ・p.83に写真の掲載が抜けている。

→浜田にメールで送信する。

(7) 横山不学（金箱）

- ・前回とほとんど変わらず。
- ・p.86,p91はどちらも公開不可とする。
- ・構造計画の手がかりとなる、本人の特徴を表すメモなどを追加した。

(8) 松井源吾

- ・松井について、フォーマットに合わせて修正を行った。（浜田）
- ・O.R.Sの資料をベースに作成した。資料が膨大でどこに何があるかわからない状態であった。事務所を閉じるにあたって資料が整理された。（浜田）
- ・p.96,p.99を新しいフォーマットに書き換える。
- ・最終的な資料の所在についてフォーマットを作成すべきである。（竹内）

→8-1はそのまま、8-2は栗本鉄工所のものに、8-3はビーファームのものに変更し、O.R.Sのものは8-2の栗本鉄工所のものに含むこととする。（伊藤）

(9) 松下富士夫（竹内）

- ・最終版として完成済みである。

(10) 木村俊彦（浜田）

- ・横山事務所時代のものを10-1、近現代建築資料館に所在があるものを10-2としている。
- ・10-2は新しいフォーマットに合わせ編集済み。
- ・10-2に関しては現段階では部分的に公開不可となっているが、寄贈するか確定次第、公開可となる。
- ・「建築学会賞」だけでは作品なのか論文なのか分からないので明記すべき。（佐々木）

5. アーカイブ方針に関する提言（浜田）

第4回会議にて作成したたたき台について議論された部分について修正したものを作成し、その説明を行い、再度方針などについて議論を行った。

- ・○は現物保存、×は現物保存を推奨するがデジタル保存でも良いというニュアンスに変更した。
- ・研究活動という項目を作成し、ノート、メモ、発表論文も保存の対象とした。
- ・対象者の個性を示すものという項目も作成した。
- ・ネガフィルムはデータ化しデジタル保存する。
- ・工事関係書類に項目を立ててスライドを追加する。分類としては×とする。
- ・実験関係の写真はデジタル化し保存することを推奨とする。

6. 来年度開催シンポジウムについて（浜田）

来年度に開催を予定しているシンポジウムについて、第4回会議での議論を踏まえて内容を検討し修正を加えたものについて説明し、再度議論を行った。また、各メディアや団体の招待についても議論を行った。

- ・「明治」を「明治時代」に修正する。（難波）

- ・川口先生の講演を短くし竹内のオープニングを長くする。
 - ・11人の構造家についてのそれぞれの発表時間は1組あたり12分とした。
 - ・発表者について内田は川口健一氏に坪井は中田氏に変更した。
 - ・ディスカッションについては、モデレーターの設定が必要。
 - ・テーマとしては、構造が建築をどう変えてきたか、というものが良いのではないか。(難波)
- p.15を見ながら全体を俯瞰してディスカッションを進めていくのが良いのではないか。(竹内)
- ・来場者にも手元資料としてパンフレットを配布する。プリント代は大学予算で賄える可能性が高い。(浜田)
 - ・ディスカッションとまとめを統合するのもよさそうである。(難波)
 - ・フライヤーを早急に作成、配布し来場者を集めたほうが良いのではないか。(桐原)
 - ・ポスターセッションのように会場に主な建物の現物の図面や写真などをパネル展示できると面白そうである。(桐原)
 - ・木村資料以外にもそのような資料が集まるとバランスが良いのではないか。(竹内)
 - ・諸団体の招待について、日本建築学会には竹内が通知する。JSCAには金箱が通知する。JIAには桐原から通知する。
 - ・メディアの招待について、新建築、建築技術などを検討する。
 - ・無料で開催は人が集まりすぎてしまう可能性があるため、パンフレット代やパネル作成費などの実費などを取っても良いのではないか。(竹内)
- 協賛の関係より有料で開催するのは難しい。(浜田)
- ・事前の人数把握は行わずに、立ち見なども利用して調整を行うこととする。(浜田)

7. 最終報告書の製本について

- ・製本については、公開用と全内容が載っているものを用意する。(桐原)
- ・調査先にはお礼状を添えて公開用のものを送付するのが良いであろう。(竹内)
- ・各委員にはPDF版と紙媒体で配布し、国会図書館に7部、資料館に2部配布する。(桐原)

8. 次回会議の予定と来年度の調査について

- ・開催候補日を3/23、3/25の13:00～16:00とする。
- ・来年度は今年度と同じように文化庁に申請を行い、出版や調査する対象の拡大に伴う人選などの議論を中心に進めていく。

以上